

# 教育に関するアンケート調査結果

長野県教育委員会事務局教育総務課  
平成 24 年 5 月

# 目 次

I 調査概要	1
II 調査結果概要	2
1 教員の勤務実態について（小中学校）	2
（1）勤務日の状況	2
（2）休日の状況	8
2 教員の意識調査について	12
（1）教員の仕事の満足感、負担感について	12
（2）忙しさを感じる業務について	15
（3）忙しさや負担感を解消するための手段について	17
（4）学校全体の特徴について	19
（5）教員が力をつけたいと思っていることやそのための手段について	20
（6）教員の授業スキル向上等のために県として必要な施策について	23
（7）学力向上のために必要なことについて	25
（8）児童生徒の通知票のつけ方について	27
（9）定期試験等の問題作成方法について	29
（10）全国学力・学習状況調査について	31
（11）心がけている授業時間の使い方・進め方について	33
（12）心がけている授業内容について	35
（13）心がけている授業方法について	37
（14）児童・生徒の学習意欲を高めるための工夫について	39
（15）家庭学習の改善すべき課題について	40
（16）学校での体力向上について	41
3 保護者の意識調査について	42
（1）学校と地域・保護者との関係性について	42
（2）子どもの将来の可能性について	43
（3）学校の満足度について	45
（4）高等学校の選択理由について	46
（5）全国学力・学習状況調査について	47
（6）保護者の求める授業イメージについて	48
4 教員と保護者の意識調査の比較について	49
（1）保護者・地域との連携や学校支援について	49
（2）授業以外で教員がやるべきことについて	52
（3）教員があまりやらなくても良いことについて	55
（4）学校教育等身につける必要性が高い能力や態度について	58
（5）どのような子どもたちが増えてほしいか	66
（6）子どもたちの体力向上について	68
III 調査票	71

# I 調査概要

## 1 調査目的

第2次長野県教育振興基本計画（平成25年度から平成29年度）の策定に当たり、教育施策の現状や課題、望ましい教育の姿について、県民等からの意見を把握し、新たな計画の施策へ反映を図る必要がある。

このため、県内の公立小学校、中学校、高等学校の児童生徒の保護者、教員に対して、教育に関する意識及び勤務実態等についてアンケート方式により調査を実施する。

## 2 調査種類と調査対象

(1) 調査地域 長野県全域

(2) 調査時期 平成23年11月下旬～平成24年1月上旬

(勤務実態調査は、11月28日（月）から12月4日（日）の1週間)

(3) 調査種類と対象

調査種類	対象数
①教員勤務実態調査	県内の公立小・中学校の教員 計 2,204人（抽出率 約18%）
②教員意識調査	県内の公立小・中・高等学校の教員 計 3,007人（抽出率 約18%）
③保護者意識調査	県内の公立小・中・高等学校の児童生徒の保護者（小学校は2,4,6年生、中学校・高等学校は各学年約1,200人） 計 10,976人（抽出率 約6%）

(4) 抽出方法

県内の公立小学校、中学校、高等学校から学校立地場所、地域、学科等のバランスを考慮して抽出し149校（小学校：69校、中学校40校、高等学校：40校）に協力を依頼した。

a 小学校教員 調査協力校のすべての本務教員（※）

b 中学校教員 調査協力校のすべての本務教員

c 高等学校教員 調査協力校の調査対象者数が約800人（全県の教員数の約20%）となるように、各校の本務教員数により各校・各学科別に調査対象者数を按分し、実際の調査対象者は各校・学科ごとに無作為に抽出

d 保護者 調査協力校の調査対象者数が各学年約1,200人になるように、各校の児童生徒数により調査対象者数を按分し、実際の調査対象者は学校・学年毎に無作為に抽出

※「本務教員」の範囲：校長、教頭、教諭、講師（常勤）、養護教諭（養護助教諭含む）、栄養教諭

(5) 調査方法

調査協力校に、各対象者数分の調査票を送付し、教員及び保護者への配布を依頼した。回収は、回収用封筒（密封）を学校へ提出してもらい、学校からまとめて回収した。

## 3 回答者数と回収率

調査種類	回答者数
①教員勤務実態調査	回答者数：1,933人（回答率：88%）
②教員意識調査	回答者数：2,666人（回答率：89%）
③保護者意識調査	回答者数：10,044人（回答率：92%）

※無作為に抽出したために、教員の未回答者の中には退職者や派遣者等も含まれている。

## 4 結果数値の見方

(1) 結果数値（%）は小数点以下第2位又は第3位を四捨五入して算出した。なお、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。

(2) 図表中の「N」とは回答者総数である。

## Ⅱ 調査結果概要

### 1 教員の勤務実態について（小中学校）

#### （1）勤務日の状況

##### ポイント

長野県の教員の勤務日1日当たりの平均残業（時間外勤務 ※1）時間は持ち帰り（※2）時間も含めて2時間25分で、平成18年度の全国調査とほぼ同様の状況となっている。特に、教頭は約4時間の平均残業時間（持ち帰りも含む）がある。また、業務内容では、学校経営に関わる業務（※3）に携わっている時間が全国よりも長い。

※1 残業……勤務日の出退勤時刻の内正規の勤務時間以外で行われた業務及び休日の出退勤時刻の内に行った業務

※2 持ち帰り……勤務日及び休日での出勤時刻前、退勤時刻後に学校以外で行われた業務のこと

※3 学校経営に関わる業務……学校の運営に関わる業務のうち校務分掌に関わる業務、安全点検、校内巡視、校舎環境整備など

#### ①全体的な残業時間・持ち帰り時間の状況

- ◆勤務日の1日あたりの平均残業時間は、小学校1時間50分、中学校2時間14分となっている。また、勤務日の持ち帰り時間は、小学校29分、中学校20分となっており、これらを合わせた時間は、小学校2時間19分、中学校2時間34分となっている。
- ◆これは、平成18年度に実施された文部科学省の全国の教員勤務実態調査（以下Ⅱの1において「全国調査」という。）の同時期（11月下旬から12月中旬）と比較して、ほぼ同様の結果となっている。
- ◆また、昭和41年度の教員の全国調査（1ヶ月約8時間/20日間＝約24分）と比較して、残業時間が1時間半から2時間程度の増加となっており、長期的に見て、教員の多忙化が進んできている。

表1-1 勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校（N=1,154）	1時間50分	29分	2時間19分
中学校（N= 779）	2時間14分	20分	2時間34分
全 体（N=1,933）	2時間	25分	2時間25分

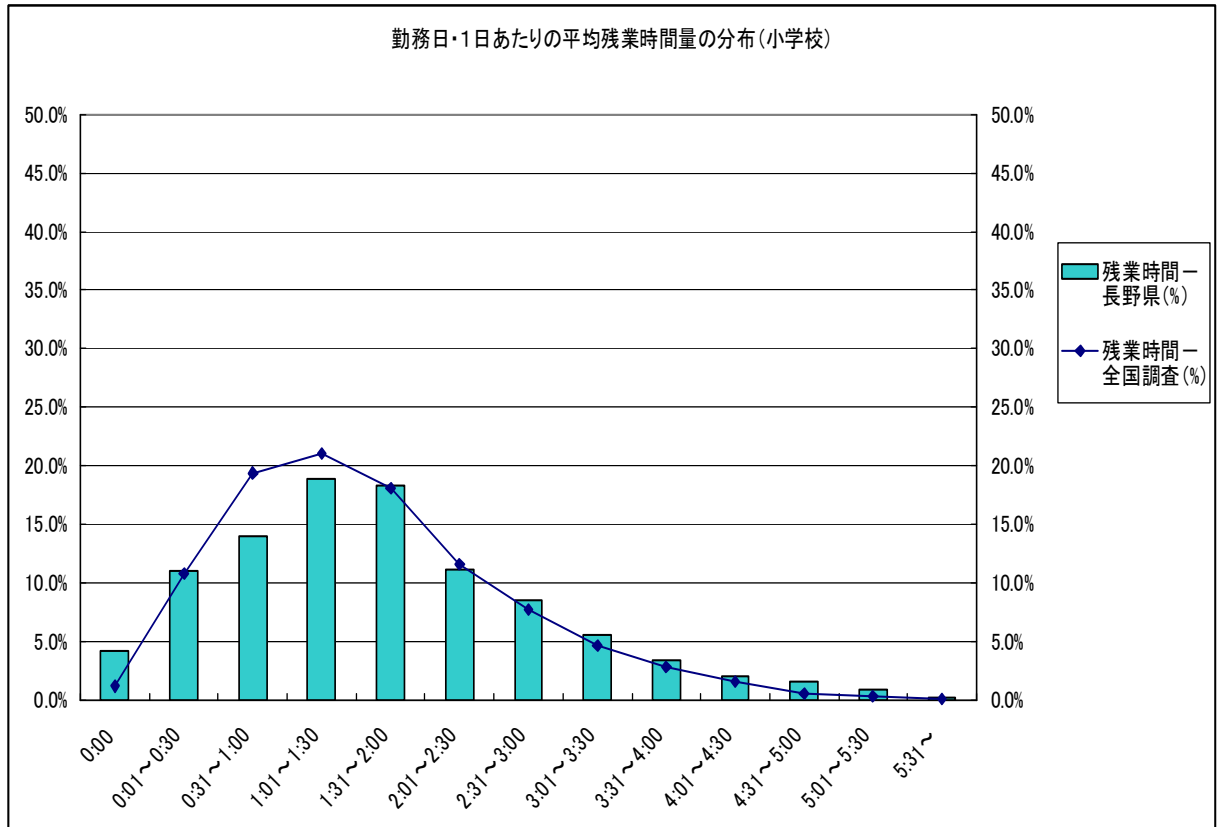
《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期（11/20～12/17）勤務日》

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校	1時間36分	38分	2時間15分
中学校	2時間08分	24分	2時間32分
全 体	1時間53分	30分	2時間24分

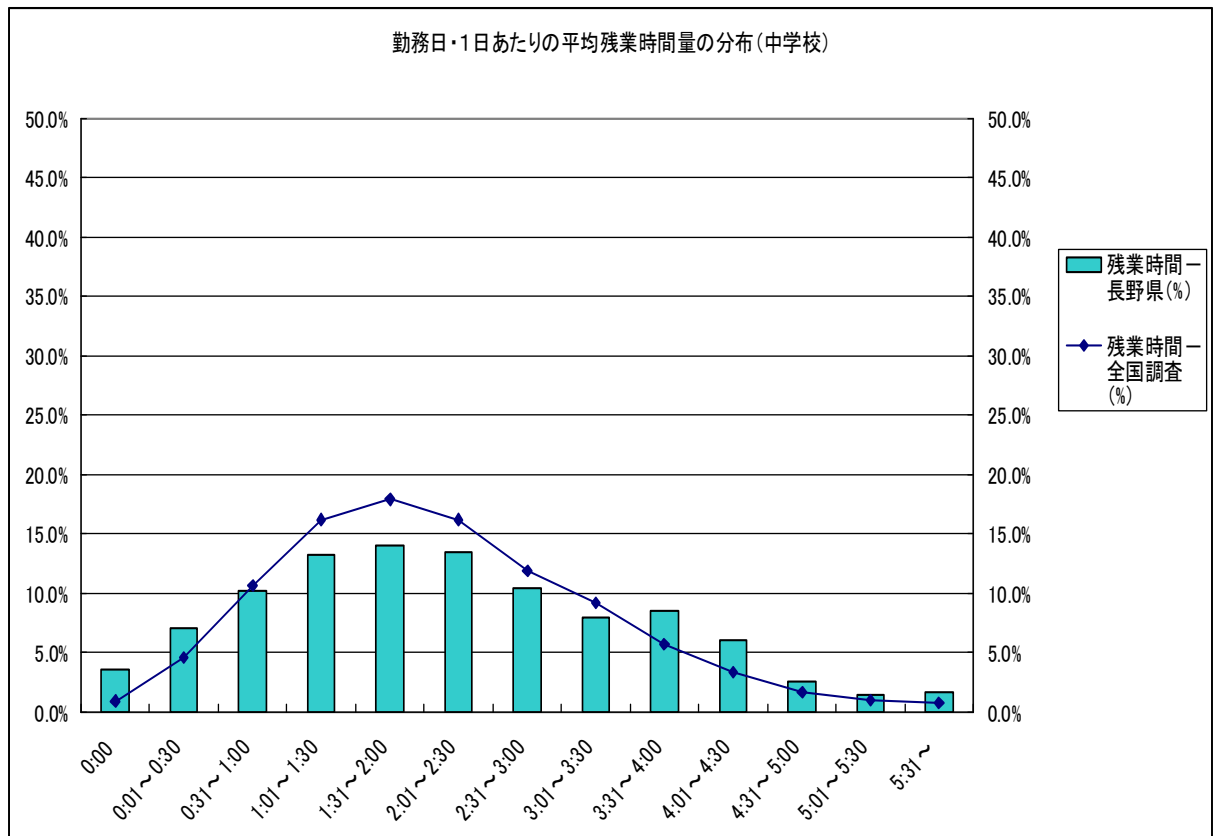
#### ②教員1人あたりで見た残業時間・持ち帰り時間の状況

- ◆教員1人あたりの平均残業時間、持ち帰り時間量の分布を見てみると、全員が一様に残業や持ち帰り仕事を行っているわけではなく、教員間での差が大きい状況となっている。
- ◆分布の最も多い時間帯は、残業時間について、小学校が1時間から1時間30分、中学校が1時間31分から2時間となっており、全国調査と同じ時間帯となっている。ただし、長野県の方が全体的な分布状況がなだらかなものとなっており、全国よりも教員間の差が大きいことが伺える。
- ◆また、持ち帰り時間については、小学校、中学校で0分が最も多くなっており、全国調査と比較すると、持ち帰りをしていない教員の割合が高いことが特徴となっている。

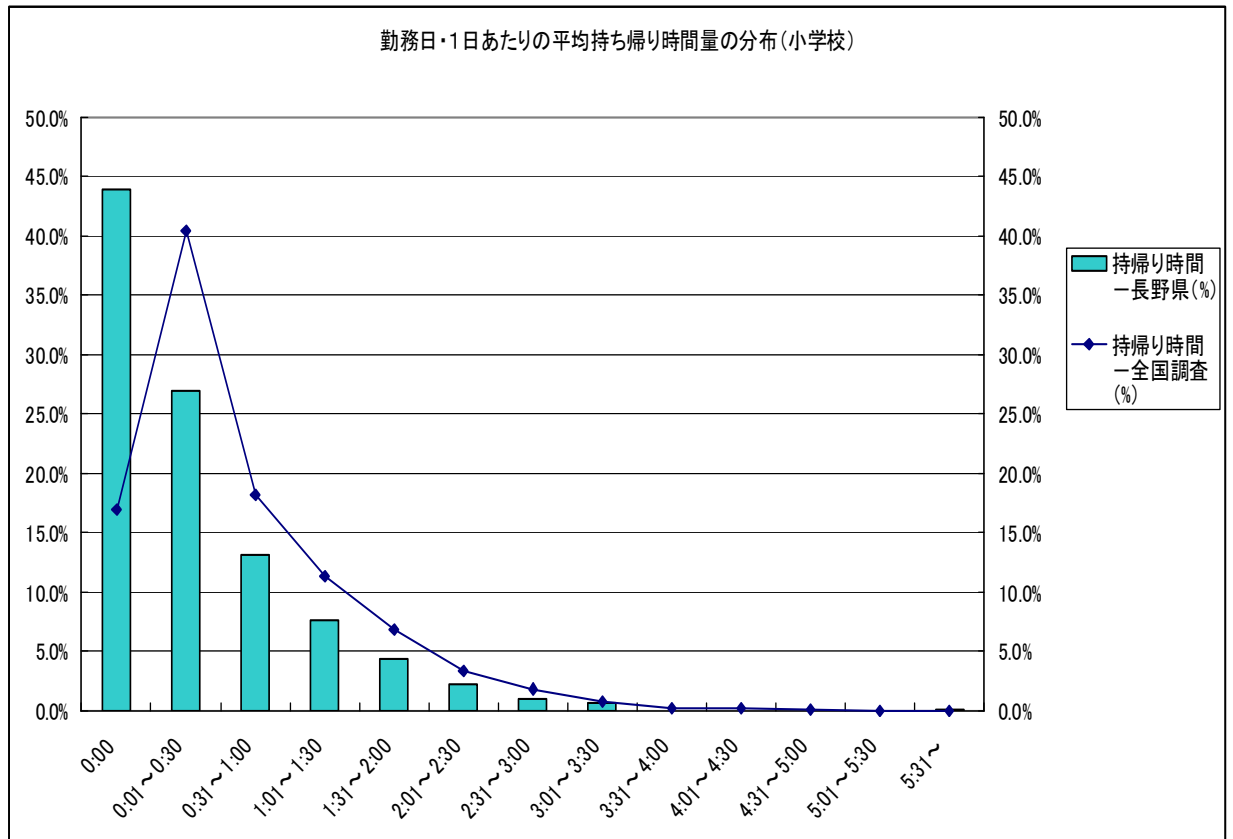
グラフ1-1 勤務日・1日あたりの平均残業時間量の分布（小学校） N=1,154



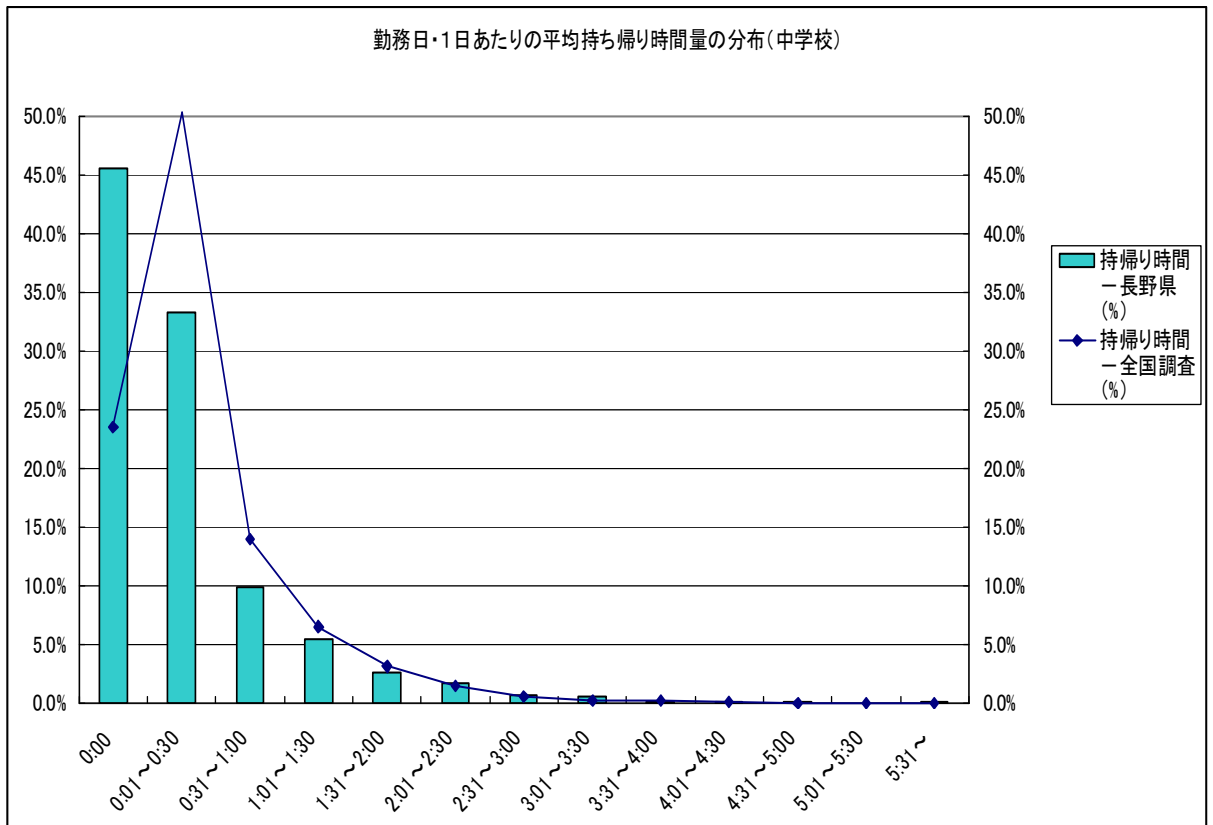
グラフ1-2 勤務日・1日あたりの平均残業時間量の分布（中学校） N=779



グラフ1-3 勤務日・1日あたりの平均持ち帰り時間量の分布（小学校） N=1,154



グラフ1-4 勤務日・1日あたりの平均持ち帰り時間量の分布（中学校） N=779



③業務内容の状況

- ◆業務の内容を見てみると、「授業準備」や「成績処理」に携わっている時間が長い。また、全国と比較すると、「成績処理」の時間が短く、「学校経営」に関わる業務の時間が長くなっている。「学校経営」については、教員の意識調査においても全国と比較して負担感が大きくなっており、長野県の学校での特徴となっている。
- ◆中学校において「部活動・クラブ活動」(4分)が全国と比較して少なくなっているが、長野県の特徴として、「社会体育」の時間(5分)も比較的長く、両方をあわせた時間は概ね全国の「部活動・クラブ活動」の時間数(9分)と同様となっている。

表1-2 勤務日の平均残業時間における業務内訳(上位5項目)

	小学校		中学校		全体	
1	授業準備	22分	成績処理	33分	成績処理	24分
2	成績処理	18分	授業準備	25分	授業準備	23分
3	学校経営	15分	学校経営	15分	学校経営	15分
4	事務・報告書作成	11分	事務・報告書作成	9分	事務・報告書作成	10分
5	会議・打ち合わせ	8分	会議・打ち合わせ	9分	会議・打ち合わせ	9分

表1-3 勤務日の平均持ち帰り時間における業務内訳(上位5項目)

	小学校		中学校		全体	
1	授業準備	10分	成績処理	5分	授業準備	8分
2	成績処理	8分	授業準備	5分	成績処理	7分
3	その他校務	3分	学校経営	2分	校外での会議	2分
4	校外での会議	3分	校外での会議	2分	事務・報告書作成	2分
5	学年・学級通信の作成	3分	事務・報告書作成	2分	その他校務	2分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20～12/17)  
勤務日の平均残業時間における業務内訳(上位5項目)》

	小学校		中学校		全体	
1	授業準備	22分	成績処理	31分	成績処理	26分
2	成績処理	21分	授業準備	19分	授業準備	21分
3	事務・報告書作成	9分	会議・打ち合わせ	11分	事務・報告書作成	10分
4	学校経営	7分	事務・報告書作成	11分	会議・打ち合わせ	9分
5	会議・打ち合わせ	7分	部活動・クラブ活動	9分	学校経営	8分

勤務日の平均持ち帰り時間における業務内訳(上位5項目)

	小学校		中学校		全体	
1	成績処理	16分	成績処理	10分	成績処理	13分
2	授業準備	11分	授業準備	5分	授業準備	7分
3	学年・学級経営	2分	事務・報告書作成	1分	事務・報告書作成	2分
4	事務・報告書作成	2分	その他校務	1分	学年・学級経営	2分
5	その他校務	1分	学年・学級経営	1分	その他校務	1分

【質問紙で使用した業務内容の選択肢】

児童生徒の指導に関わる業務	a	朝の業務	朝打合せ、朝学習・朝読書、朝の会、朝礼など
	b	授業	教科・道徳・総合的な学習の時間の授業など
	c	授業準備	指導案作成、教材研究・教材作成、授業の打ち合わせ、総合的な学習の時間や体験学習の準備など
	d	学習指導	学習指導（補修指導、個別指導）質問への対応等
	e	成績処理	成績処理に関わる事務、試験問題作成、採点、評価、提出物の確認、コメントの記入など
	f	生徒指導（集団）	登下校指導、安全指導、生徒指導など
	g	生徒指導（個別）	個別の面談、進路指導、生活相談、カウンセリング、課題を抱えた児童・生徒の支援など
	h	部活動	部活動、クラブ活動、対外試合の引率など
	i	児童会・生徒会指導	児童会・生徒会・委員会活動など
	j	学校行事	学校行事の準備（遠足旅行的行事、学校行事、保健安全的行事、体育的行事など）
	k	学年・学級経営	連絡帳、生活記録の記入
	l		学年・学級通信の作成
	m		学級活動（学活・ホームルーム）、掲示物作成、教室環境の整備、備品の整理など
学校の運営に関わる業務	n	学校経営	校務分掌に関わる業務、安全点検、校内巡視、校舎環境整備など
	o	会議・打ち合わせ	会議、学年会、教科会、成績会議など
	p	事務・報告書作成	調査統計、校長・教委への報告書、学校運営に関わる書類、予算・費用処理に関わる書類、部下職員の評価、自己目標の設定など
	q	徴収金徴収	給食費などの学校徴収金の徴収
	r	校内研修	校内研修、校内の研究会・勉強会、学年研究会など
外部対応	s	保護者・PTA対応	保護者会、保護者との面談や電話連絡、家庭訪問、PTA会議、ボランティア対応など
	t	地域対応	町内会、地域住民への対応・会議、地域への協力活動など
	u	社会体育	社会体育・社会教育活動への講師、指導者としての活動など
	v	行政・関係団体対応	教育委員会関係者、保護者・地域住民以外の学校関係者、来校者（業者・校医など）の対応など
校外	w	校務としての研修	校務としての研修、出張を伴う研修、各種団体による研修など
	x	会議	会議、打ち合わせ、出張を伴う研修など
他	y	その他校務	上記に分類できないその他の残業

④属性別の状況

- ◆教員の属性別では、「教頭」の平均残業時間（持ち帰りも含む）が4時間1分と最も長く、全国調査と比較しても、約50分長くなっている。次いで「教諭」、「講師」、「校長」、「養護教諭」の順となっている。
- ◆また、主任等の分担別では、「教務主任」が2時間54分と長い。
- ◆部活動の顧問の分担別では、「部活動の正顧問」が2時間50分と長い。
- ◆学級担任、学級の児童・生徒数の状況別では、学級の児童・生徒数の多い教員ほど、平均残業時間が長く、36人以上の学級担任では、3時間3分と長い。

表1-4 教員の職種別勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

職種	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
校長 (N=104)	1時間20分	17分	1時間37分
教頭 (N=104)	3時間49分	12分	4時間 1分
教諭 (N=1,285)	2時間 4分	30分	2時間34分
講師 (N=266)	1時間48分	20分	2時間 8分
養護教諭 (N=86)	48分	14分	1時間 2分

※この他にその他の職種あり



表1-5 教員の主任等分担状況による勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

主任等	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
教務主任 (N=103)	2時間29分	25分	2時間54分
生徒指導主任 (N=92)	1時間48分	33分	2時間21分
進路指導主任 (N=37)	2時間10分	27分	2時間37分
保健主任 (N=92)	1時間 5分	22分	1時間27分
研究主任 (N=141)	2時間	37分	2時間37分
庶務主任 (N=16)	1時間53分	14分	2時間 7分
学年主任 (N=369)	2時間 1分	37分	2時間38分
特別支援教育コーディネータ (N=103)	1時間53分	21分	2時間14分
その他主任 (N=497)	1時間58分	27分	2時間25分

※兼務している場合も、それぞれの主任の区分で平均値を計算

表1-6 部活動顧問(中学校)の状況による教員勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

職 種	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
部活動正顧問 (N=362)	2時間27分	23分	2時間50分
部活動副顧問 (N=257)	2時間12分	18分	2時間30分
顧問なし (N=120)	1時間46分	16分	2時間 2分

表1-7 担任の有無及び学級人数による教員勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

職 種	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
担任あり (N=1,159)	2時間 4分	30分	2時間34分
36人以上 (N=134)	2時間44分	19分	3時間 3分
26人~35人 (N=555)	2時間16分	33分	2時間49分
16人~25人 (N=212)	1時間43分	36分	2時間19分
15人以下 (N=258)	1時間35分	22分	1時間57分
担任なし (N=626)	1時間57分	18分	2時間15分

## (2) 休日の状況

### ポイント

休日1日当たりの平均残業時間は持ち帰りも含めて2時間38分で、特に中学校の部活動・クラブ活動が非常に多くなっている。

#### ①全体的な残業時間・持ち帰り時間の状況

◆休日(※)の1日あたりの平均残業時間は、小学校23分、中学校1時間37分となっている。また、休日の持ち帰り時間は、小学校1時間49分、中学校1時間39分となっており、これらを合わせた時間は、小学校2時間12分、中学校3時間16分となっている。これは、平成18年度に実施された文部科学省の全国の教員勤務実態調査の同時期(11月下旬から12月中旬)と比較して、小学校で1分短く、中学校で11分長い状況となっている。

※ 休日……土日に限らず学校に出勤しなくてもよい日(振替休日なども含む、出勤の有無を問わない)とし、全国調査の定義と合わせている。

表1-8 休日・1日あたりの平均残業時間量・持ち帰り時間量

	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校(N=1,154)	23分	1時間49分	2時間12分
中学校(N=779)	1時間37分	1時間39分	3時間16分
全体(N=1,933)	53分	1時間45分	2時間38分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20~12/17) 休日》

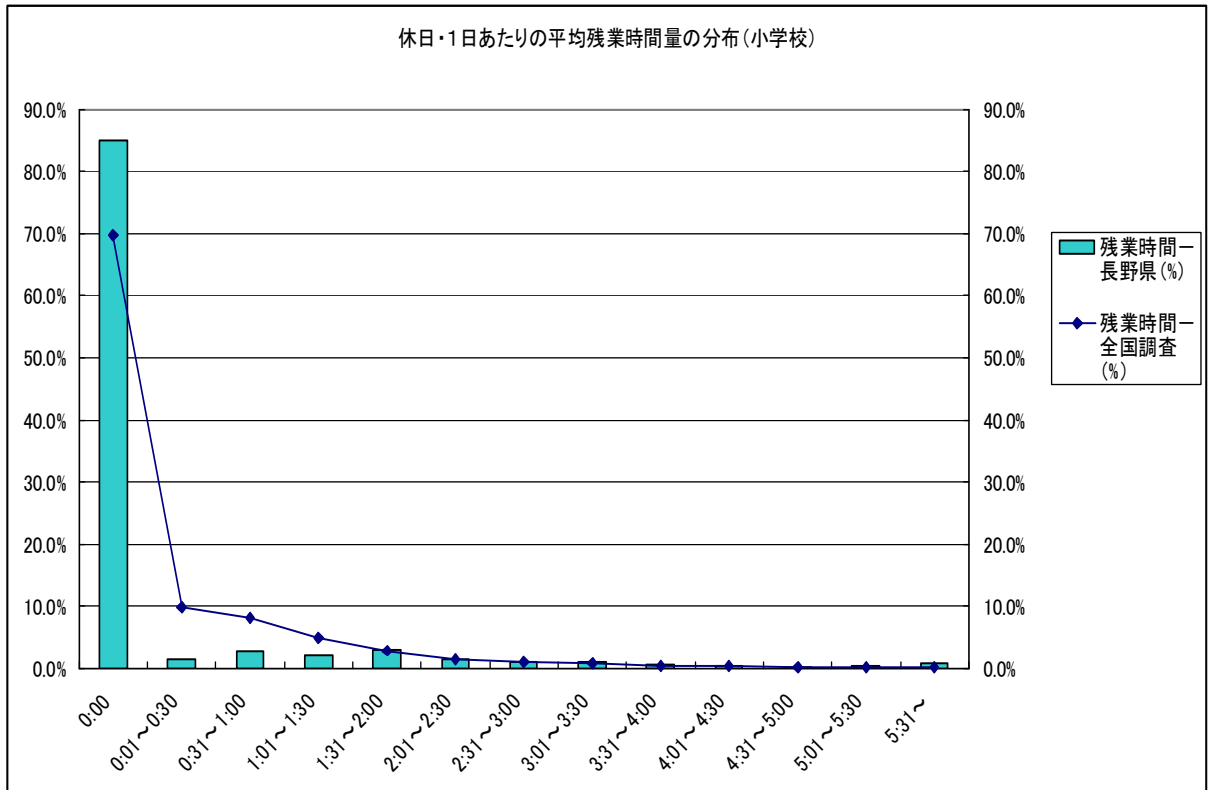
	残業時間量	持ち帰り時間量	残業時間+持ち帰り時間
小学校	20分	1時間53分	2時間13分
中学校	1時間13分	1時間51分	3時間5分
全体	49分	1時間52分	2時間41分

#### ②教員一人あたりで見た残業時間・持ち帰り時間の状況

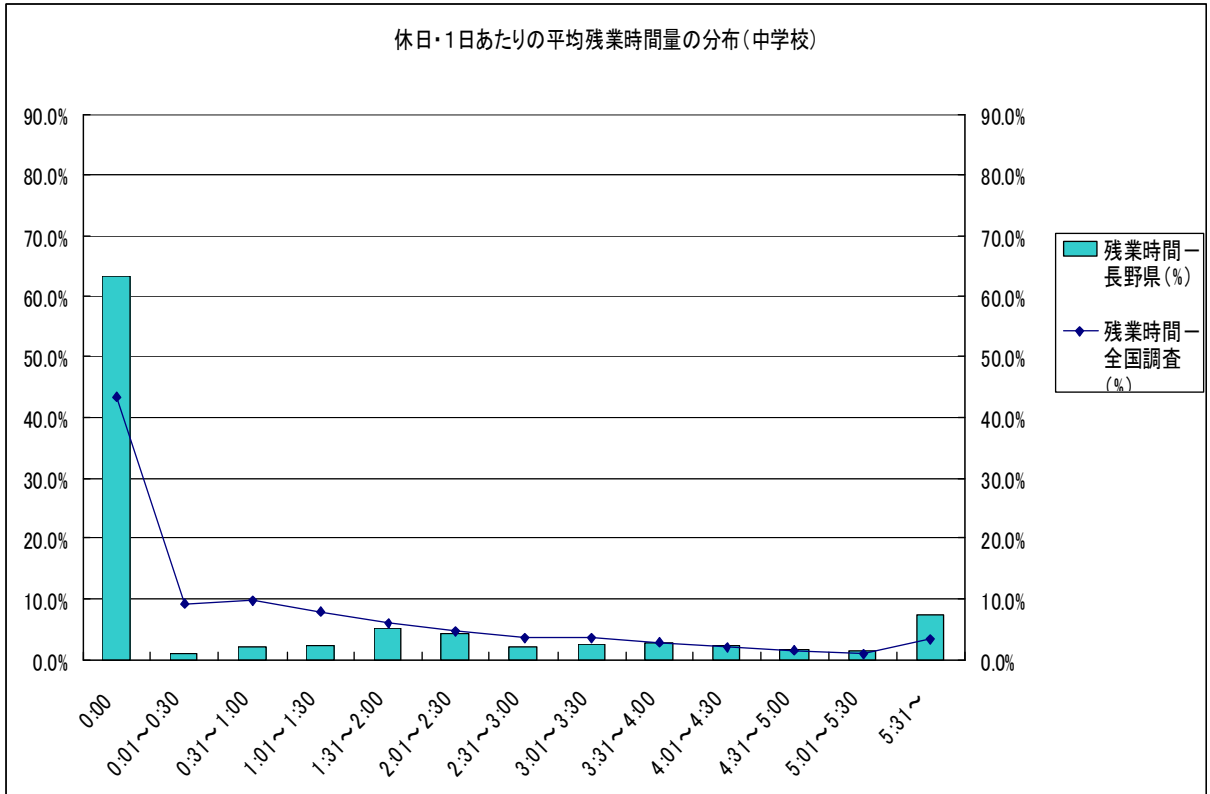
◆分布の最も多い時間帯は、残業時間については、小・中学校ともに、0分となっており、全国調査と同じ時間帯となっている。ただし、長野県の方が全体的な分布状況がなだらかなものとなっており、全国よりも教員間の差が大きいことが伺える。

◆また、持ち帰り時間についても、小学校、中学校で0分が最も多くなっており、全国調査と比較すると、持ち帰りをしていない教員の割合が高いことが特徴となっている。

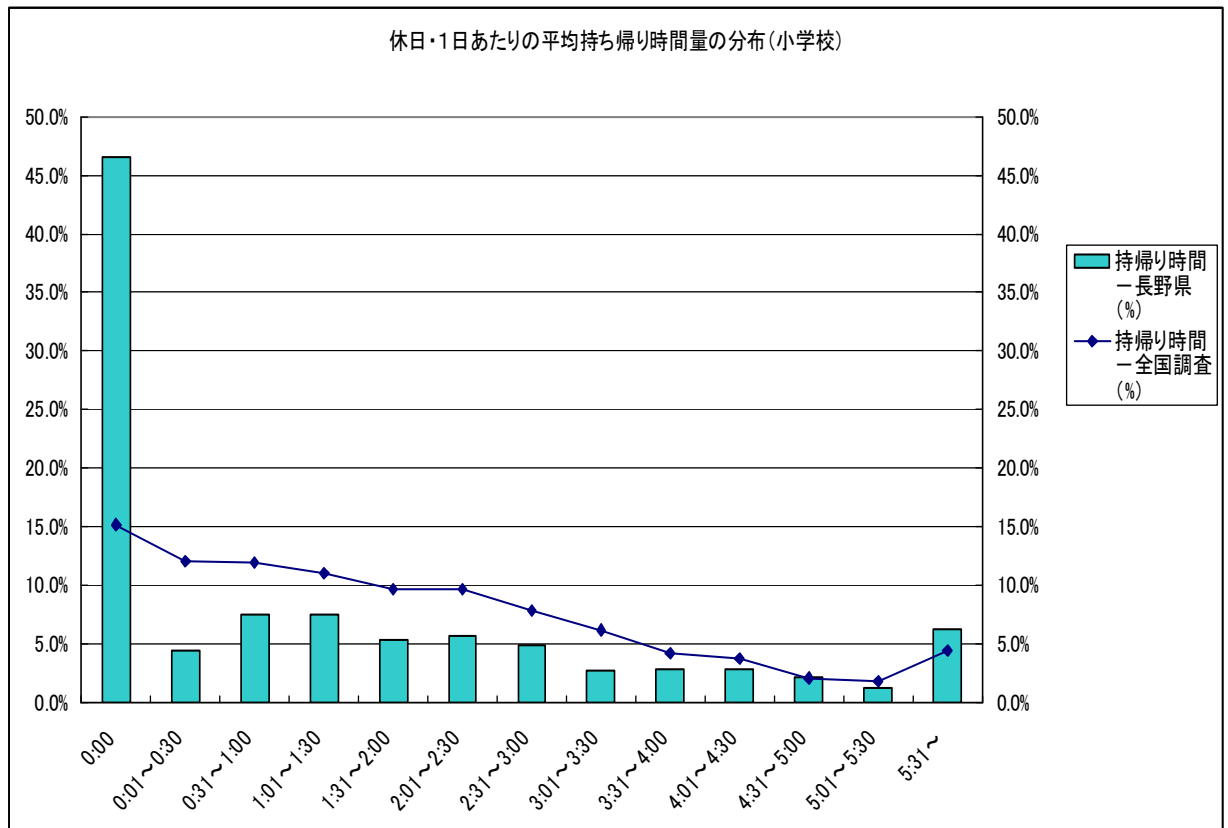
グラフ1-5 休日・1日あたりの平均残業時間量の分布（小学校） N=1,154



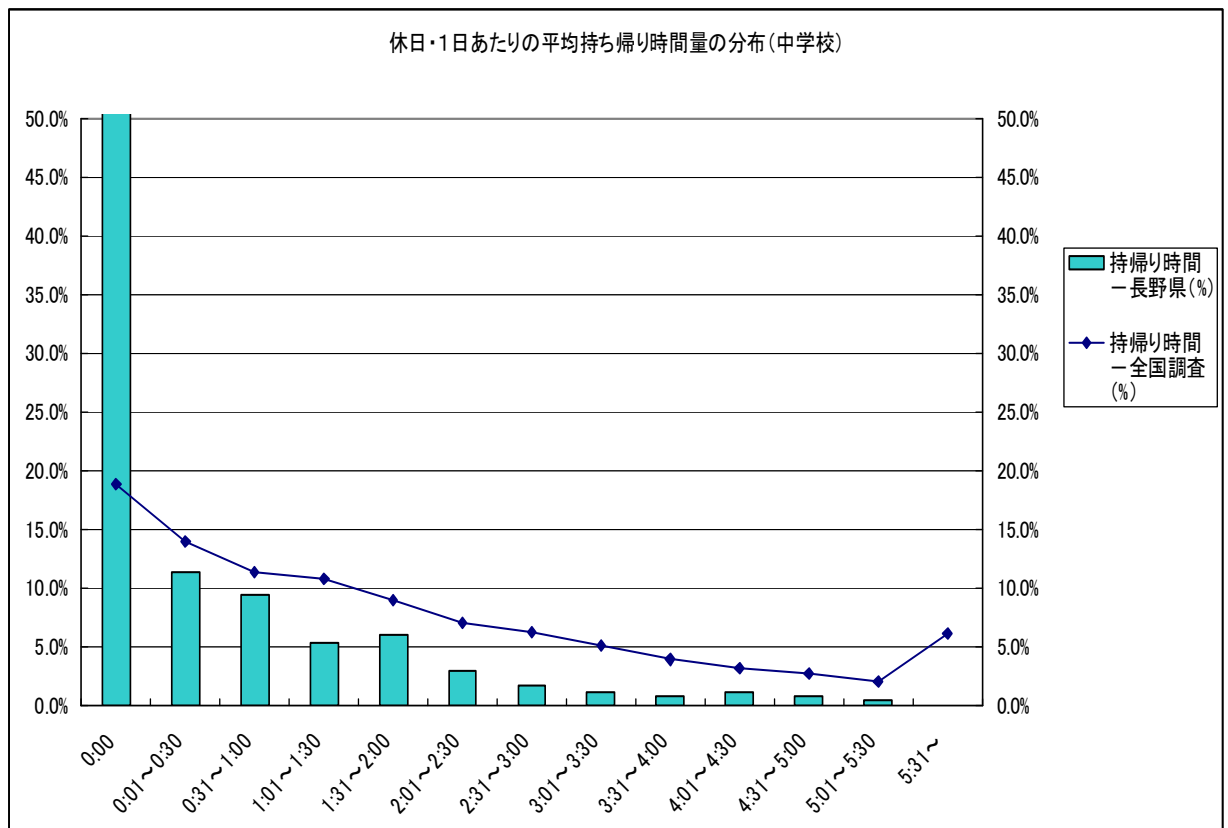
グラフ1-6 休日・1日あたりの平均残業時間量の分布（中学校） N=779



グラフ1-7 休日・1日あたりの平均持ち帰り時間量の分布（小学校） N=1,154



グラフ1-8 休日・1日あたりの平均持ち帰り時間量の分布（中学校） N=779



③業務内容の状況

- ◆業務の内容をしてみると、「成績処理」「部活動・クラブ活動」が長いことは、全国調査と同程度である。また、長野県の独自選択項目としての「社会体育」が内容として比較的長くなっている。

表1-9 休日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校		中学校		全体	
1	成績処理	9分	部活動・クラブ活動	43分	部活動・クラブ活動	18分
2	授業準備	2分	成績処理	11分	成績処理	10分
3	学校経営	2分	社会体育	9分	社会体育	4分
4	部活動・クラブ活動	1分	授業準備	4分	授業準備	3分
5	事務・報告書作成	1分	その他校務	4分	その他校務	2分

表1-10 休日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校		中学校		全体	
1	成績処理	47分	部活動・クラブ活動	23分	成績処理	33分
2	授業準備	15分	社会体育	18分	授業準備	12分
3	事務・報告書作成	4分	成績処理	14分	部活動・クラブ活動	10分
4	その他校務	4分	授業準備	7分	社会体育	9分
5	学校経営	3分	その他校務	5分	事務・報告書作成	4分

《参考：文部科学省 平成18年度教員勤務実態調査 第6期(11/20～12/17)

休日の平均残業時間における業務内訳（上位5項目）》

	小学校		中学校		全体	
1	成績処理	5分	部活動・クラブ活動	46分	部活動・クラブ活動	25分
2	授業準備	3分	成績処理	10分	成績処理	7分
3	保護者・PTA 対応	2分	授業準備	3分	授業準備	3分
4	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	2分
5	その他校務	1分	その他校務	2分	保護者・PTA 対応	2分

休日の平均持ち帰り時間における業務内訳（上位5項目）

	小学校		中学校		全体	
1	成績処理	56分	成績処理	38分	成績処理	46分
2	授業準備	24分	部活動・クラブ活動	35分	部活動・クラブ活動	19分
3	事務・報告書作成	8分	授業準備	12分	授業準備	18分
4	学年・学校経営	6分	事務・報告書作成	6分	事務・報告書作成	7分
5	その他校務	4分	その他校務	4分	学年・学校経営	4分

## 2 教員の意識調査について

### (1) 教員の仕事の満足感、負担感について

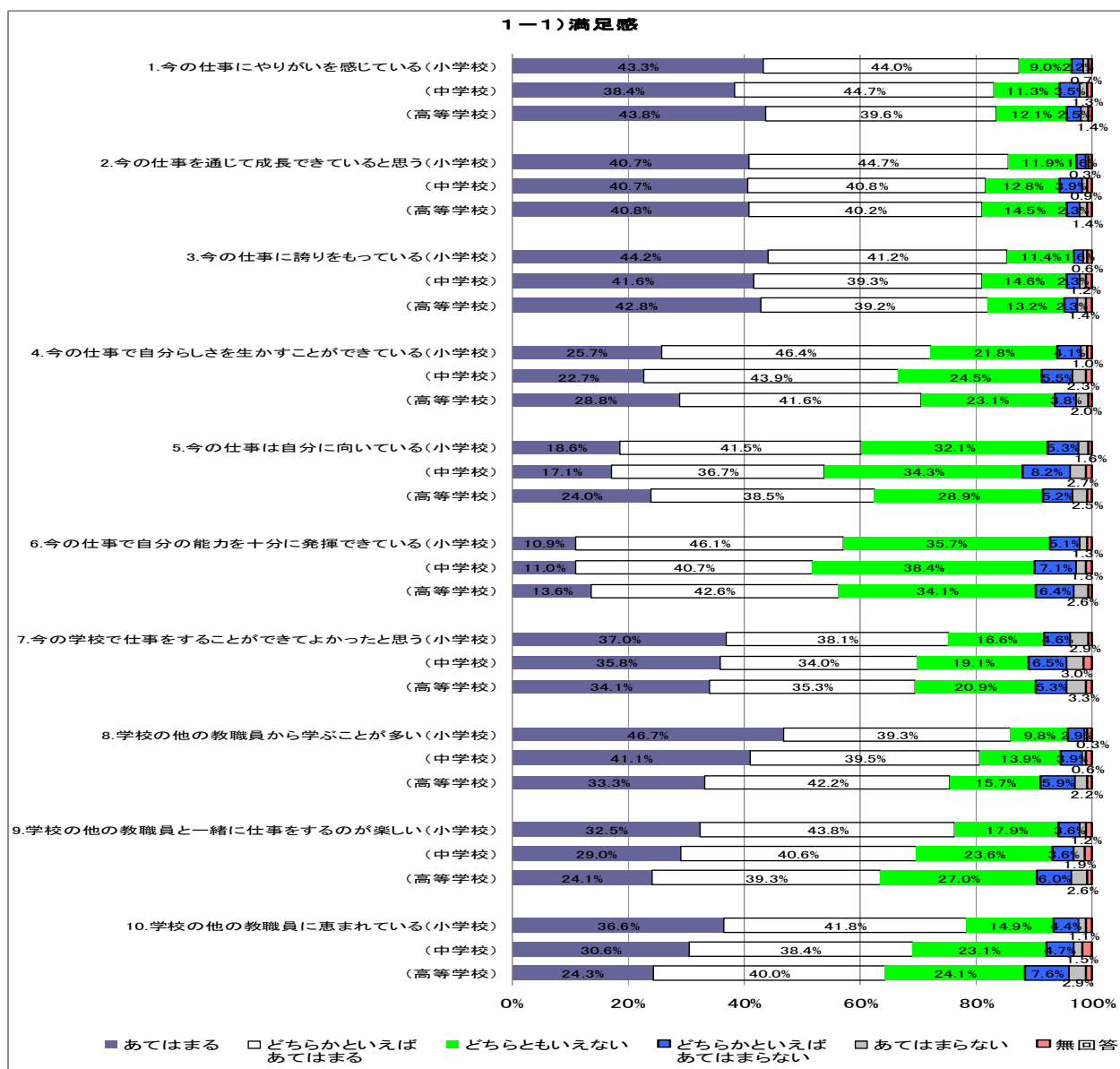
#### ポイント

仕事に対する充実感や適応感が高い一方で、仕事の量に対する負担感が高い傾向が見られる。

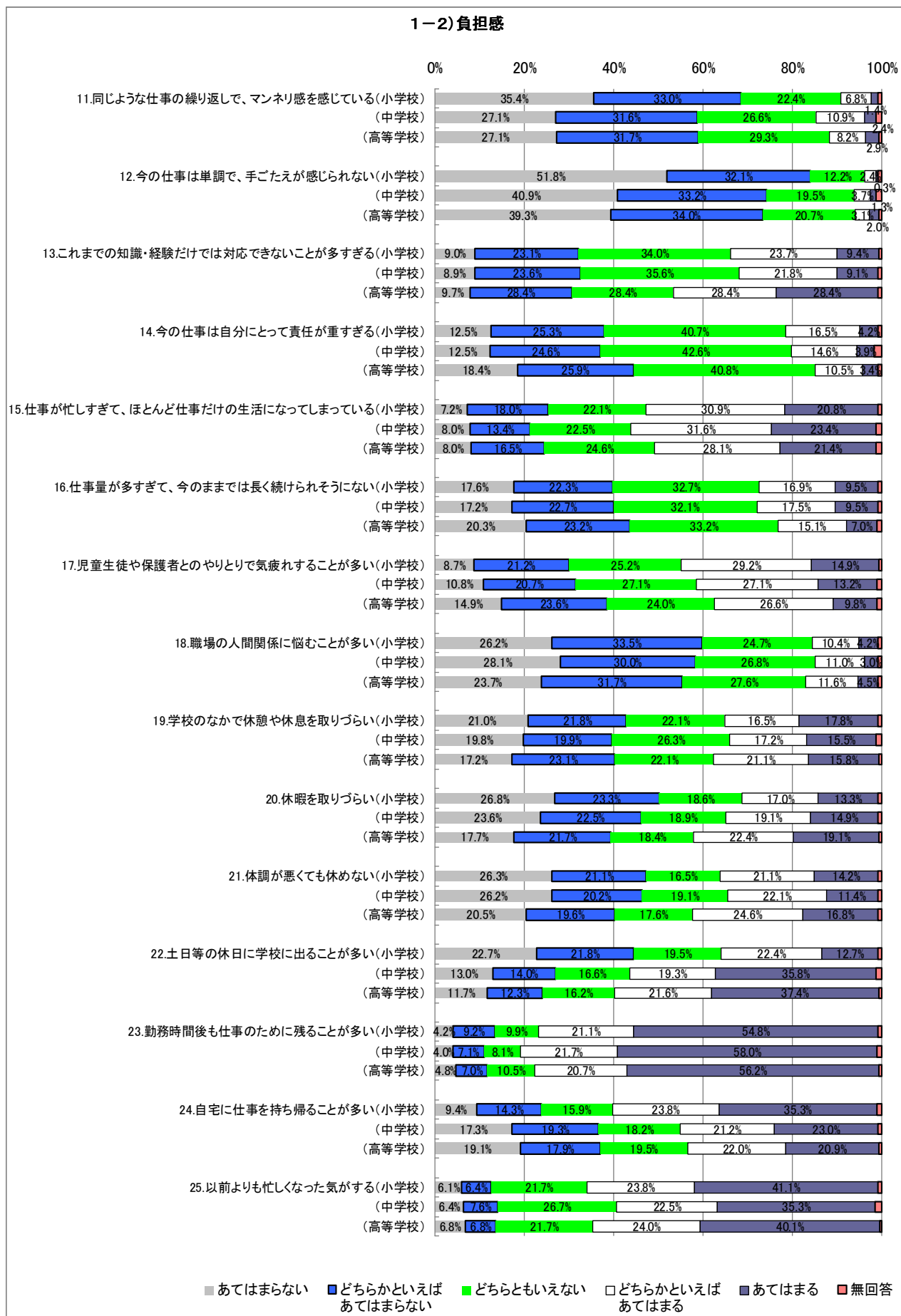
**問1** 次のことは普段のあなたにどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

◆平成18年度に文部科学省が行った教員意識調査(以下この項において「全国調査」という。)と同じ質問項目により、教員の満足感、負担感を調査している。全国とほぼ同じ傾向が見られ、仕事に対する充実感や適応感が高い一方で、仕事の量に対する負担感が高い傾向が見られる。

グラフ2-1 <満足感> 小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



グラフ2-2 <負担感> 小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



【満足感】（一般企業（全国調査）との比較）

項目1から10は仕事や職場での満足度についての質問である。表2-1において、全国教員と一般企業との意識の違いを数値化して比較している。

長野県教員は、すべて平均点が3.5以上と高い点数となっている。中でも、項目1から項目3は4点以上となっており、教員としての仕事に充実感を感じている傾向がみられる。また、項目4から項目6については、現在の教員の仕事、職務への適応についての質問であり、3.5点以上という結果から適応感が高い傾向がうかがえる。

また、一般企業と比較して、仕事のやりがいや誇りに高い満足度が示されるとともに、他の教職員から学ぶという同僚性が強いことが特徴となっている。

表2-1 長野県の教員の仕事の満足感と全国教員、一般企業との比較（小中学校）

質問項目	長野県の教員				全国調査		全国教員との差	一般企業との差	
	小学校	中学校	小中学校(a)	高校(b)	小中学校(c)	一般企業(d)	小中学校(a-c)	小中学校(a-d)	高校(b-d)
1. 今の仕事にやりがいを感じている	4.28	4.16	4.23	4.23	4.23	3.44	0.00	0.79	0.79
2. 今の仕事を通じて成長できていると思う	4.25	4.18	4.22	4.18	4.24	3.83	-0.02	0.39	0.35
3. 今の仕事に誇りをもっている	4.28	4.19	4.24	4.21	4.27	3.71	-0.03	0.53	0.50
4. 今の仕事で自分らしさを生かすことができている	3.93	3.80	3.88	3.92	3.88	3.23	0.00	0.65	0.69
5. 今の仕事は自分に向いている	3.71	3.58	3.66	3.77	3.73	3.47	-0.07	0.19	0.30
6. 今の仕事で自分の能力を十分に発揮できている	3.61	3.53	3.57	3.59	3.56	3.16	0.01	0.41	0.43
7. 今の学校で仕事をするのができてよかったと思う	4.02	3.95	3.99	3.93	3.92	3.72	0.07	0.27	0.21
8. 学校の他の教職員から学ぶことが多い	4.30	4.18	4.25	3.99	4.16	3.85	0.09	0.40	0.14
9. 学校の他の教職員と一緒に仕事をするのが楽しい	4.04	3.92	3.99	3.77	3.97	3.65	0.02	0.34	0.12
10. 学校の他の教職員に恵まれている	4.10	3.93	4.03	3.76	3.98	3.69	0.05	0.34	0.07

※「1：あてはまらない」を1点、「2：どちらかといえばあてはまらない」を2点、「3：どちらともいえない」を3点、「4：どちらかといえばあてはまる」を4点、「5：あてはまる」を5点として、全体の回答の平均点を算出し、全国調査（小中学校教員）や一般企業（全国調査で比較している一般企業データ）と比較し、その傾向を見ている。（高校は、全国調査の数値が不明のため、一般企業のみと比較している。）

【負担感】（一般企業（全国調査）との比較）

項目11から25は仕事や職場での負担感についての質問である。表2-2において、全国教員と一般企業との意識の違いを数値化して比較している。

項目11、12について、平均点が一般企業と比較して0.5点以上低くなっており、マンネリ感を感じていることや仕事の手ごたえが感じられないこと等については一般企業に比べて低い傾向がみられる。

項目15では、平均点が3.44点となっており、仕事の量に負担と感じている傾向がみられる。また、児童生徒や保護者とのやりとり等を負担に感じている傾向が強いことが特徴となっている。

全国調査の教員と比較して、満足感では大きな差はなかったが、負担感においては全体的に数値が低い傾向が長野県の教員には見られる。



表2-2 長野県の教員の仕事の負担感と全国教員、一般企業との比較（小中学校）

質問項目	長野県の教員				全国調査		全国教員との差	一般企業との差	
	小学校	中学校	小中学校(a)	高校(b)	小中学校(c)	一般企業(d)	小中学校(a-c)	小中学校(a-d)	高校(b-d)
11. 同じような仕事の繰り返しで、マンネリ感を感じている	2.05	2.29	2.14	2.27	2.28	2.79	-0.14	-0.65	-0.52
12. 今の仕事は単調で、手ごたえが感じられない	1.66	1.90	1.76	1.94	1.85	2.46	-0.09	-0.70	-0.52
13. これまでの知識・経験だけでは対応できないことが多すぎる	3.01	2.99	3.00	3.30	3.26	2.88	-0.26	0.12	0.42
14. 今の仕事は自分にとって責任が重すぎる	2.74	2.72	2.73	2.54	2.77	2.57	-0.04	0.16	-0.03
15. 仕事が忙しすぎて、ほとんど仕事だけの生活になってしまっている	3.41	3.50	3.44	3.39	3.75	3.09	-0.31	0.35	0.30
16. 仕事量が多すぎて、今のままでは長く続けられそうにない	2.78	2.79	2.79	2.65	3.05	2.58	-0.26	0.21	0.07
17. 児童生徒や保護者とのやりとりで気疲れすることが多い	3.21	3.11	3.17	2.93	3.47	2.78	-0.30	0.39	0.15
18. 職場の人間関係に悩むことが多い	2.32	2.30	2.31	2.41	2.48	2.63	-0.17	-0.32	-0.22

※「1：あてはまらない」を1点、「2：どちらかといえばあてはまらない」を2点、「3：どちらともいえない」を3点、「4：どちらかといえばあてはまる」を4点、「5：あてはまる」を5点として、全体の回答の平均点を算出し、全国調査（小中学校教員）や一般企業（全国調査で比較している一般企業データ）と比較し、その傾向を見ている。（高校は、全国調査の数値が不明のため、一般企業のみと比較している。）

## (2) 忙しさを感じる業務について

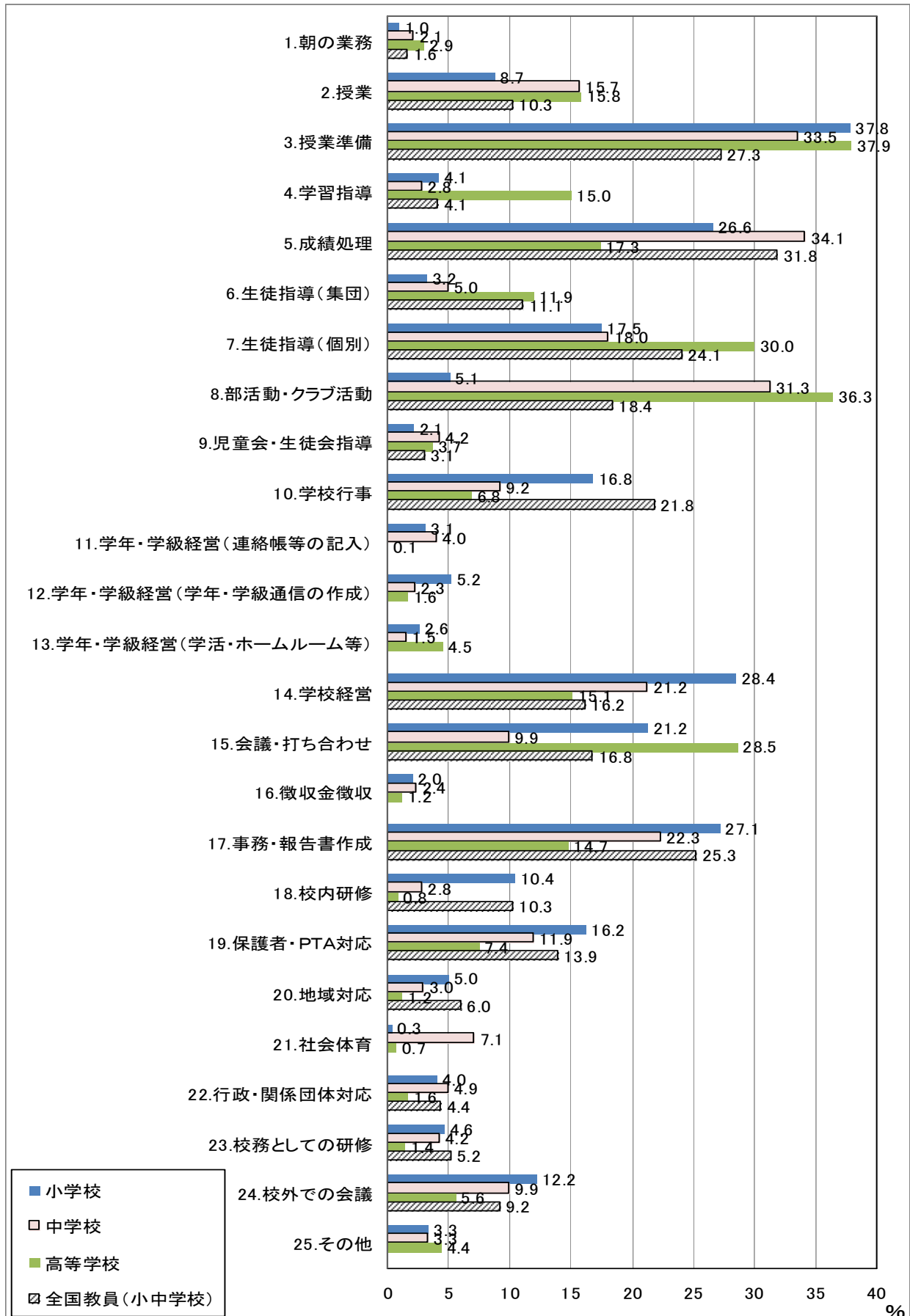
### ポイント

直接児童生徒に接しないデスクワークに業務の忙しさを感じる度合いが高い傾向がみられる。また、全国調査と比較して、長野県の特長として「3. 授業準備」、「14. 学校経営」（校務分掌等）に忙しさを感じる割合が高い一方で、「10. 学校行事」に忙しさを感じる割合は低い。

**問2** 仕事をするうえで、あなたが忙しさを感じるのはどのような業務ですか。以下の項目からあなたにとって感じる度合いが高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

- ◆一部を除いて全国とほぼ同じ傾向が見られ、直接的に児童生徒に接しないデスクワークに業務の忙しさを感じる度合いが高い傾向がみられる。成績処理、授業準備、学校経営、事務・報告書作成に忙しさを感じているが、授業そのものを忙しいと感じている割合は低い。
- ◆また、全国と比較して、「3. 授業準備」（小学校37.8%、中学校33.5%、全国27.3%）、「14. 学校経営」（小学校28.4%、中学校21.2%、全国16.2%）に忙しさを感じる割合が高い一方で、「10. 学校行事」（小学校16.8%、中学校9.2%、全国21.8%）に忙しさを感じる割合は低くなっている。
- ◆中学校においては、「8. 部活動・クラブ活動」について業務の忙しさを感じる傾向が、小学校に比べて高いが、全国調査は小中学校全体で調査しており、合計数値（小中学校15.7%、全国18.4%）においては若干低くなっている。
- ◆高等学校については、「8. 部活動・クラブ活動」、「7. 生徒指導（個別）」、「15. 会議・打ち合わせ」が、小中学校に比較して忙しさを感じる割合が高い。

グラフ2-3 < 忙しさを感じる業務 > 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



※ 全国教員のデータは、平成18年度 教員意識調査(小中学校) 文部科学省による。11,12,13,16,21,25の選択肢は、全国調査になし。

### (3) 忙しさや負担感を解消するための手段について

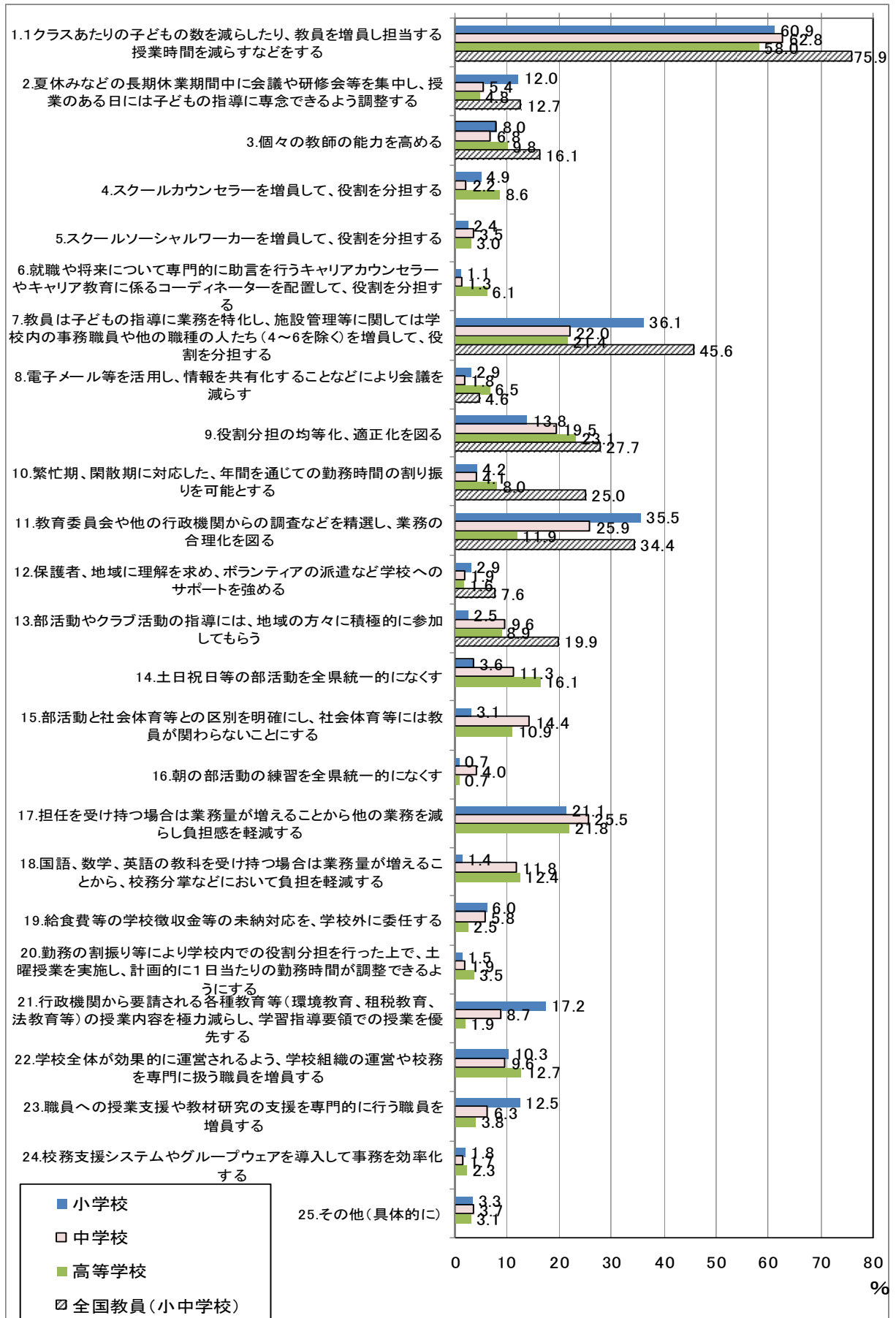
#### ポイント

忙しさや負担感を解消するためには、1クラスあたりの子どもの数を減らしたり、教員を増員し担当する授業時間を減らすことなどが必要と考えている傾向が特に強い。また、各種調査や要請等の精選や業務の役割分担の適正化が必要と考えている傾向が見られる。

**問3** 忙しさや負担感を解消するために必要なことはどのようなことですか。以下の項目から必要だと思うものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

- ◆小中学校では、全国調査とほぼ同じ傾向が見られ、「1. 1クラスあたりの子どもの数を減らしたり、教員を増員し担当する授業時間を減らすなどをする」の回答が最も高く（小学校60.9%、中学校62.8%、全国75.9%）となっている。また、「11. 教育委員会や他の行政機関からの調査などを精選し、業務の合理化を図る」が小学校35.5%、中学校25.9%（全国34.4%）、「7. 教員は子どもの指導に業務を特化し、施設管理等に関しては学校内の事務職員や他の職種の人たちを増員して、役割を分担する」が小学校36.1%、中学校22.0%（全国45.6%）、と高い回答率となっている。
- ◆高等学校でも、小中学校とほぼ同じ傾向が見られ、忙しさを解消するためには1クラスあたりの子どもの数を減らしたり、教員の増員により授業時間を減らすことや役割分担の均等化等を必要と考えている傾向がみられる。  
また、「14. 土日祝日等の部活動を全県統一的になくす」（16.1%）、「15. 部活動と社会体育等との区別を明確にし、社会体育等には教員が関わらないことにする」（10.9%）等の部活動に関わる項目も高い回答率となっている。

グラフ2-4 < 忙しさ等解消の手段 > 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



※ 全国教員のデータは、平成18年度 教員意識調査(小中学校) 文部科学省による。4~6,14~25の選択肢は、全国調査になし。

#### (4) 学校全体の特徴について

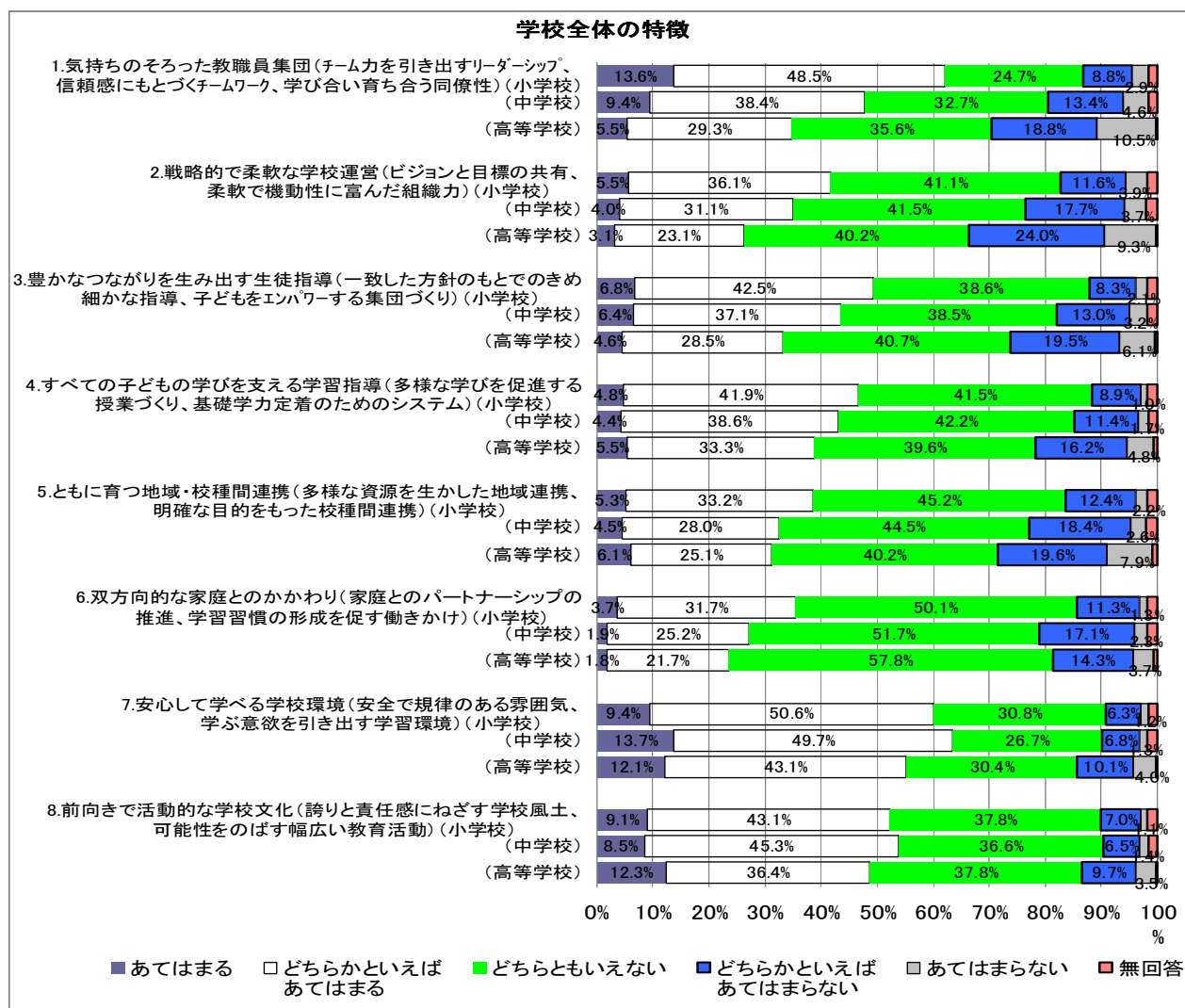
##### ポイント

小学校では「1.気持ちのそろった教職員集団」、中・高等学校では「7.安心して学べる学校環境」と回答した教員の割合が最も高くなっている。「6.双方向的な家庭とのかかわり」が、小・中・高等学校すべてで最も低い割合となっている。

**問4** 次のことはあなたの学校にどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆ この項目については、力のある学校の特徴として論じられている項目について、教員の意識を調査している。小学校では「1.気持ちのそろった教職員集団」、中・高等学校では「7.安心して学べる学校環境」について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合が高く、教職員のまとめ、規律のある学校の特徴があると捉えている教員が多いことが伺える。
- ◆ 一方で、「2.戦略的で柔軟な学校運営」、「5.ともに育つ地域・校種間連携」、「6.双方向的な家庭とのかかわり」の割合が低く、学校全体としての具体的な目標の共有や地域連携、家庭とのかかわりについて、あてはまる程度が高くないととらえている教員が多かった。

グラフ2-5 <学校全体の雰囲気> 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



(5) 教員が力をつけたいと思っていることやそのための手段について

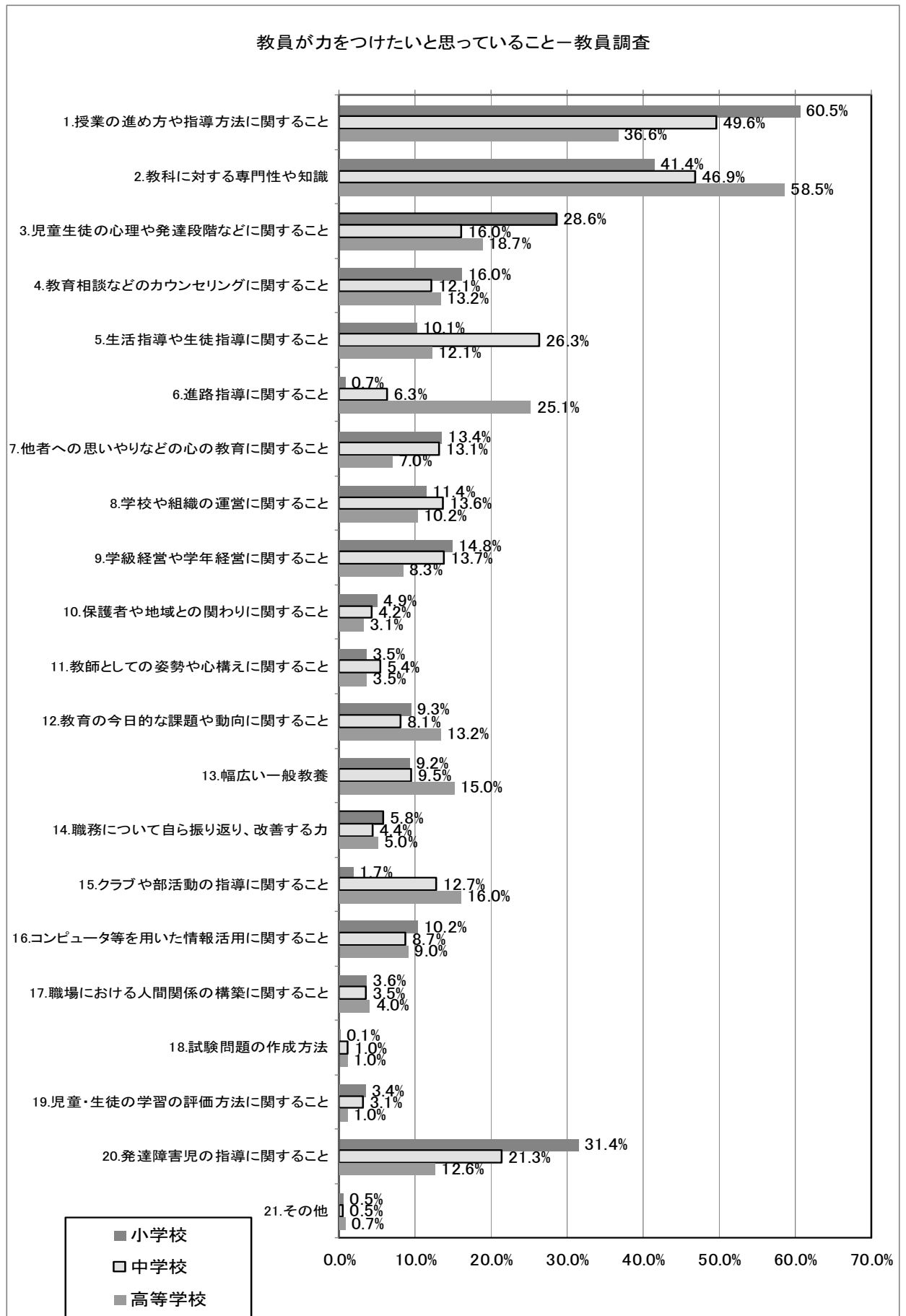
ポイント

授業、指導方法や教科の専門性に加えて、生徒指導、発達障害、児童生徒の心理や学級経営等に関して力をつけたいと思っている教員が多い。そのために、総合教育センターや研究会等の研修に参加することが望ましいとする意見も多いが、実際の行動につながっていない傾向がある。

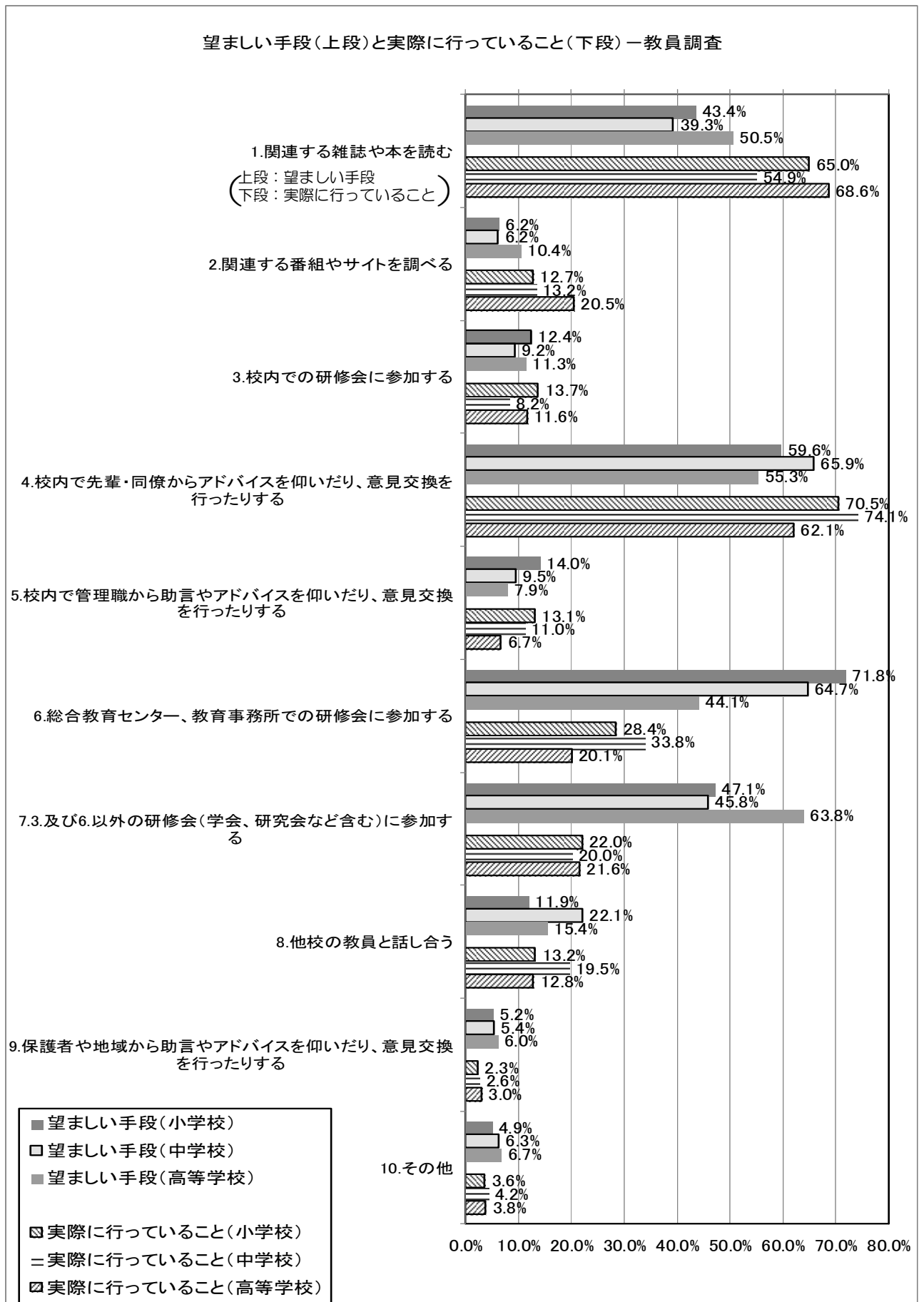
**問8** あなたが今後特に力をつけたいと思うことは何ですか。(A欄(グラフ2-6の項目)の中から優先度の高いものを最大3つ) また、そのための手段として望ましいものは何ですか。(B欄(グラフ2-7の項目)の中からそれぞれ1つ) また、実際に行っていることは何ですか。(B欄の中からそれぞれ1つ) 回答欄に該当する番号をそれぞれ記入してください。

- ◆多くの教員が、特に力をつけたいこととして「1. 授業の進め方や指導方法に関すること」、「2. 教科に対する専門性や知識」の項目を回答している。中学校・高等学校と学校段階が上がるにつれ、「2. 教科に対する専門性や知識」を回答する割合が高くなる。
- ◆また、「3. 児童生徒の心理や発達段階などに関すること」、「20. 発達障害児の指導に関すること」、「4. 教育相談などのカウンセリングに関すること」等の項目も多くの教員が力をつけたいと回答している。
- ◆中学校では、「5. 生活指導や生徒指導に関すること」、高等学校では、「6. 進路指導に関すること」や「15. 部活動の指導に関すること」が校種別の特性として、割合が高くなっている。
- ◆力をつけるための手段として、「4. 校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする」、「6. 総合教育センター、教育事務所での研修会に参加する」、「7. 3. 及び6. 以外の研修会(学会、研究会など含む)に参加する」、「1. 関連する雑誌や本を読む」ことが望ましいと考えている教員が多いのに対し、実際に行っていることでは、「6. 総合教育センター、教育事務所での研修会に参加する」、「7. 3. 及び6. 以外の研修会(学会、研究会など含む)に参加する」の回答率が低くギャップが見られる。

グラフ2-6 <力をつけたい事項>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



グラフ2-7 <望ましい手段等>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733





(6) 教員の授業スキル向上等のために県として必要な施策について

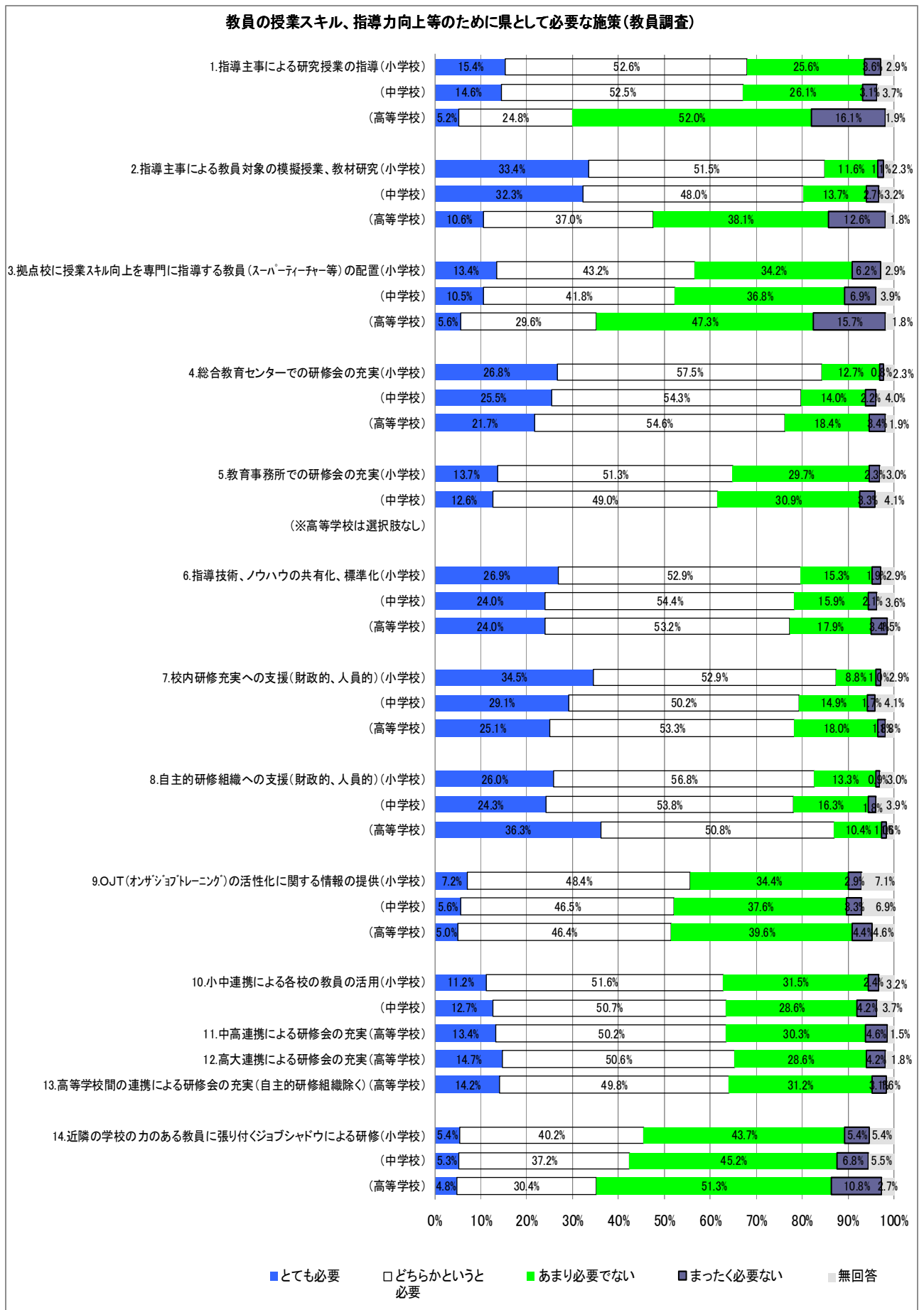
ポイント

教員への県の支援策として、「4. 総合教育センター等での研修会の充実」、「6. 指導技術、ノウハウの共有化、標準化」、「7. 校内研修充実への支援」、「8. 自主的研修組織への支援」について約8割の教員が必要と回答している。

問9 教員（非常勤講師含む）の授業スキルの向上、授業改善、指導力向上のために、県の施策として必要なことは何だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆小中高等学校を通じて、「4. 総合教育センターでの研修会の充実」、「6. 指導技術、ノウハウの共有化、標準化」、「7. 校内研修充実への支援（財政的、人力的）」、「8. 自主的研修組織への支援（財政的、人力的）」について、約8割の教員が「とても必要」「どちらか」と必要」と回答している。
- ◆また、小中学校では「2. 指導主事による教員対象の模擬授業、教材研究」を「とても必要」とする教員が33%前後いる一方で、「1. 指導主事による研究授業の指導」を「とても必要」とする教員は15%前後となっており、指導主事に対しては模擬授業、教材研究等をより求めている傾向となっている。

グラフ2-8 <県として必要な施策>小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



(7) 学力向上のために必要なことについて

ポイント

学力を向上するために必要なこととして、主に知識・技能（基礎・基本）の確実な定着に関しては、小・中学校では「4.必ず定着の時間をとり、個に応じた指導を行うこと」が最も多く、高等学校では「10.家庭学習の充実」が最も多くなっている。

また、主に思考力・判断力・表現力の伸長に関しては、小・中・高等学校に共通して「5.解決の過程や発見したことなどを話し合う活動の充実」、「3.自己追求と共同追求の場をバランスよく取り入れた課題解決型の授業」、「12.体験活動を取り入れた授業」の3項目が多くなっている。

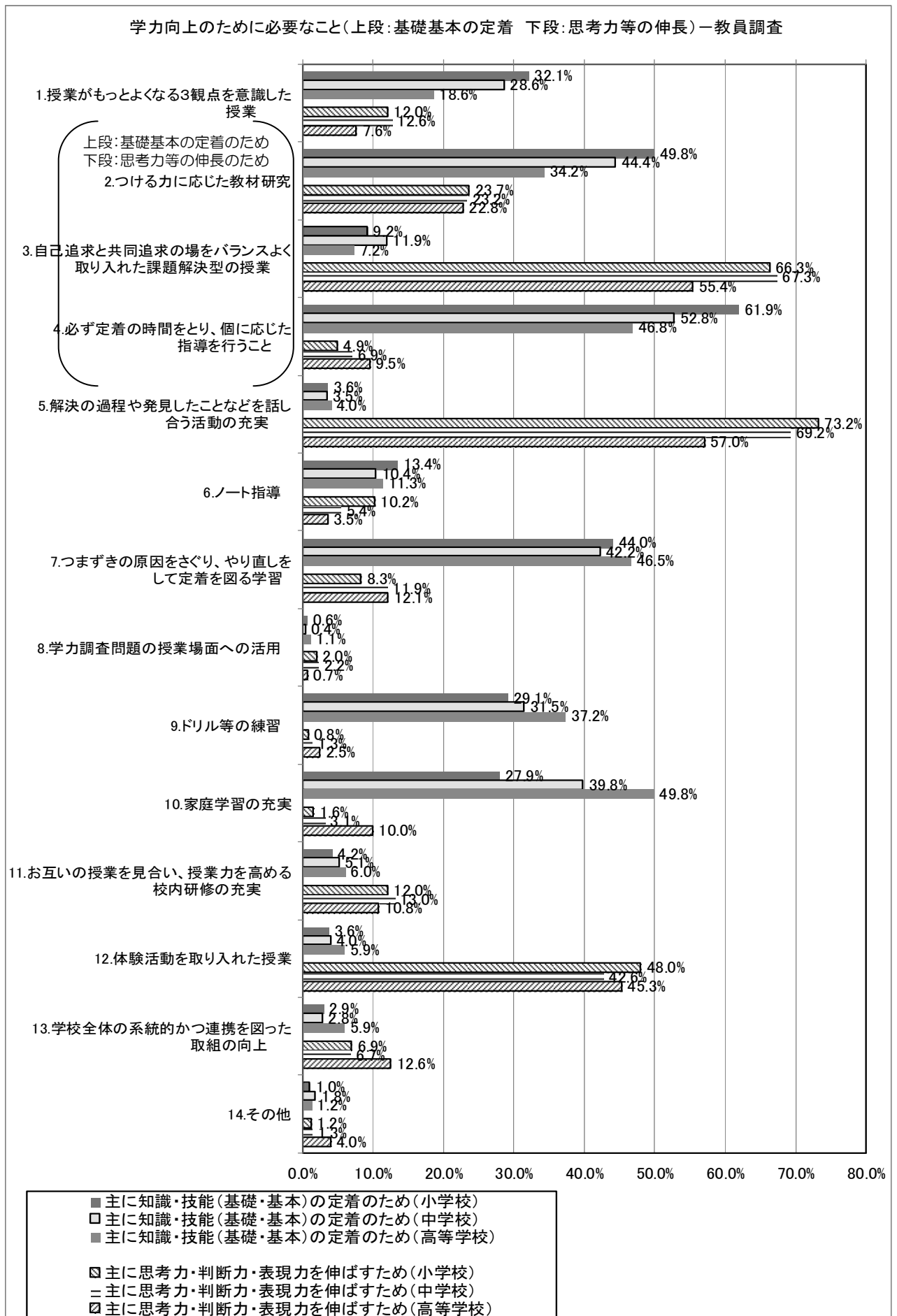
問 12 子どもたちの学力を向上させるために必要なことは何だと思えますか。目的毎に、以下の項目から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

- a) 主に知識・技能（基礎・基本）を確実に定着させるために必要なこと
- b) 主に思考力・判断力・表現力を伸ばすために必要なこと

◆主に知識・技能（基礎・基本）の確実な定着に関しては、小・中・高等学校に共通して「4.必ず定着の時間をとり、個に応じた指導を行うこと」、「7.つまずきの原因をさぐり、やり直しをして定着を図る学習」の2項目を選択する教員が多い。また、小中学校では、ついで「2.つける力に応じた教材研究」が多く、高等学校では「10.家庭学習の充実」を最も多い回答となっている。

◆一方、主に思考力・判断力・表現力の伸長に関しては、小・中・高等学校に共通して「5.解決の過程や発見したことなどを話し合う活動の充実」、「3.自己追求と共同追求の場をバランスよく取り入れた課題解決型の授業」、「12.体験活動を取り入れた授業」の3項目が多くなっている。

グラフ2-9 <学力向上のために必要なこと>小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



## (8) 児童生徒の通知票のつけ方について

### ポイント

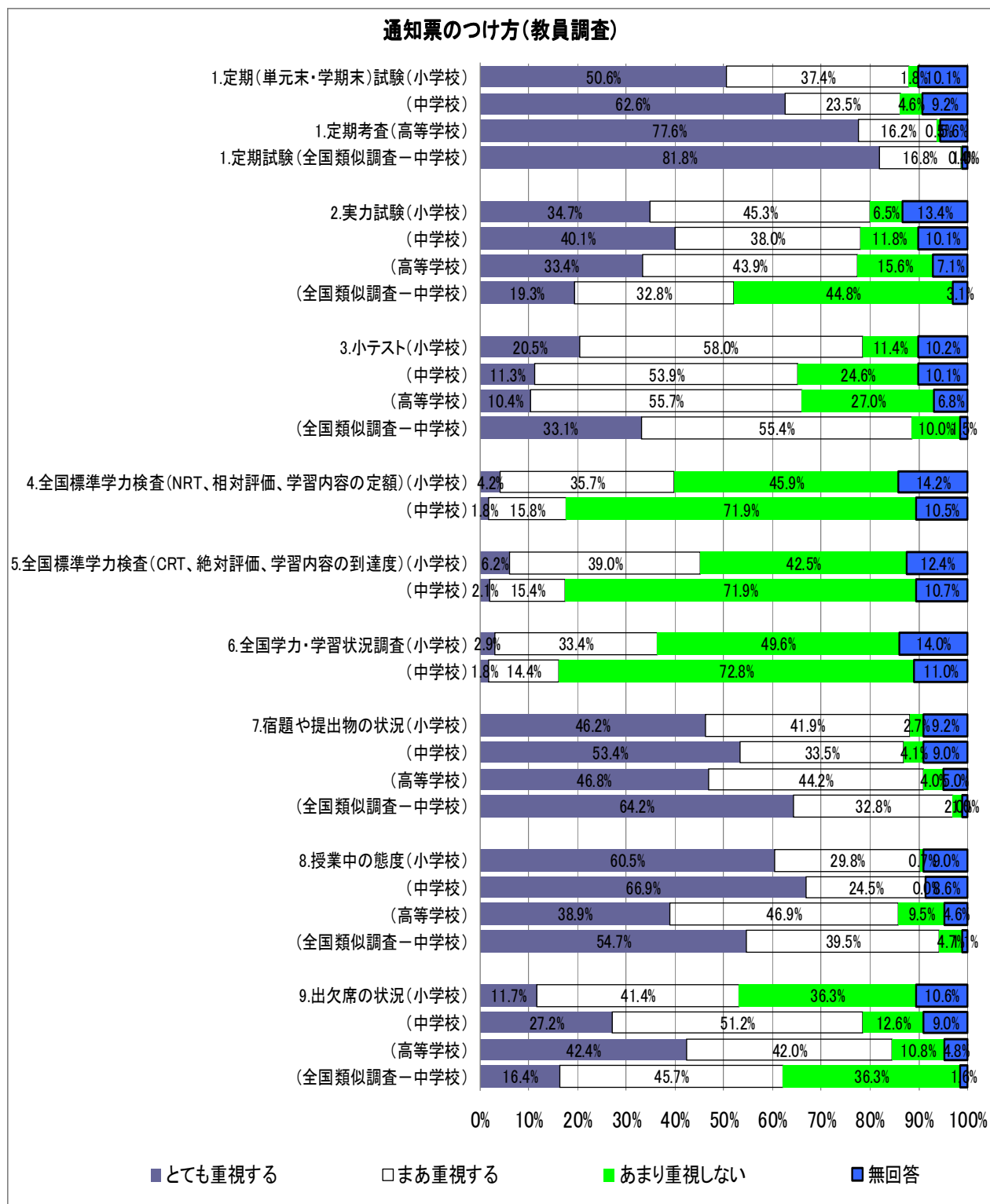
小中学校では児童生徒の通知票をつけるに当たって、「1. 定期（単元末・学期末）試験」とならず、「8. 授業中の態度」や「7. 宿題や提出物の状況」といった日常的な学習態度等を重視している傾向が強い。また、中学校では、全国と比較して「1. 定期（単元末・学期末）試験」を重視する割合が低くなっている。

**問 13** あなたは通知票をつけるとき、次の結果をどれくらい重視しますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆通知票をつけるにあたって、小中学校で共通して「8.授業中の態度」、「1.定期（単元末・学期末）試験」、「7.宿題や提出物の状況」を「とても重視する」と回答する教員の割合が高くなっている。
- ◆高等学校では、「1.定期考査」を約8割の教員が「とても重視する」と回答している。
- ◆全国類似調査（※）と比較すると、「8.授業中の態度」（長野県中学校66.9%、全国54.7%）を「とても重視する」傾向が強くなっている。また、「1.定期（単元末・学期末）試験」（長野県中学校62.6%、全国81.8%）が「とても重視する」割合が低くなっている。

※ ベネッセ教育研究開発センター 平成22年「第5回学習指導基本調査」（問13、14に関しては、中学校のみが質問あり。）（以下Ⅱにおいて「全国類似調査」という。）

グラフ2-10 <通知票のつけ方>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



## (9) 定期試験等の問題作成方法について

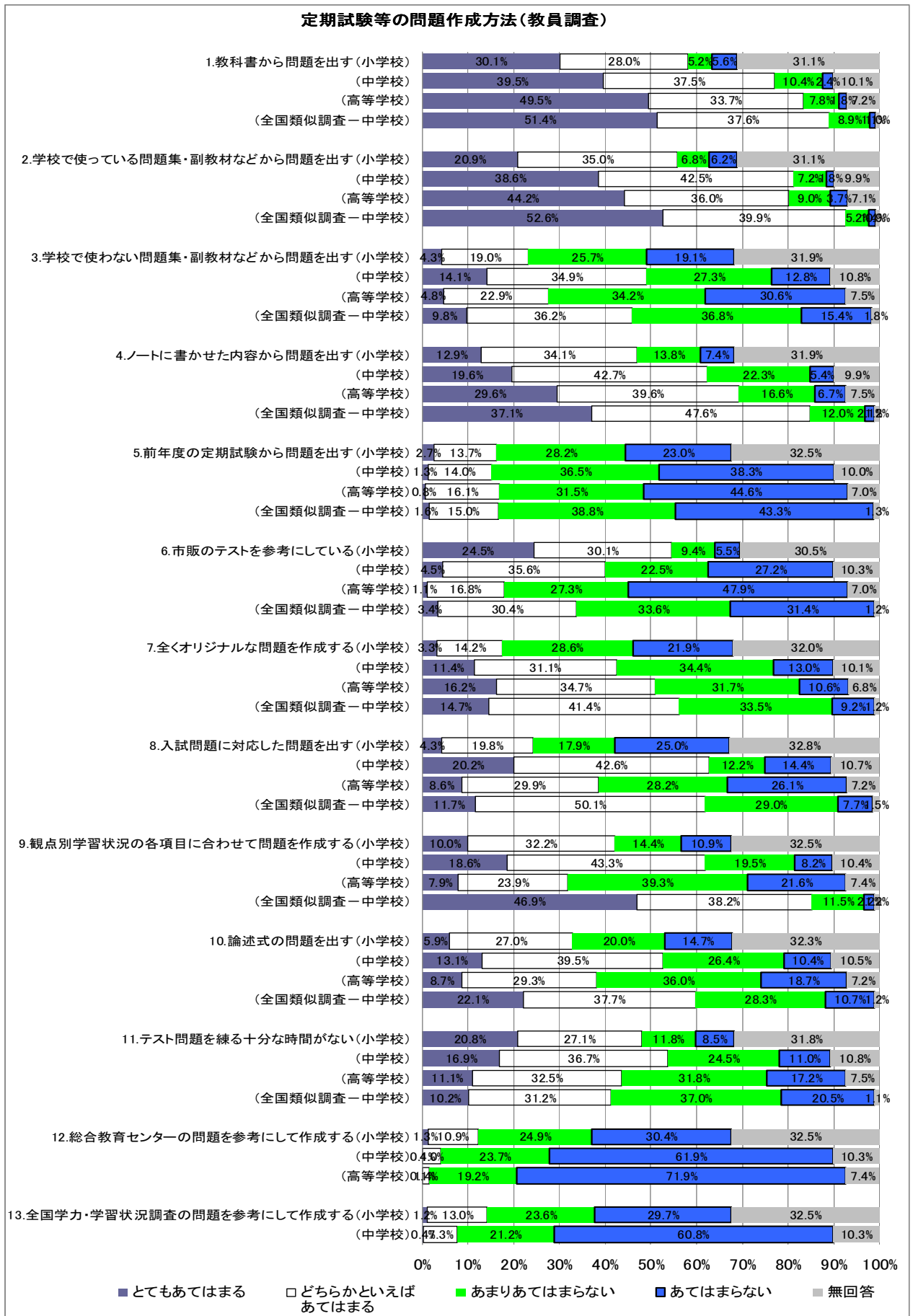
### ポイント

定期試験（考査）の問題作成に当たっては、「1. 教科書から問題を出す」「2. 学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す」との回答が多く、中学校では「8. 入試問題に対応した問題を出す」との回答も多い。全国と比較すると、教科書や副教材、ノートに書かせた内容から出題する割合が低く、「9. 観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成する」割合も低くなっている。

**問 14** 定期試験（考査）についてうかがいます。あなたが定期（単元末・学期末）試験の問題を作成するときに、次のことはどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆定期試験の問題作成にあたって、小中高等学校で共通して「1.教科書から問題を出す」「2.学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す」の2項目について「とてもあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」との回答が多い。小学校では「6.市販のテストを参考にしている」、中学校では「8.入試問題に対応した問題を出す」との回答の割合もそれぞれ高くなっている。
- ◆全国類似調査（※中学校のみ数値あり）との比較では、「1.教科書から問題を出す」、「2.学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す」、「4.ノートに書かせた内容から問題を出す」、「9.観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成する」割合が低くなっている。
- ◆小学校では、「6.市販のテストを参考にしている」割合が高い一方で、「7.まったくオリジナルな問題を作成する」割合が低くなっている。  
また、小学校で無回答が3割近くあるが、定期（単元末・学期末）試験を実施していないか、回答した教員が作成していない場合があるためと考えられる。

グラフ2-11 <定期試験の作成>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733





(10) 全国学力・学習状況調査について

ポイント

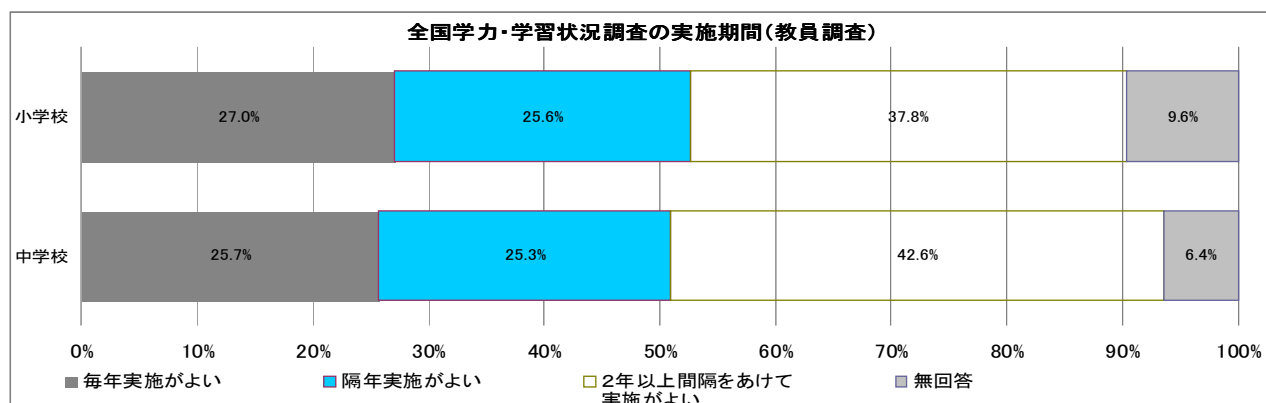
全国学力・学習状況調査の実施方法について、現行の頻度よりも少ない実施期間を望ましいとする回答が多い。抽出方法や実施学年については、現状どおりとの意見が多い。  
また、公表については、「3.公表すべきでない」とする教員が多い、一方で、結果を何らかの形で保護者に伝えるべきと回答する教員も4割ある。

問15 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる授業改善に活かすため、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）が行われていますが、どのような実施方法がのぞましいと考えますか。以下の各項目について、それぞれ回答してください。

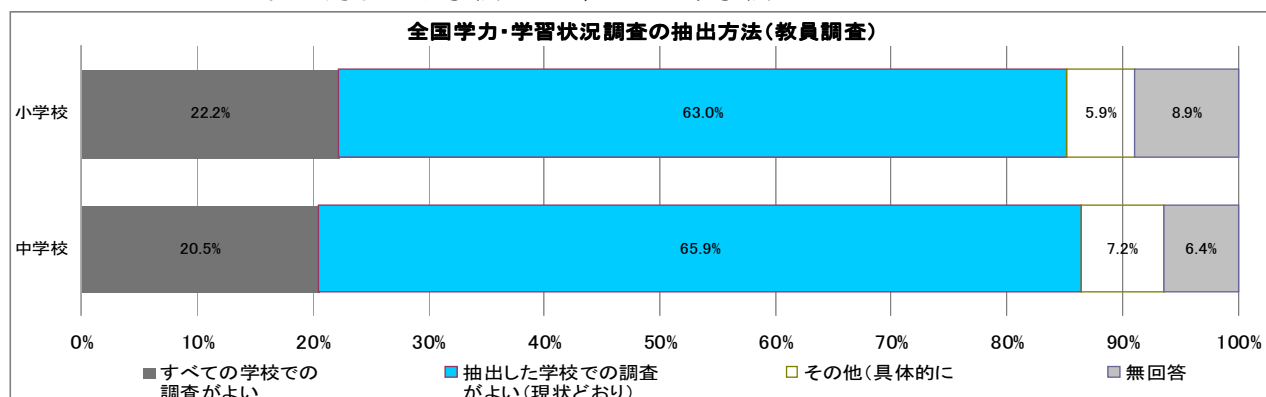
- a) 実施期間について、あてはまる項目を1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。
- b) 抽出方法について、あてはまる項目を1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。
- c) 実施学年について、実施すべきと考える学年について全て○印をつけてください。
- d) 学校毎のデータの保護者への公表について、あてはまる項目を1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください

- ◆全国学力・学習状況調査の実施方法について、現行の「1.毎年実施がよい」とする回答よりも、隔年や2年以上間隔をあけて実施がよいとする回答が非常に多くなっている。抽出方法については、現状どおりの抽出調査がよいとする回答が非常に多く、実施学年も現行どおり（小学校6年生、中学校3年生）とする意見が多いが、中学校2年生という意見も中学校3年生と同程度の回答がある。
- ◆また、公表については、「3.公表すべきでない」とする教員が多い。一方で、結果を何らかの形で保護者に伝えるべきと回答する教員も約4割ある。保護者が何らかの形で伝えてほしいとする割合が約7割（3の（5）で後述）であるのに対して、低い傾向となっている。

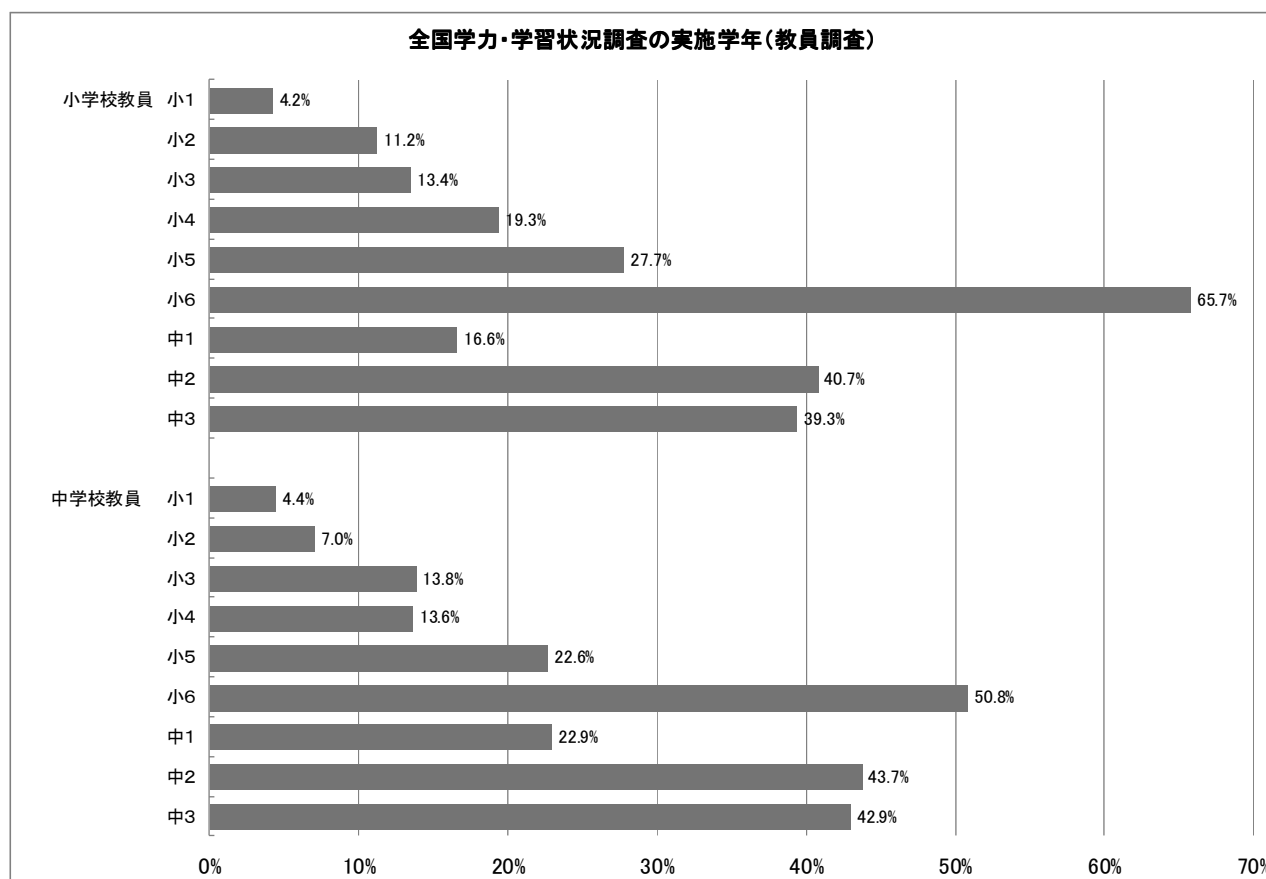
グラフ2-12 <実施期間>小学校 N=1,154 中学校N=779



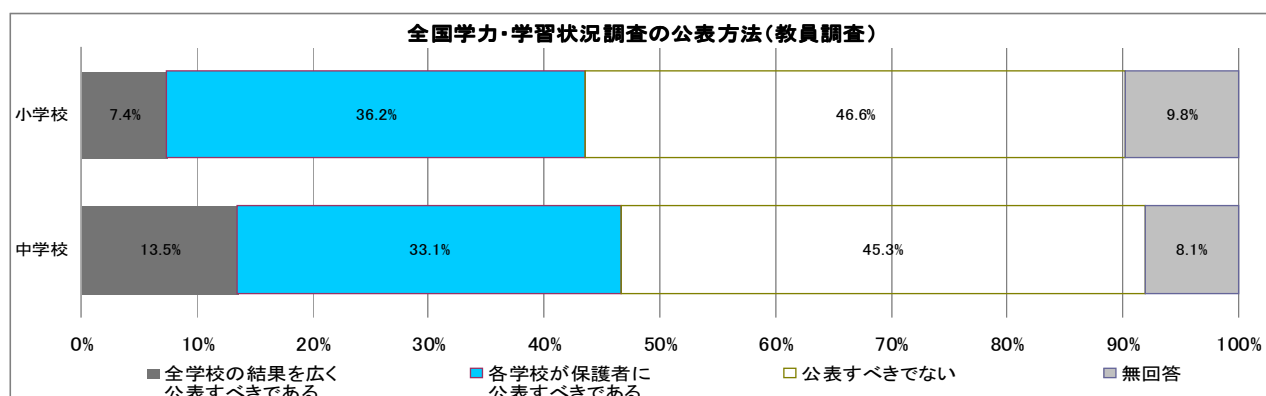
グラフ2-13 <抽出方法>小学校 N=1,154 中学校N=779



グラフ2-14 <実施学年>小学校 N=1,154 中学校N=779



グラフ2-15 <公表方法>小学校 N=1,154 中学校N=779



(11) 心がけている授業時間の使い方・進め方について

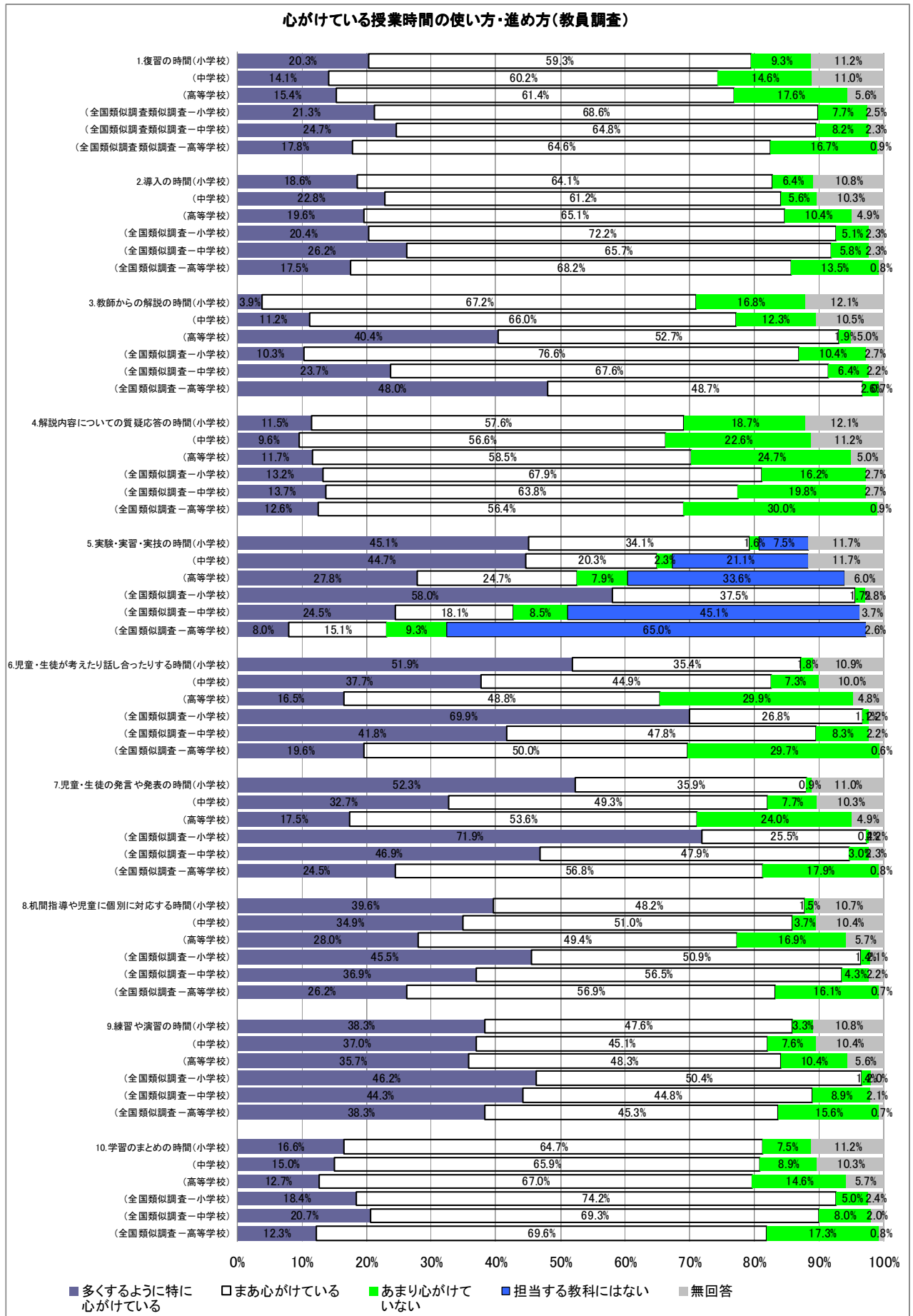
ポイント

学校段階が上がるにつれて、「3. 教師からの解説の時間」を「多くするように特に心がけている」の回答の割合が高くなり、特に高等学校では多くなる。また、全国と比較すると「7. 児童・生徒の発言や発表の時間」「6. 児童・生徒が考えたり話し合ったりする時間」を多くしようとする回答が若干低い傾向がある。

**問 16** あなたは、教科の授業を進める際にどのような時間の使い方や進め方を心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。[高等学校は**問 15**]

- ◆小学校では、「7. 児童・生徒の発言や発表の時間」、「6. 児童・生徒が考えたり話し合ったりする時間」について、「多くするように特に心がけている」回答の割合が高くなっており、全国類似調査と同様の傾向であるが、回答の割合は全国が約7割となっているのに対して、長野県の割合が約5割と低くなっている。
- ◆中学校では、「5. 実験・実習・実技の時間」、「6. 児童・生徒が考えたり話し合ったりする時間」について、「多くするように特に心がけている」回答の割合が高くなっており、全国類似調査と同様の傾向である。また、「7. 児童・生徒の発言や発表の時間」について「多くするように特に心がけている」（長野県32.7%全国46.9%）回答の割合は、全国と比べ低い。
- ◆高等学校では、「3. 教師からの解説の時間」、「9. 練習や演習の時間」について、「多くするように特に心がけている」回答の割合が高くなっており、概ね全国類似調査と同様の傾向となっている。

グラフ2-16 <授業時間の使い方>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



## (12) 心がけている授業内容について

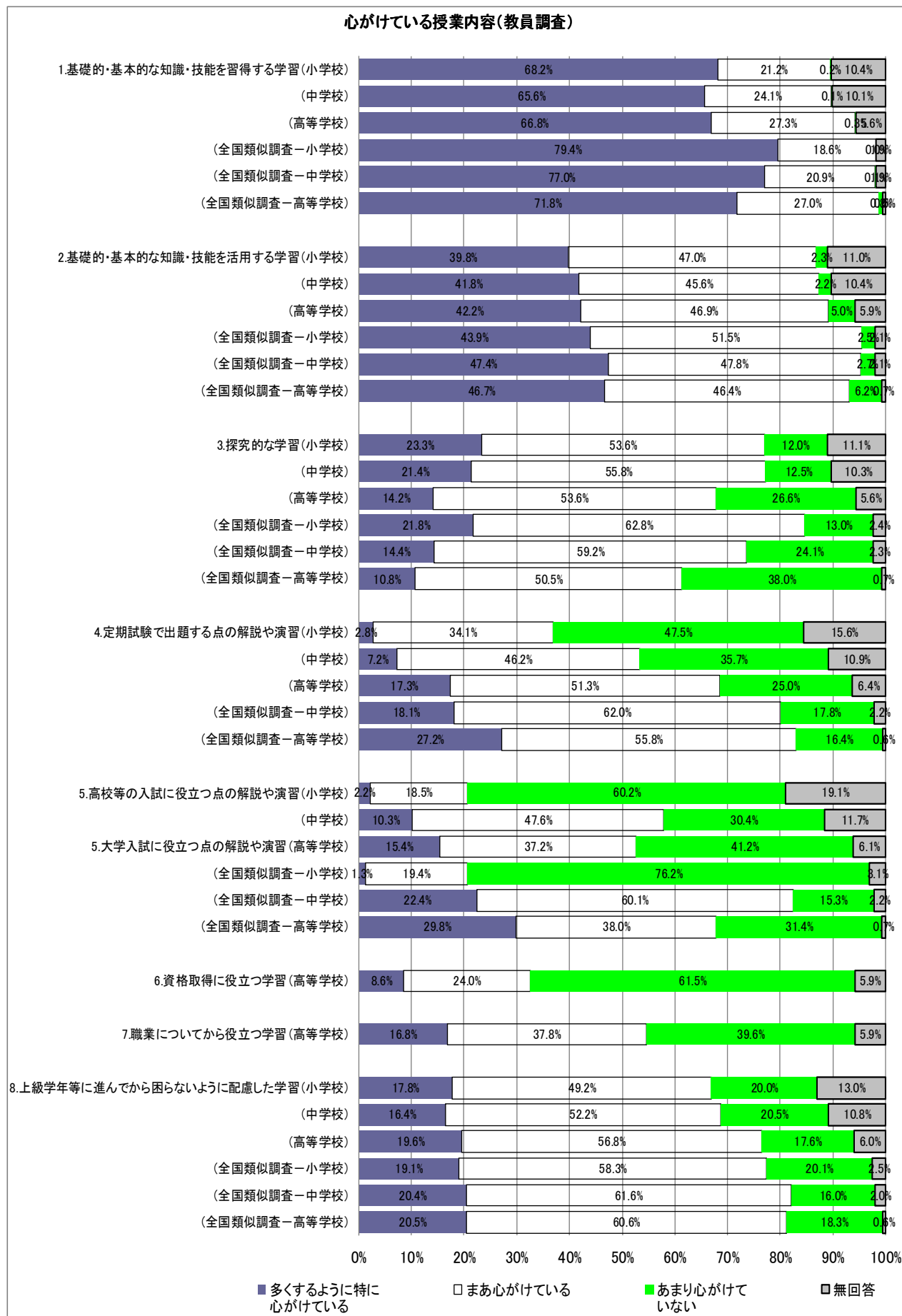
### ポイント

小中高等学校に共通して、「1. 基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習」を「多くするように特に心がけている」回答が最も多く、「2.基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習」がそれに続いている。

**問 17** あなたは、教科や領域の授業において、次のような内容をどれくらい心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。[高等学校は**問 16**]

- ◆小中高等学校に共通して、「1. 基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習」について「多くするように特に心がけている」と回答した割合は7割程度で、次いで「2. 基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習」が4割程度、「3. 探究的な学習」が2割程度（高等学校は、「8. 上級学年等に進んでから困らないように配慮した学習」が2割程度）となっており、全国類似調査と同様の傾向となっている。ただし、回答の割合は全国と比較して、中学校において、「3. 探究的な学習」（長野県21.4%全国14.4%）の回答が若干高く、高等学校において、「4. 定期試験で出題する点の解説や演習」（長野県17.3%全国27.2%）、「5. 大学入試に役立つ点の解説や演習」（長野県15.4%全国29.8%）の回答が低くなっている。

グラフ2-17 <授業内容>小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



### (13) 心がけている授業方法について

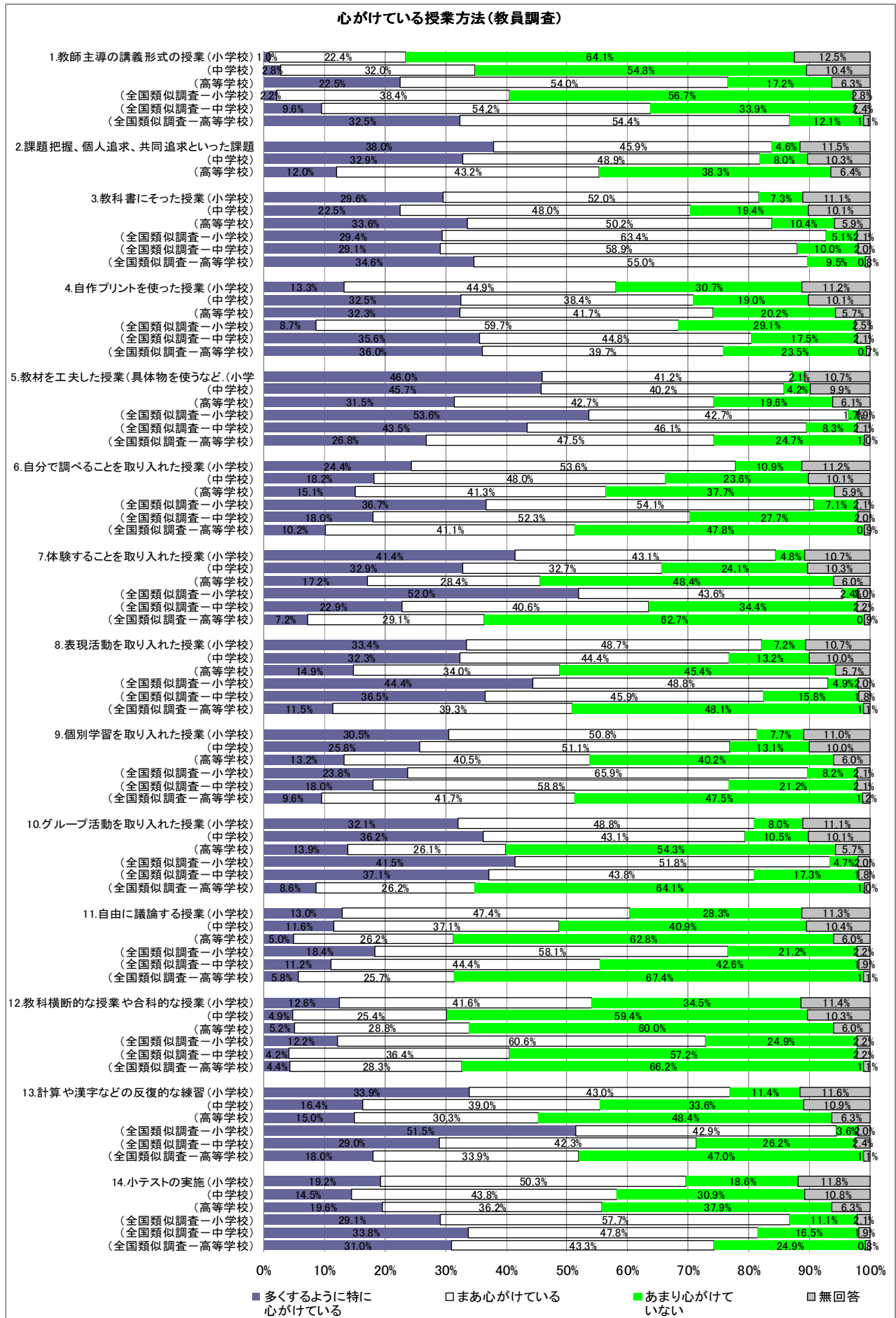
#### ポイント

(9) の授業内容が小中高等学校の教員でほぼ共通しているのに対して、授業方法はそれぞれの学校段階で大きく異なっている。小中学校では体験や学び合いの授業方法を心がけている教員が多く、高等学校では個人毎に学ぶ授業方法を心がけている教員が多い傾向が見られる。

**問 18** あなたは、教科や領域の授業において、次のような内容をどれくらい心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。[高等学校は問 17]

- ◆小中学校では、「5. 教材を工夫した授業（具体物を使うなど）」について「多くするように特に心がけている」回答の割合が最も高く、「2. 課題把握、個人追求、共同追求といった課題解決型の授業」、「7. 体験することを取り入れた授業」、「10. グループ活動を取り入れた授業」等の体験や学び合いの授業方法の割合が高い。全国類似調査と比較すると、「7. 体験することを取り入れた授業」について、小学校は全国よりも低く（長野県41.4% 全国52.0%）、中学校では全国よりも高い（長野県32.9% 全国22.9%）。
- ◆高等学校では、「3. 教科書にそった授業」「4. 自作プリントを使った授業」「5. 教材を工夫した授業（具体物を使うなど）」「1. 教師主導の講義形式の授業」等の個人ごとに学ぶ授業方法の割合が高い。全国類似調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「5. 教材を工夫した授業（具体物を使うなど）」（長野県31.5% 全国26.8%）の割合が若干高く、「1. 教師主導の講義形式の授業」（長野県22.5% 全国32.5%）、「14. 小テストの実施」（長野県19.6% 全国31.0%）の割合が低い。

グラフ2-18 <授業方法>小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733





(14) 児童・生徒の学習意欲を高めるための工夫について

ポイント

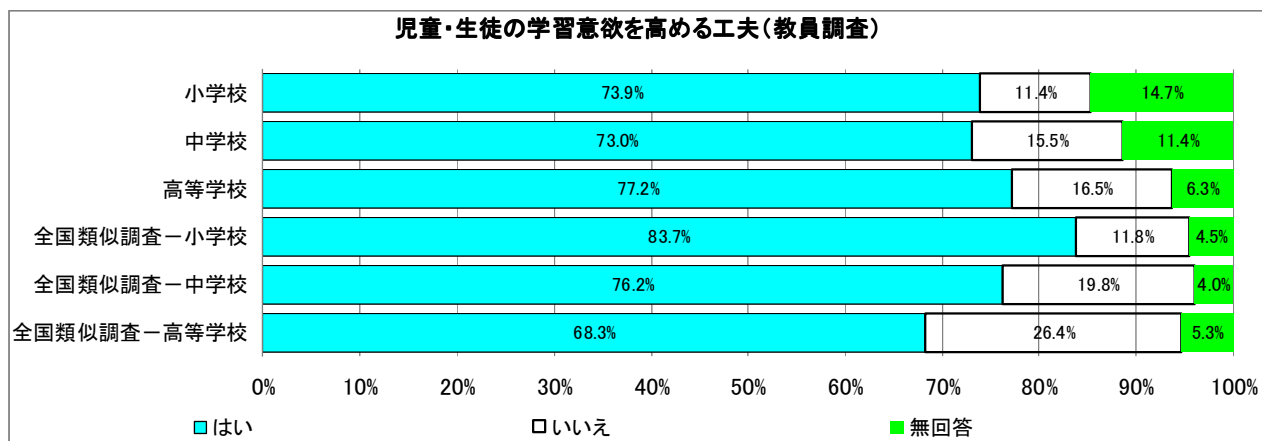
7～8割近くの教員が児童・生徒の学習意欲を高めるための何らかの工夫をしている。  
全国と比較すると高等学校での回答の割合が高くなっている。

問 19 あなたは、ふだんの指導（学習指導や生徒指導を含む）のなかで、受け持ちの児童・生徒の学習意欲を高めるために何か工夫をしていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

「1. はい」と答えた方にうかがいます。SQ.それはどのような工夫ですか。具体的にお答えください。[高等学校は問 18]

- ◆ 小中学校の教員の約7割、高等学校の約8割が何らかの工夫をしている。
- ◆ 工夫の内容については、小学校では「生活の中に繋がる学習内容に近づける工夫」や「具体物の提示」、「視聴覚教材」、「体験的活動」等の実生活に近づける工夫が多いことや、「子どもが興味を持つ教材」、「ほめること」等についての記述が多く見られる。
- ◆ 中・高等学校では、「子どもが興味を持つ教材」「視聴覚教材」「体験的活動」等の小学校と共通している記述も多いが、「学びあい」等のグループ学習や「学習カード」「目標設定」等の学習の成果をステップとして感じることでできる工夫、「自作プリントの使用」「提出ノートへのコメント」等の個別課題への対応等の記述が多く見られる。

グラフ 2-19 <学習意欲を高める工夫> 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



## (15) 家庭学習の改善すべき課題について

### ポイント

小学校では自ら学習する習慣形成を課題とする回答が多く、中学校では宿題自体が形式的になっていることを課題とする回答が多くなっている。

また、高等学校でも約4割の教員が家庭学習の充実・改善の工夫をしている。

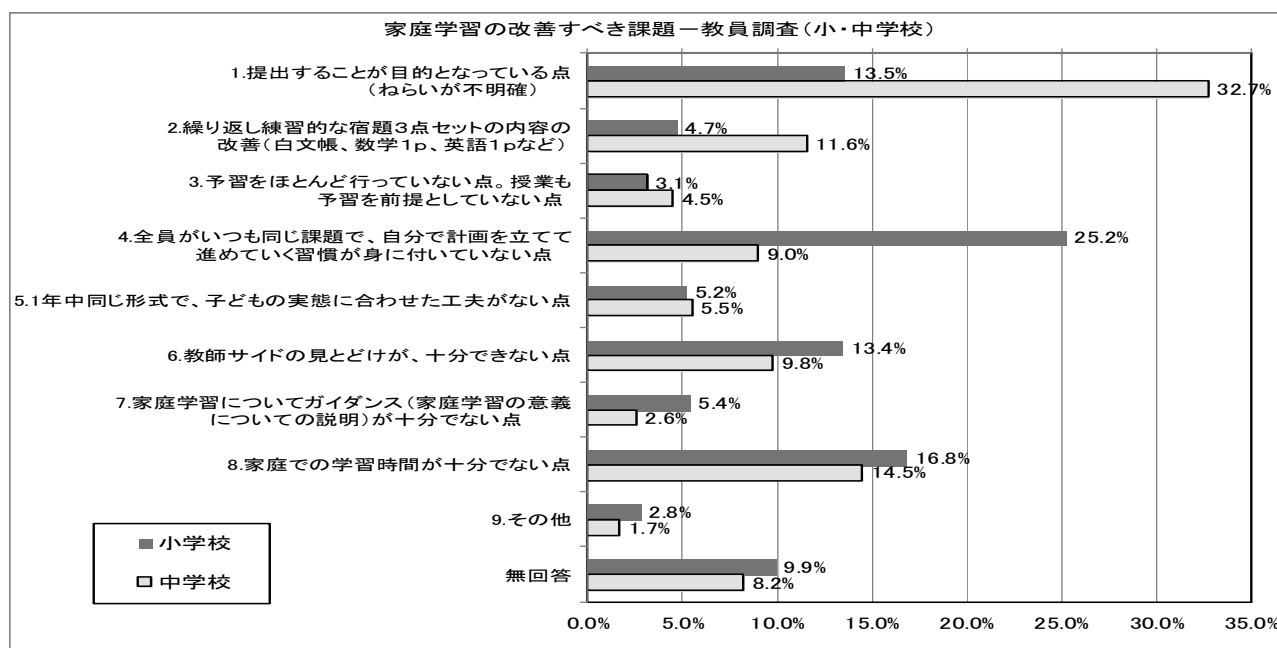
**小・中学校問20** 家庭学習について、改善すべき課題はどのようなことだと思いますか。

以下の項目から優先度の高いものを1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

**高等学校問19** あなたは、ふだんの指導のなかで、受け持ちの生徒の家庭学習の充実・改善をするために何か工夫をしていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

- ◆ 小学校では「4.全員がいつも同じ課題で、自分で計画を立てて進めていく習慣が身に付いていない点」の回答が最も多く、次いで「8.家庭での学習時間が十分でない点」、「1.提出することが目的となっている点（ねらいが不明確）」が多くなっており、自ら学習するなどの習慣形成を課題とする解答が多くなっている。
- ◆ 中学校では、「1.提出することが目的となっている点（ねらいが不明確）」が最も多く、次いで「8.家庭での学習時間が十分でない点」、「2.繰り返し練習的な宿題3点セットの内容の改善（白文帳、数学1p、英語1pなど）」が多くなっており、宿題のねらいが不明確であったり形式的になったりしていることを課題とする回答が多くなっている。
- ◆ 高等学校では、家庭学習の充実・改善の工夫をしているかについて、「はい」が41.5%、「いいえ」が47.5%、無回答が10.9%となっている。工夫している内容について自由記述の内容を見ると、「宿題を出すこと」「家庭学習の時間を記述」「週末課題を出すこと」等、家庭学習を行うことを教員が働きかけている記述が多く見られる。

グラフ2-20 <家庭学習の改善すべき課題> 小学校N=1,154 中学校N=779



## (16) 学校での体力向上について

### ポイント

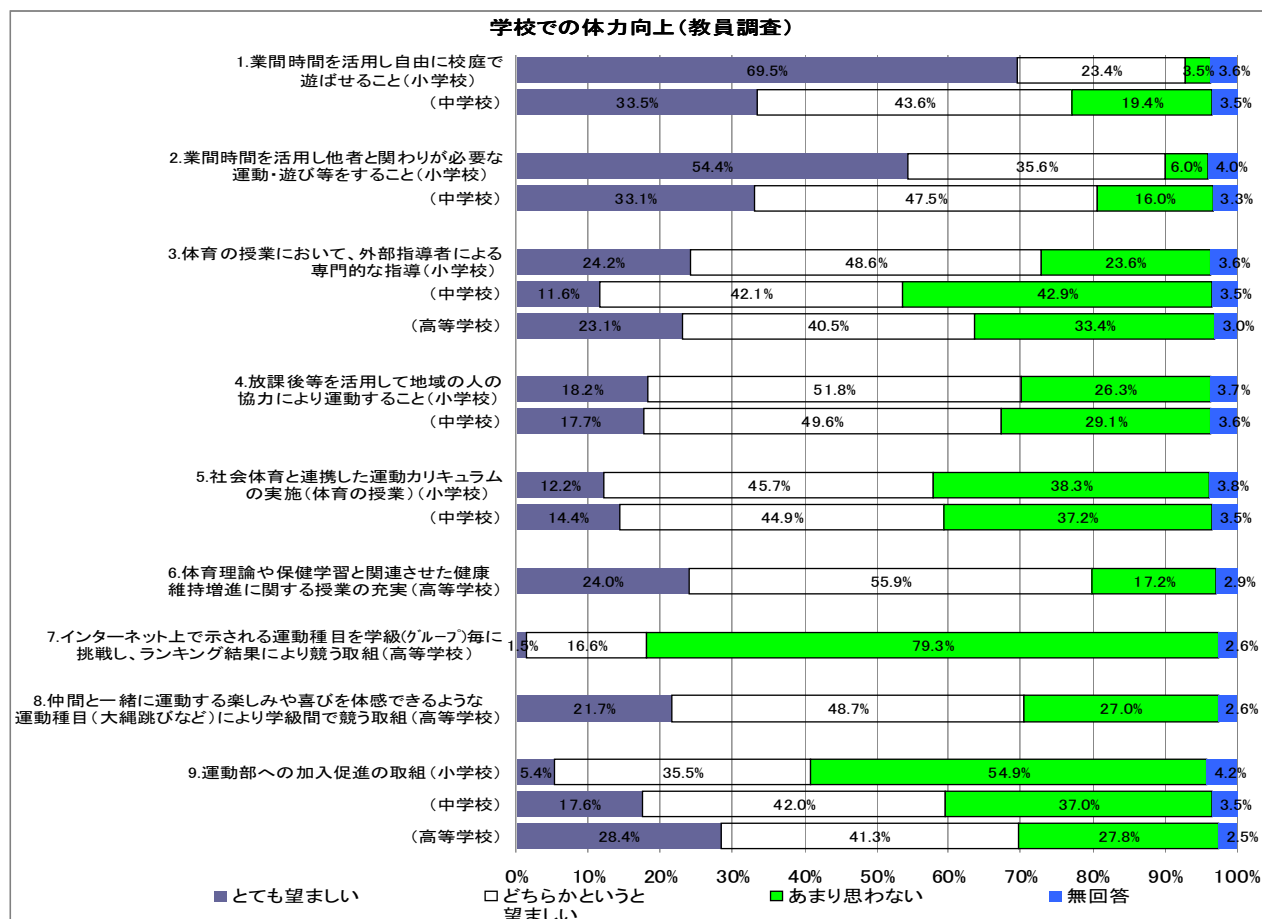
小・中学校では、業間時間を活用した取組が望ましいとの回答の割合が高いが、高等学校では、授業や部活動による取組を望ましいとの回答の割合が高い。

問22 体力向上のために学校で行う取組として、どのようなことが望ましいと思いますか。

以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。[高等学校は問20]

- ◆ 小・中学校に共通して、「1.業間時間を活用し自由に校庭で遊ばせること」、「2.業間時間を活用し他者と関わりが必要な運動・遊び等をする事」について「とても望ましい」とする回答の割合が高くなっており、業間時間を活用した取組が望ましいと考えている教員の割合が高い。
- ◆ また、高等学校では、「9.運動部への加入促進の取組」、「6.体育理論や保健学習と関連させた健康維持増進に関する授業の充実」、「3.外部指導者による専門的な指導」について「とても望ましい」とする回答の割合が高くなっている。特に、「どちらかという望ましい」と併せて約8割の教員が、「6.体育理論や保健学習と関連させた健康維持増進に関する授業の充実」について望ましいと回答している。

グラフ2-21 <学校での体力向上>小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733



### 3 保護者の意識調査について

#### (1) 学校と地域・保護者との関係性について

##### ポイント

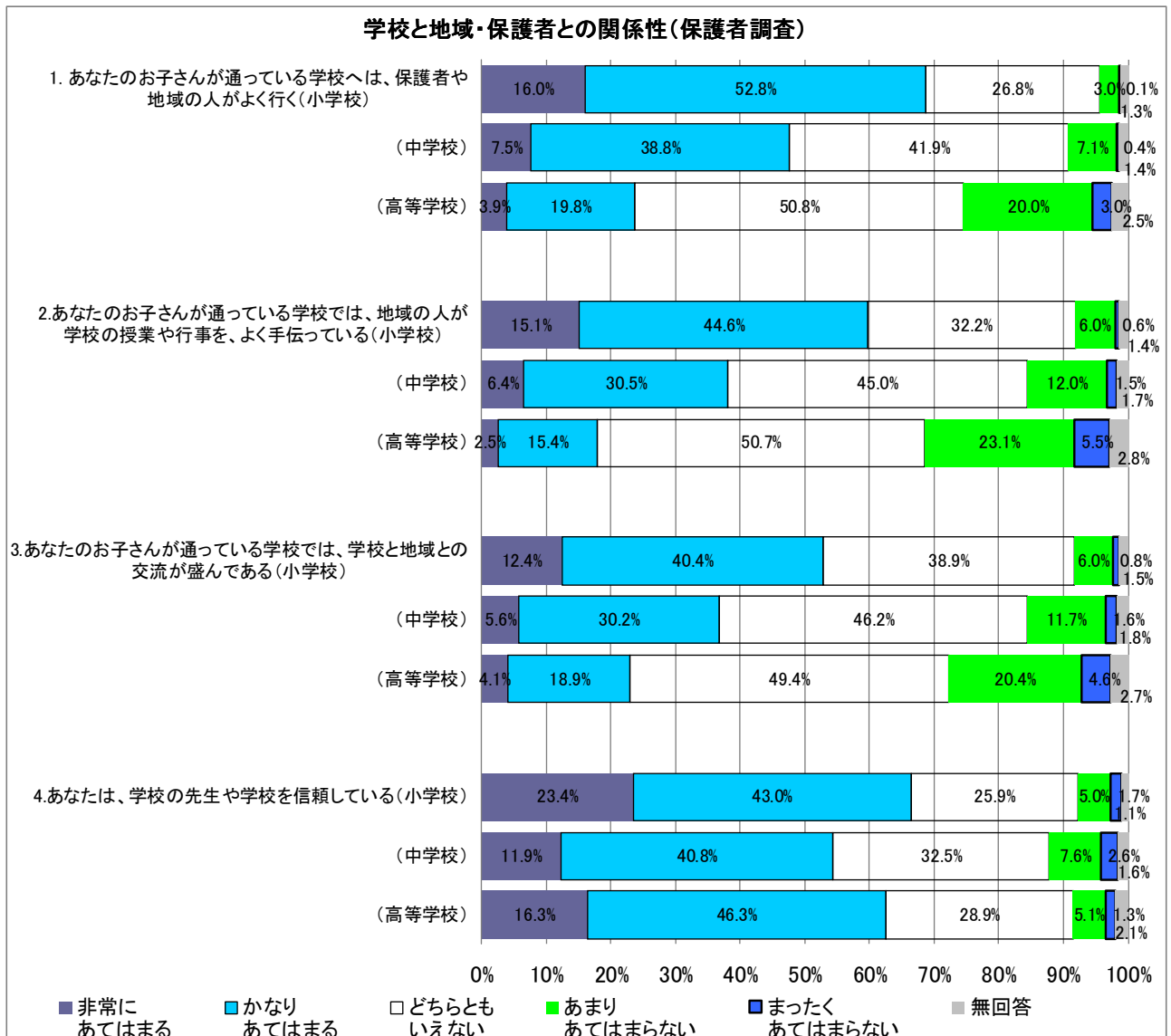
学校段階が上がるにつれて、学校と地域・保護者との交流が減少し、保護者の先生や学校に関する信頼は、中学校で低くなっている。

**問3** お子様の学校と地域・保護者との関係について、次のことはどの程度あてはまりますか。

以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

◆学校段階が上がるにつれて、学校と地域・保護者との交流が減少している。また、すべての学校段階において、「4.あなたは、学校の先生や学校を信頼している」について「非常に当てはまる」「かなりあてはまる」とする保護者が5割を超えているが、小学校で最も高く、中学校が最も低くなっている。

グラフ3-1 <地域との関係性> 小学校N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



## (2) 子どもの将来の可能性について

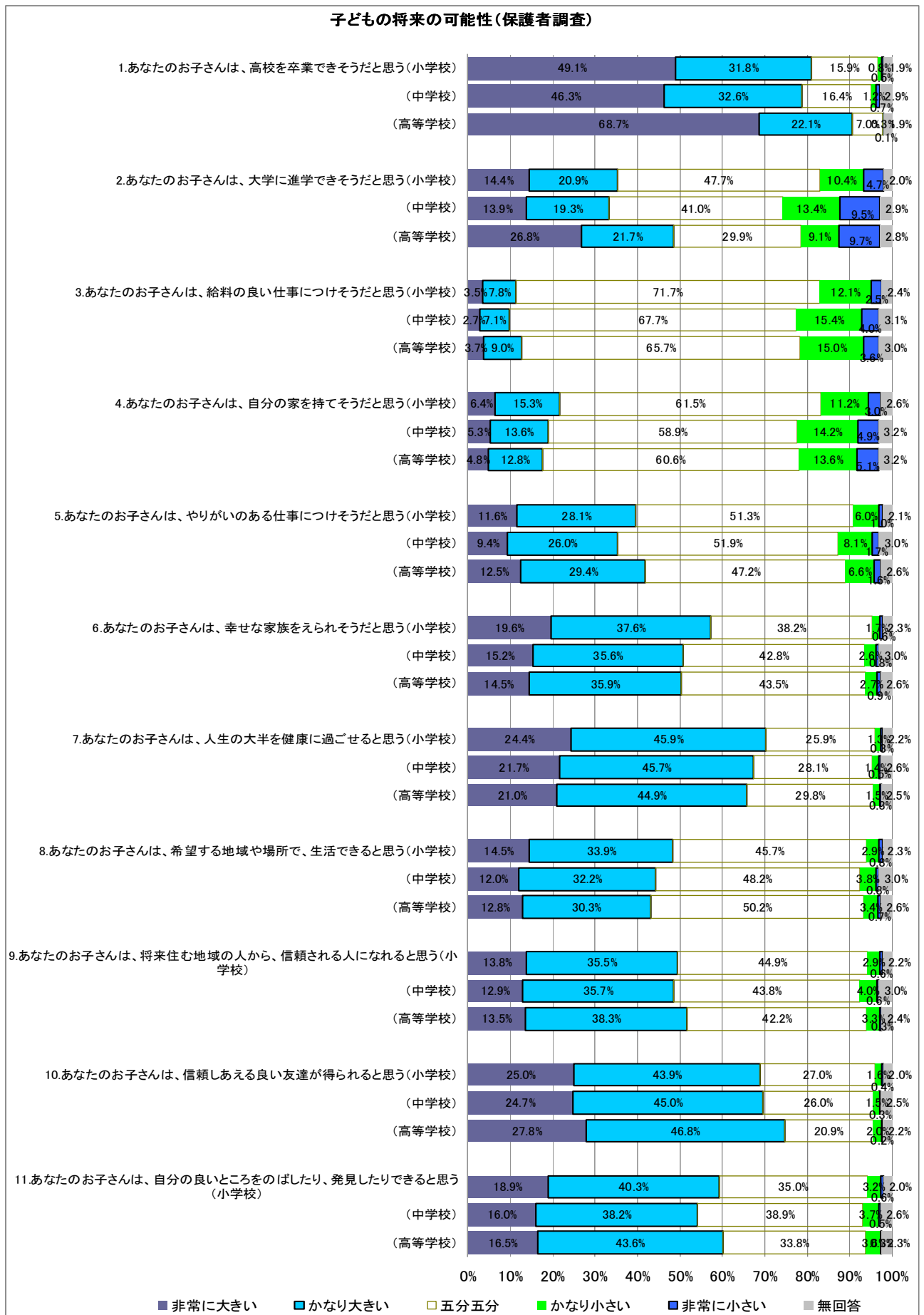
### ポイント

「10. 信頼しあえる良い友達が得られると思う」「7. 人生の大半を健康に過ごせると思う」の質問に約7割の保護者が肯定的に捉えている。また、全体的な傾向として、中学校において、質問に対し否定的に捉える保護者が若干多くなる傾向がある。

**問4** お子様の将来について、お子様が次のことを実現できる可能性をどのように考えていますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆すべての学校段階において、「1. 高校を卒業できそうだと思う」を約8～9割の保護者が、「10. 信頼しあえる良い友達が得られると思う」「7. 人生の大半を健康に過ごせると思う」の項目について、約7割近くの保護者が肯定的に捉えている。また、全体の傾向として、小学校、高等学校が、質問に対して比較的肯定的に捉えている保護者の割合が高いのに対して、中学校の保護者において、割合が若干低くなる傾向が見られる。

グラフ3-2 <子どもの将来>小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



### (3) 子どもは喜んで学校へ行っているか

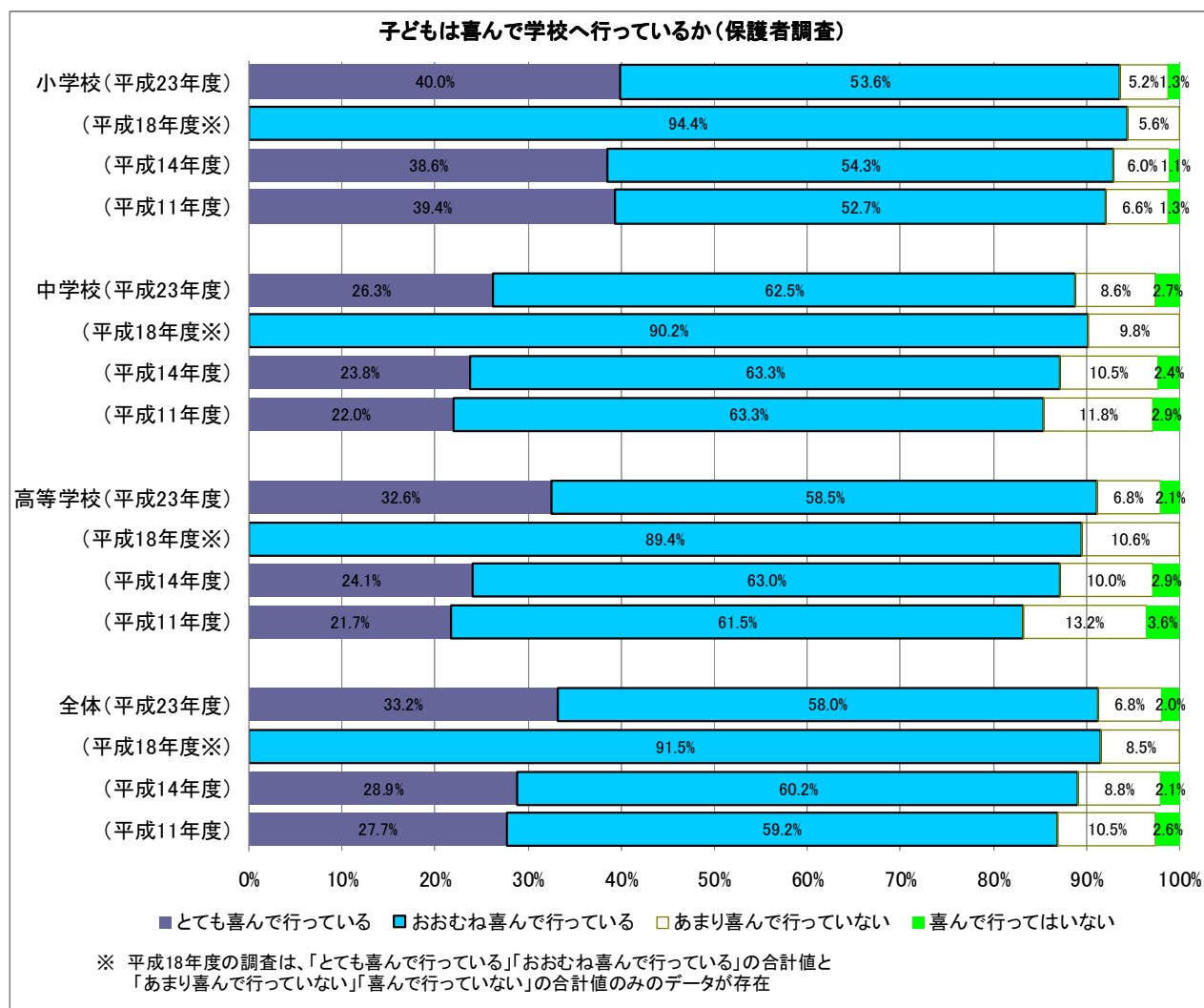
#### ポイント

約9割の保護者が子どもは学校へ喜んで行っていると捉えているが、中学校において、その割合が低くなっている。

問5 あなたのお子様は学校へ喜んで行っていますか。当てはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆各学校段階において、9割前後の保護者が、子どもは「とても喜んで行っている」「おおむね喜んで行っている」と捉えているが、中学校において「とても喜んで行っている」と捉えている保護者が低くなっている。
- ◆平成11、14、18年度に実施した「児童生徒の生活・学習意識実態調査（長野県教育委員会）」の保護者調査と比較すると、肯定的に捉えている割合が増加傾向ではあるが、平成18年度の全体の数値（91.5%）から数値の伸びはなく、ほぼ同程度（91.2%）となっている。

グラフ3-3 <学校の満足度>小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



#### (4) 高等学校の選択理由について

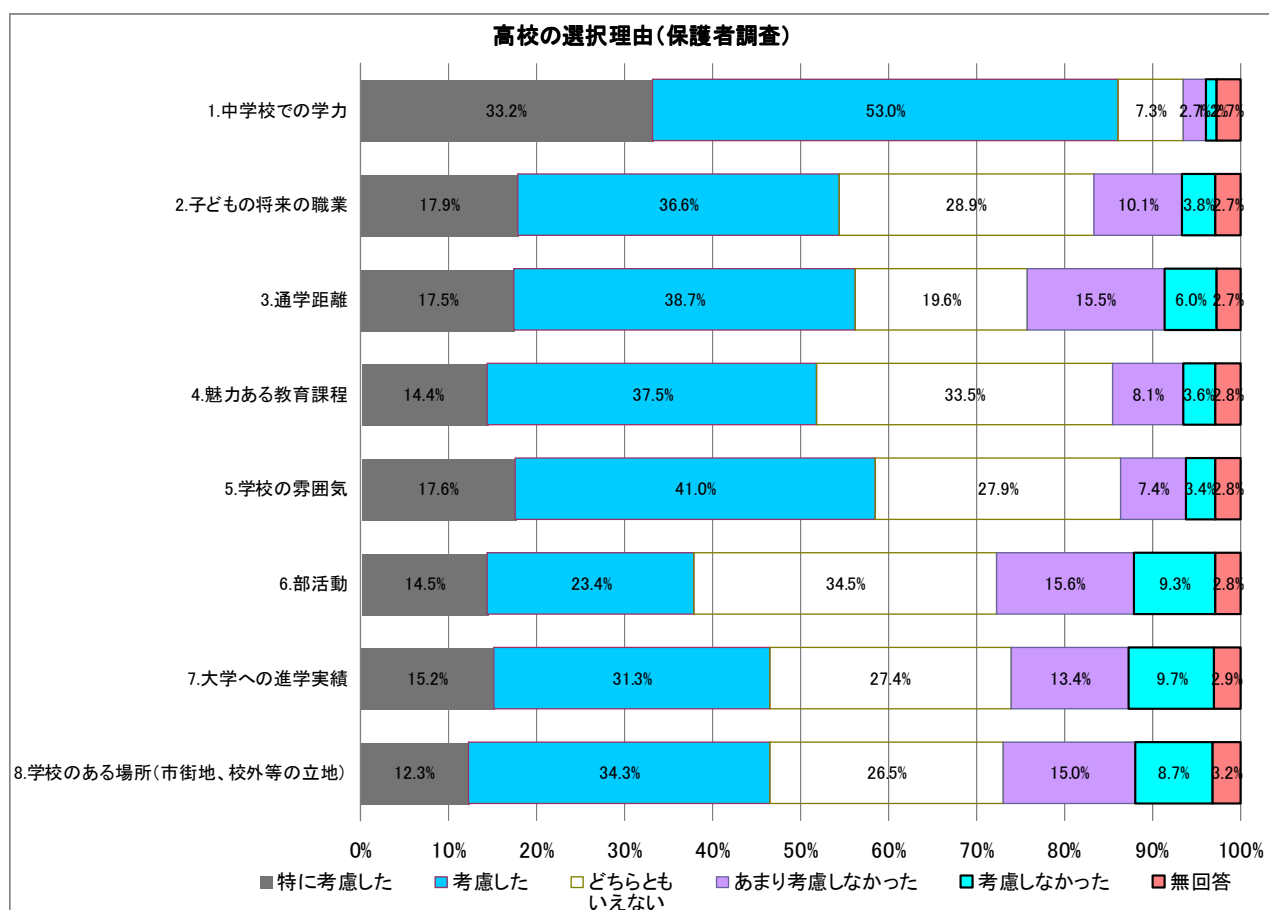
##### ポイント

高等学校の選択に際して、「1. 中学校での学力」を考慮したと回答する保護者の割合が86.2%と最も高く、次いで「5. 学校の雰囲気」とする保護者が58.6%となっている。

**問6** 高校生の保護者の方にうかがいます。あなたのお子さんが進学した高等学校を選択した際に、考慮した事項は何ですか。次の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

◆高等学校の選択に際して、「1. 中学校での学力」を「特に考慮した」「考慮した」と答える保護者の割合が86.2%と最も高く、次いで「学校の雰囲気」とする保護者が58.6%と高くなっている。

グラフ3-5 <高校の選択理由> 小学校N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277





(5) 全国学力・学習状況調査について

ポイント

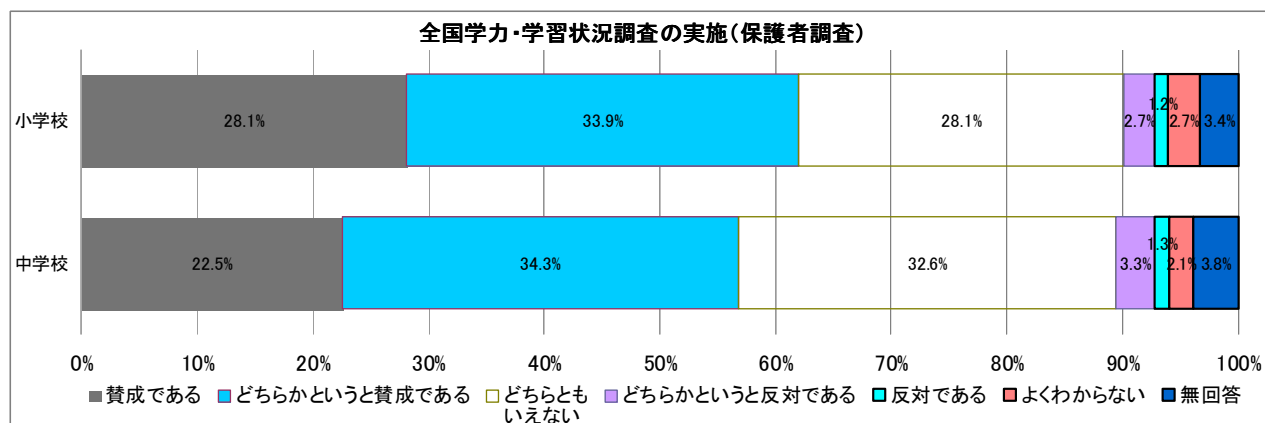
全国規模の学力・学習状況調査について、約6割の保護者が「賛成である」「どちらかという賛成」と回答しており、反対としている保護者の割合(1割弱)を大きく上回っている。また、保護者への伝達は求めているが、全体的な公表については、意見が分かれている。

問7 小・中学校生の保護者の方にうかがいます。文部科学省が全国規模で児童・生徒の学力・学習状況の調査を実施することについて、どう思われますか。もっともよくあてはまる番号に○印をつけてください。

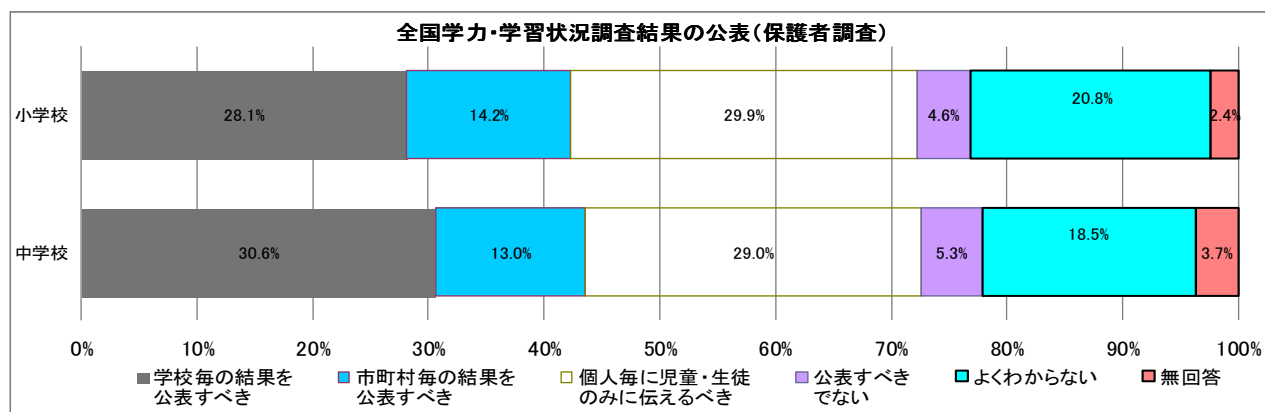
問8 小・中学校生の保護者の方にうかがいます。問7の全国学力・学習状況調査の結果を保護者へ公表することについて、どう思われますか。以下の項目からもっともよくあてはまるものを1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

- ◆全国規模の学力・学習状況調査について、約6割の保護者が「賛成である」「どちらかという賛成」と回答しており、反対としている保護者の割合を大きく上回っているが、「どちらともいえない」と回答する保護者も約3割と少なくない。
- ◆調査結果の保護者への公表については、約7割の保護者が何らかの形で結果を保護者に伝えることを求めているが、「学校毎の結果を公表すべき」とする保護者と「個人毎に児童・生徒のみに伝えるべき」とする保護者が同程度となっている。

グラフ3-6<全国学力・学習状況調査>小学校 N=3,539 中学校N=3,228



グラフ3-7<調査結果の公表>小学校 N=3,539 中学校N=3,228 高等学校



(6) 保護者の求める授業イメージについて

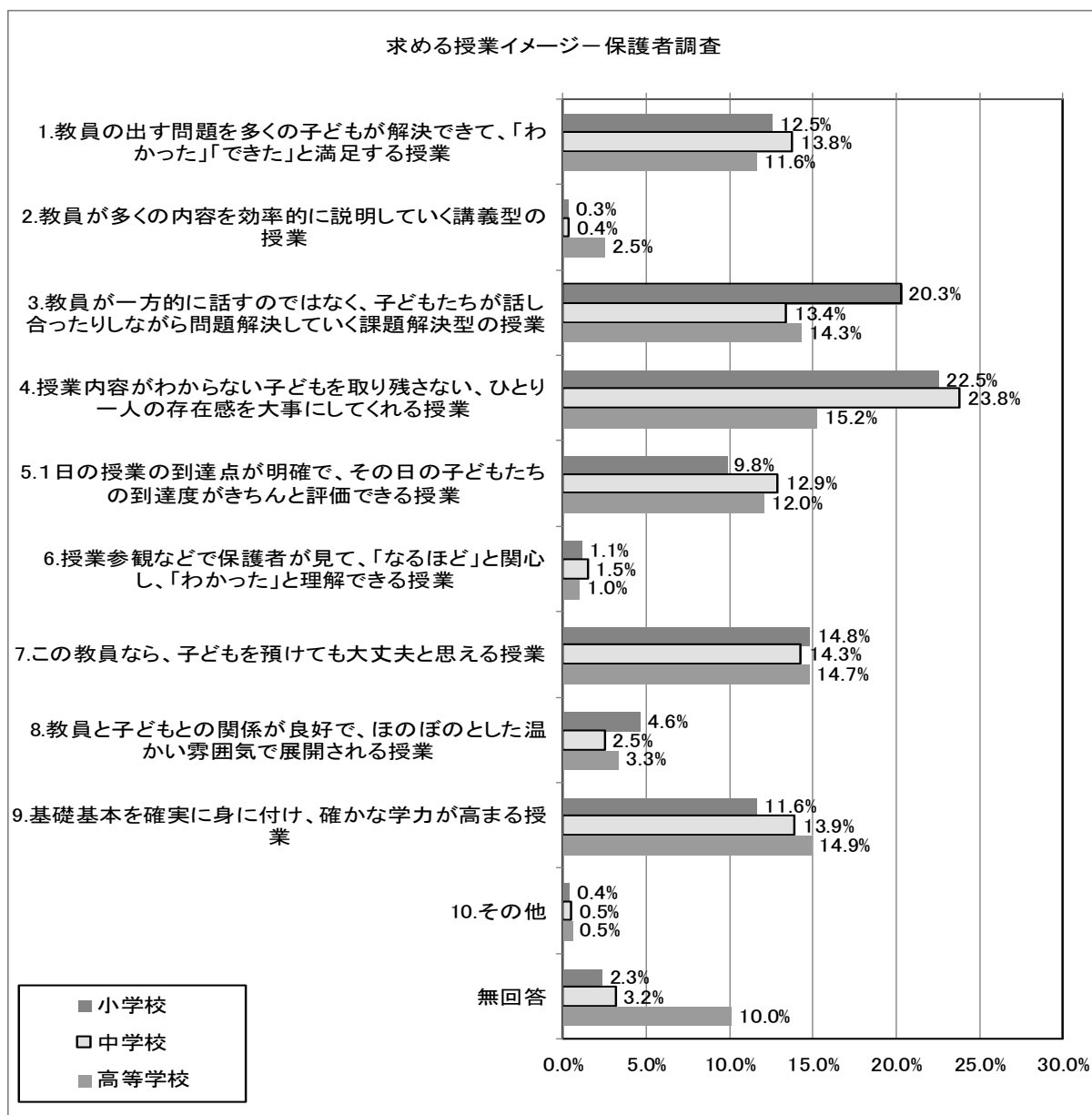
ポイント

保護者は「4. 授業内容がわからない子どもを取り残さない、ひとり一人の存在感を大事にしてくれる授業」を選択する保護者が最も多い。

問9 学校の授業について、どのようなことを望みますか。以下の項目からもっともよくあてはまるものを1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

◆保護者は「4. 授業内容がわからない子どもを取り残さない、ひとり一人の存在感を大事にしてくれる授業」を選択する保護者が最も多い。次いで「3. 教員が一方的に話すのではなく、子どもたちが話し合ったりしながら問題解決していく課題解決型の授業」「9. 基礎基本を確実に身に付け、確かな学力が高まる授業」となっており、一人ひとりの存在感や基礎基本、課題解決型の授業等多様な授業イメージが求められている状況となっている。

グラフ3-8<授業イメージ>小学校N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



## 4 教員と保護者の意識調査の比較について

### (1) 保護者・地域との連携や学校支援について

#### ポイント

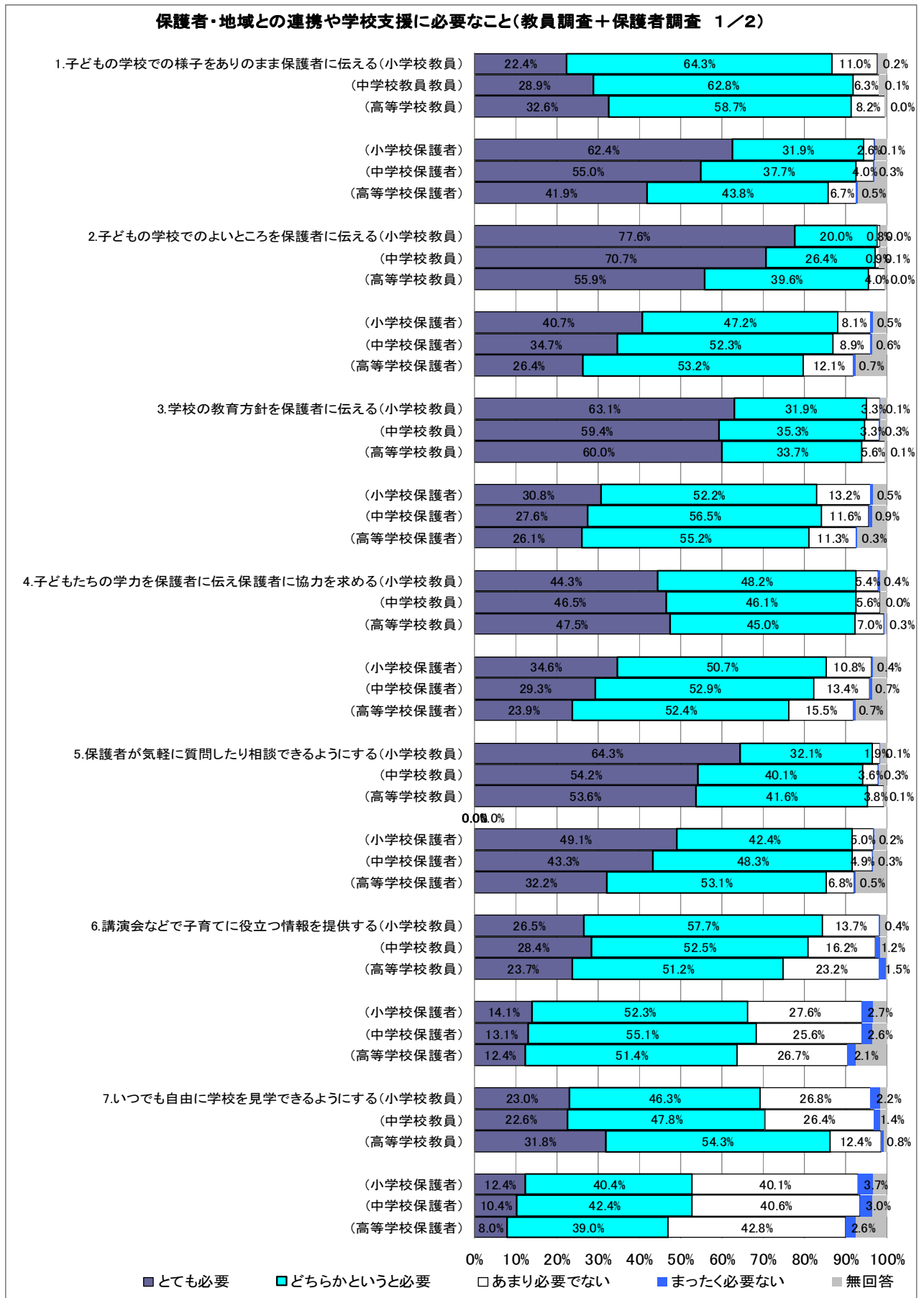
保護者、教員ともに、子どもに関する情報提供や相談対応を「とても必要」とする意識が高い。ただし、「とても必要」とする項目は、教員が「1. 子どもの学校でのよいところを保護者に伝える」「3. 学校の教育方針を保護者に伝える」などの割合が高いのに対して、保護者は「1. 子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える」「5. 保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」の割合が高くなっている。

**教員問5** 保護者・地域との連携や学校支援について、次のようなことは必要だと思われるか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

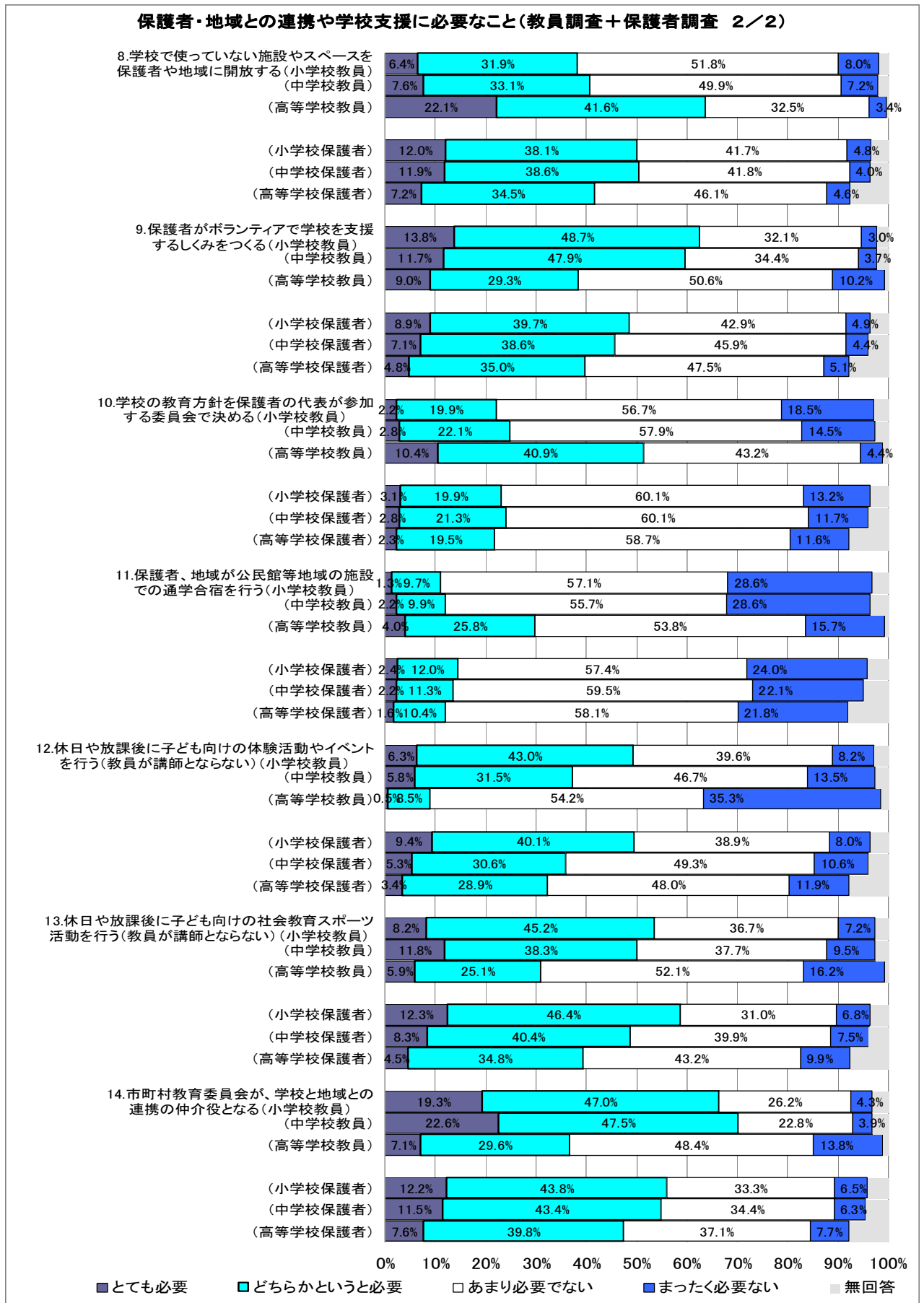
**保護者問11** あなたのお子様の通われている学校に、次のようなことを望みますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆すべての学校段階において、「1. 子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える」「5. 保護者が気軽に質問したり相談できるようにする」「2. 子どもの学校でのよいところを保護者に伝える」「4. 子どもたちの学力を保護者に伝え保護者に協力を求める」「3. 学校の教育方針を保護者に伝える」の5項目について、「とても必要」「どちらかという必要」とする教員・保護者が約8割以上となっており、項目としては、保護者と教員の意識が一致している傾向が見られる。
- ◆ただし、「とても必要」と答えた選択項目については、「1. 子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える」ことを保護者が最も多く望んでいるのに対し、教員では「2. 子どもの学校でのよいところを保護者に伝える」項目を「とても必要」と回答する教員の割合が高くなっている。また、「3. 学校の教育方針を保護者に伝える」を教員が最も多く望んでいるのに対し、保護者では「とても必要」とする割合が低く、保護者との意識の差に違いが見られる。

グラフ4-1 <地域連携や学校支援①> 教員小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733  
 保護者小学校 N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



グラフ4-2<地域連携や学校支援②> 教員小学校N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733  
保護者小学校N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



## (2) 授業以外で教員がやるべきことについて

### ポイント

小中学校においては、「4.集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」、「3.しつけをすること（集団の中でルールを守ること）」について、教員も保護者も「教員がやるべき」とする割合が高くなっている。

高等学校においては、「9.進路指導」、「4.集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」等について、教員も保護者も「教員がやるべき」とする割合が高くなっている。

また、学校段階を通じて、保護者は「9.進路指導」や「18.学校の教育方針や学級における子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供」について、教員よりもやるべきとする割合が高い傾向がある。

**教員問6** 教員として教科指導以外にやるべきことは何だと思えますか。このページの下部の項目欄から優先度の高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

**保護者問12** あなたのお子様が通学している学校の先生が授業以外にちゃんとやるべきことは何だと思えますか。このページ下部の項目欄からやるべきだと思う度合いの高いものを3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

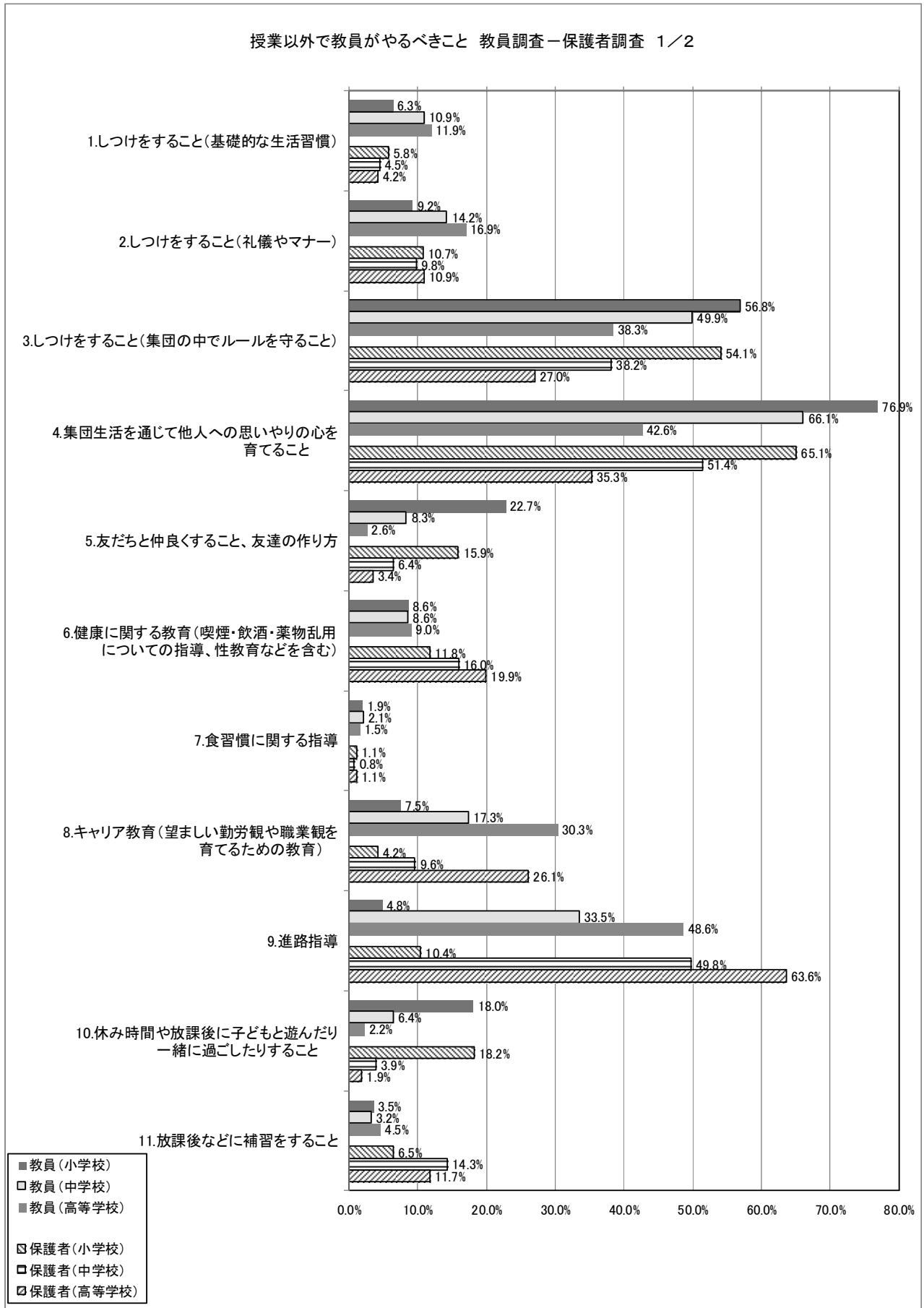
◆小中学校では、授業以外で教員がやるべき事項として、「4.集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」、「3.しつけをすること（集団の中でルールを守ること）」の項目を回答している。

この2項目は、保護者との意識調査とも一致しており、人への思いやりやルールを守ることなどの集団生活を営むために必要な事項を、教員も自らがやるべき事項としてとらえている。また、中学校で「9.進路指導」を回答する者が増加することも、保護者と一致している。

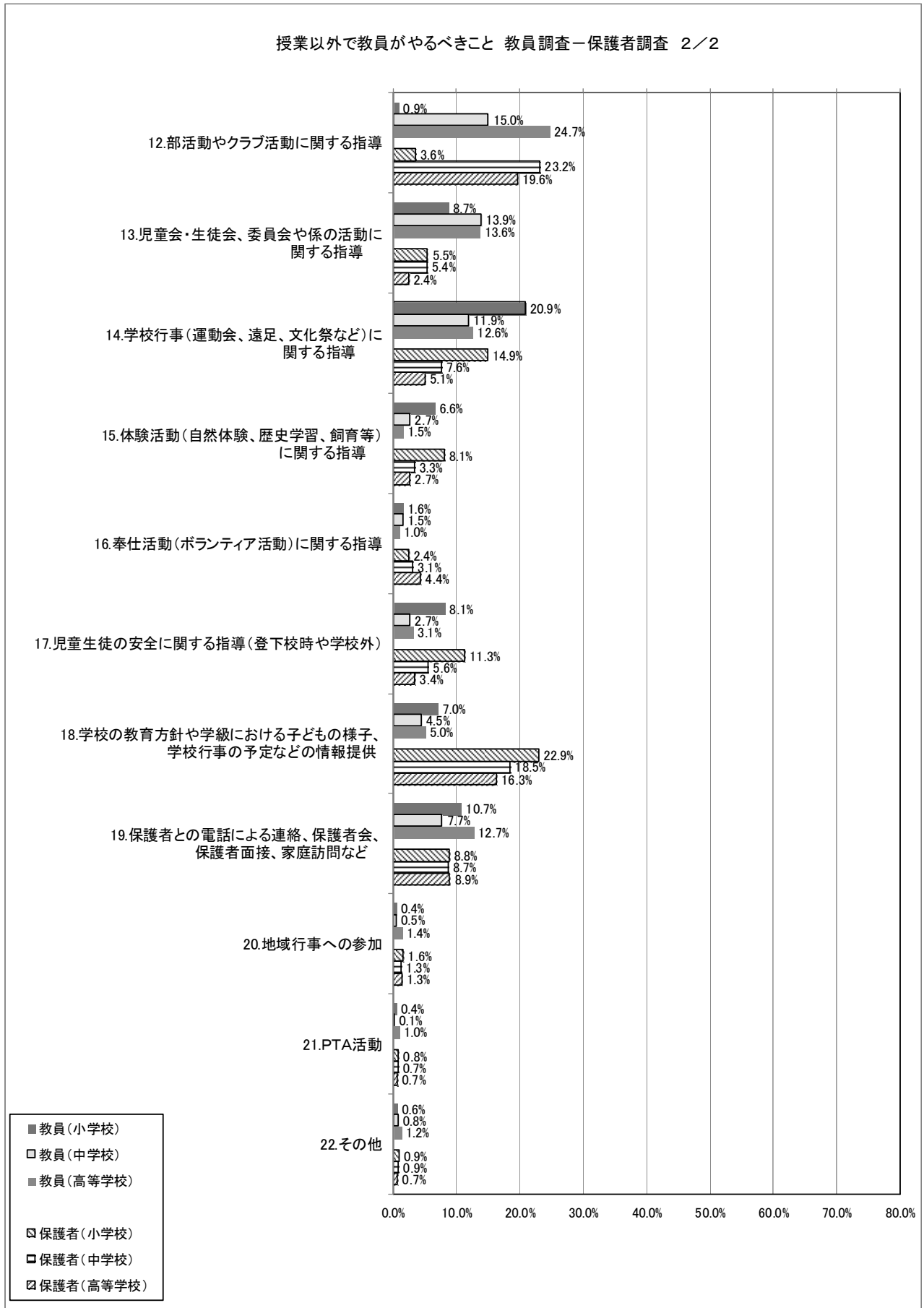
◆高等学校では、「9.進路指導」が最も高くなっている。次いで、小中学校の教員と同様に「4.集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること」、「3.しつけをすること（集団の中でルールを守ること）」、「8.キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）」を回答する教員が多い。

◆教員と保護者の意識調査と比較すると、学校段階を通じて、保護者は「9.進路指導」や「18.学校の教育方針や学級における子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供」について、教員の回答よりもやるべきとする割合が高い傾向がある。

グラフ4-3 <授業以外でやるべきこと①> 教員(小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733)  
保護者(小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277)



グラフ4-4 <授業以外でやるべきこと②> 教員 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733  
 保護者 小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277





### (3) 教員があまりやらなくても良いこと

#### ポイント

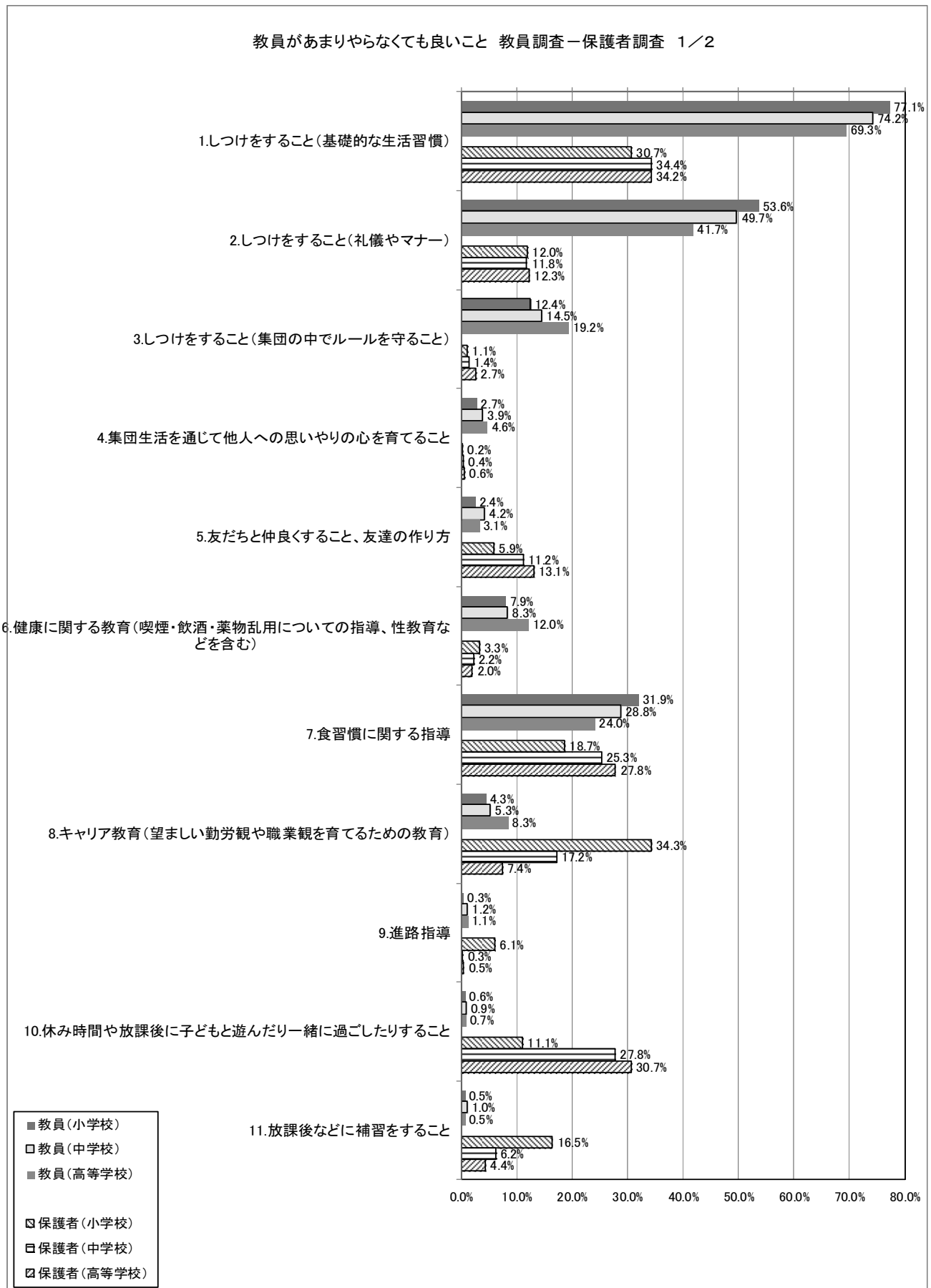
教員と保護者が共通して、教員があまりやらなくてよいと思うこととして、「1. しつけをすること（基礎的な生活習慣）」、「2. しつけをすること（礼儀やマナー）」、「7. 食習慣に関する指導」、「20. 地域行事への参加」の項目を回答している。  
「8. キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）」については、小中学校で教員があまりやらなくてもよいとする保護者が多くなっている。

**教員問7** できれば教育委員会や保護者、地域の方々などが主に担うべきことは何ですか。このページの下部の項目欄から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

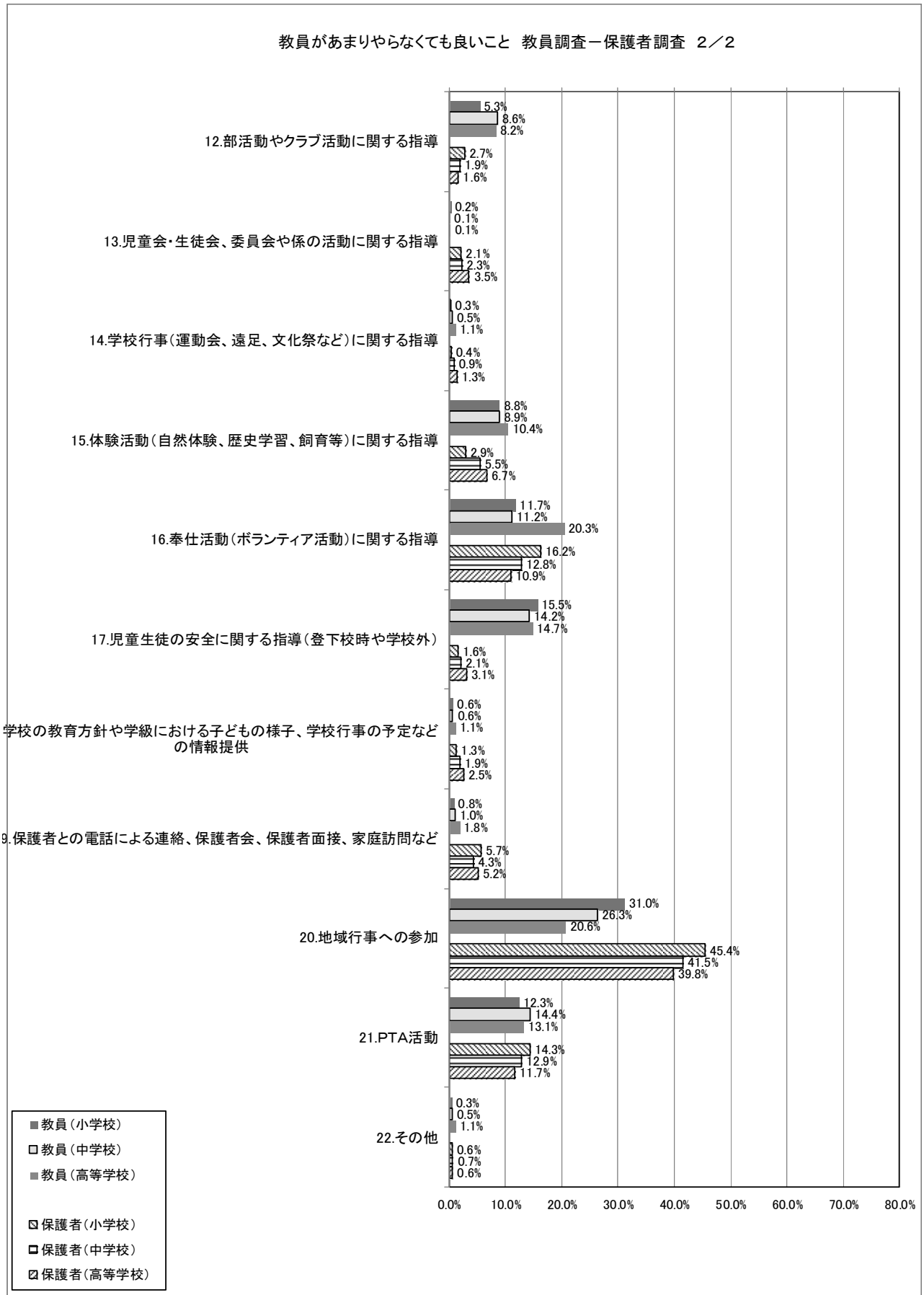
**保護者問13** 逆に、学校の先生があまりやらなくても良いと思うものは何ですか。このページの下部の項目欄からやらなくてもよいと思う度合いの高いものを3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

- ◆教員と保護者が共通して、教員があまりやらなくてよいと思うことや、地域の方々などが主に担うべきこととして、「1. しつけをすること（基礎的な生活習慣）」、「2. しつけをすること（礼儀やマナー）」、「7. 食習慣に関する指導」、「20. 地域行事への参加」の項目を回答している。
- ◆この中で、「1. しつけをすること（基礎的な生活習慣）」、「2. しつけをすること（礼儀やマナー）」については、教員は特に教員以外（教委や保護者等）がやるべきとする回答の割合が高くなっている。
- ◆「8. キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）」については、教員はあまり教員以外が主に担うべきとは考えていないが、保護者では、教員があまりやらなくてもよいとする回答が多くなっており、特に小中学校において回答の割合が高い。

グラフ4-5 <教員がやらなくても良いこと①>教員小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733  
保護者小学校 N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



グラフ4-6 <教員がやらなくても良いこと①>教員小学校 N=1,154 中学校N=779 高等学校N=733  
保護者小学校 N=3,539 中学校N=3,228 高等学校N=3,277



#### (4) 学校教育等で身につける必要性が高い能力や態度について

##### ポイント

教員、保護者に共通して、学校教育の中で身につける必要性の高い能力・態度として、「1.教科の基礎的な学力」、「3.自ら学ぼうとする意欲」、「16.人間関係を築く力」があげられている。一方、「2.受験に役立つ学力」は、保護者からの必要性の割合が高く、教員との差が大きくなっている。

また、活用力・表現力・判断力等に関わる項目やキャリア形成に関わる項目について、教員の意識における必要性の高さと実際の定着度の認識にギャップが大きい。

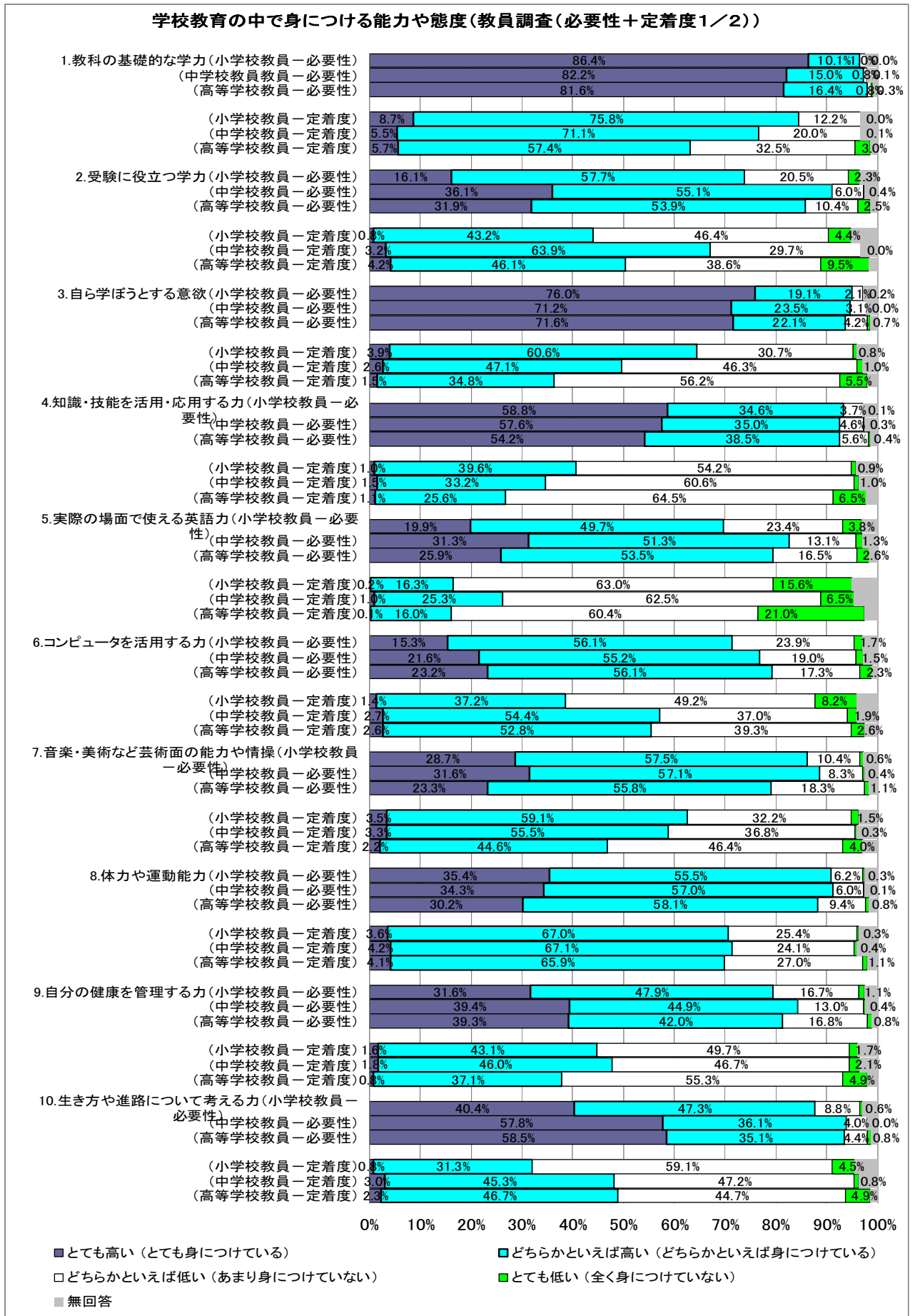
**教員問 10** ①学校教育の中で、次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。また、②子どもたちはそれらの能力や態度を、学校教育の中で実際に見につけていると思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を①及び②からそれぞれ1つ選び、数字に○印をつけてください。

**保護者問 1** ①学校教育の中で、子どもたちが次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。また、②家庭教育や学校以外の場で、次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を①及び②からそれぞれ選び、数字に○印をつけてください。

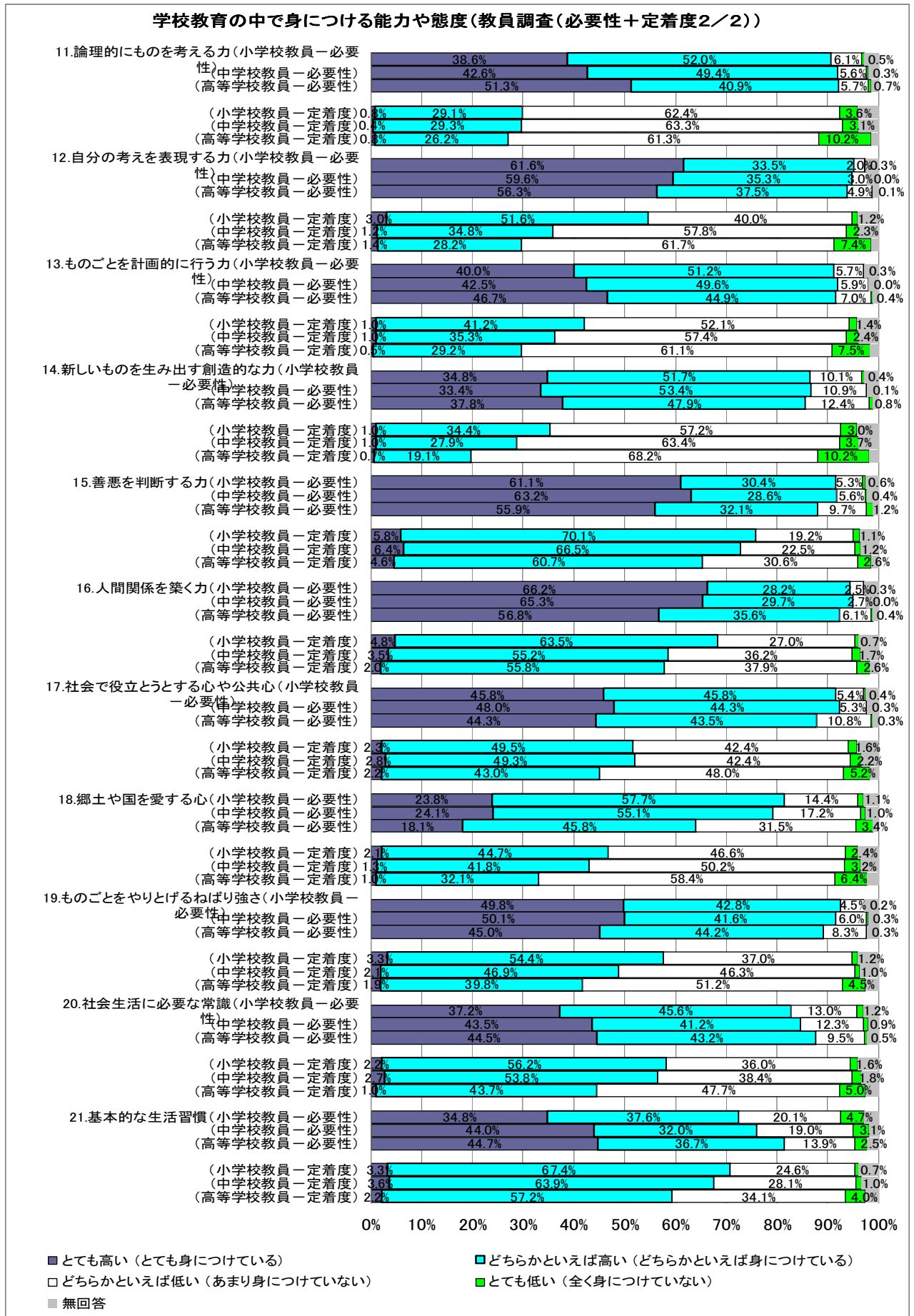
##### ①教員意識における学校教育の中で身につける必要性が高い能力や態度

- ◆教員は、様々な力を学校教育の中で身につけてほしいと思っている。特に、「1.教科の基礎的な学力」、「3.自ら学ぼうとする意欲」について、小中高等学校に共通して7割以上が必要性を「とても高い」と回答している。また、「4.知識・技能を活用・応用する力」、「12.自分の考えを表現する力」、「15.善悪を判断する力」、「16.人間関係を築く力」も5割以上が必要性を「とても高い」と回答している。
- ◆教員の意識における必要性と実際に身につけているかの定着度の差を比較すると、「3.自ら学ぼうとする意欲」、「4.知識・技能を活用・応用する力」、「10.生き方や進路について考える力」、「11.論理的にものを考える力」、「12.自分の考えを表現する力」等の活用力・表現力・判断力等に関わる項目やキャリア形成に関わる項目について、その差が大きくなっている。

グラフ4-7 <必要性+定着度①> 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733

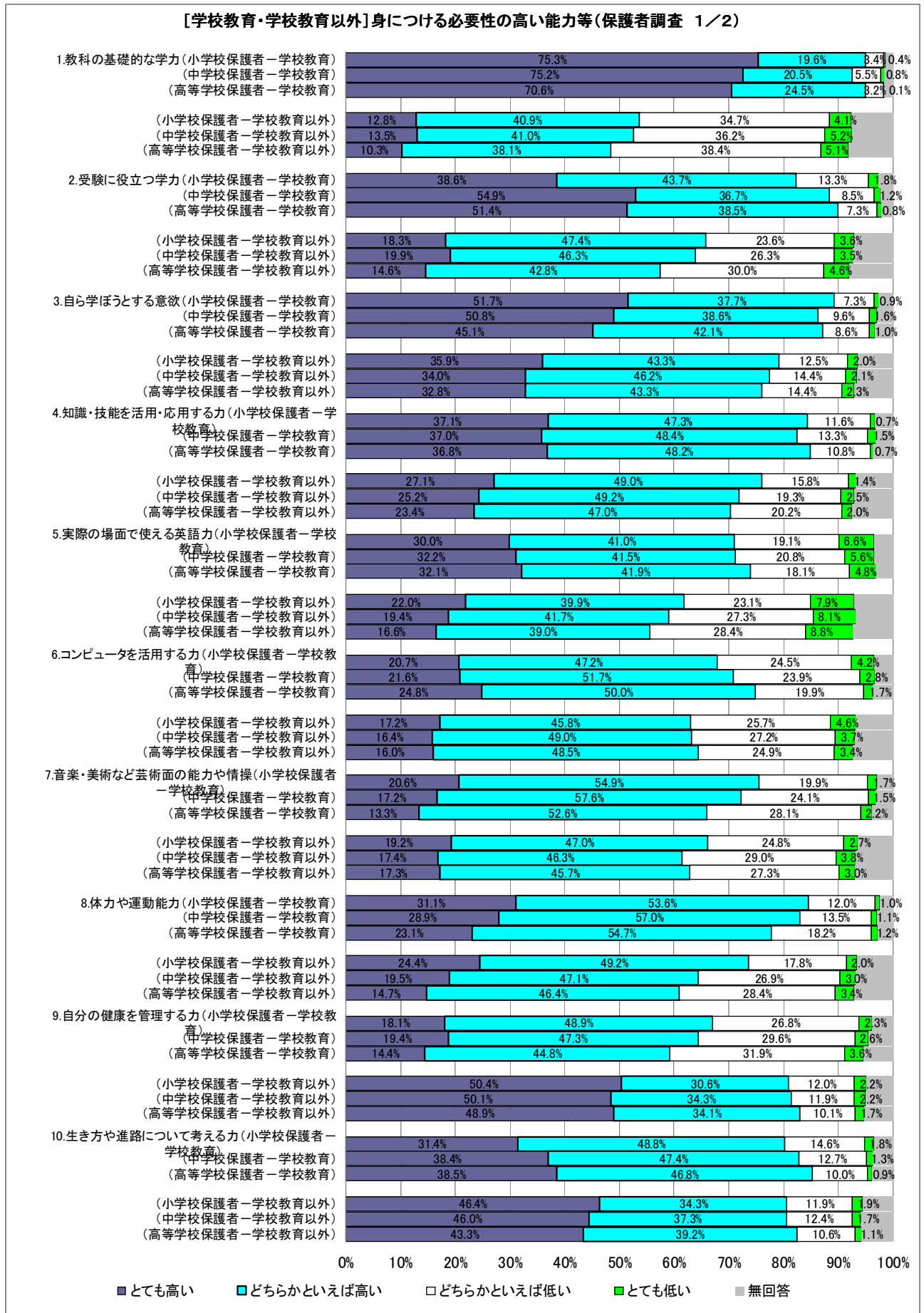


グラフ4-8 <必要性+定着度②> 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733



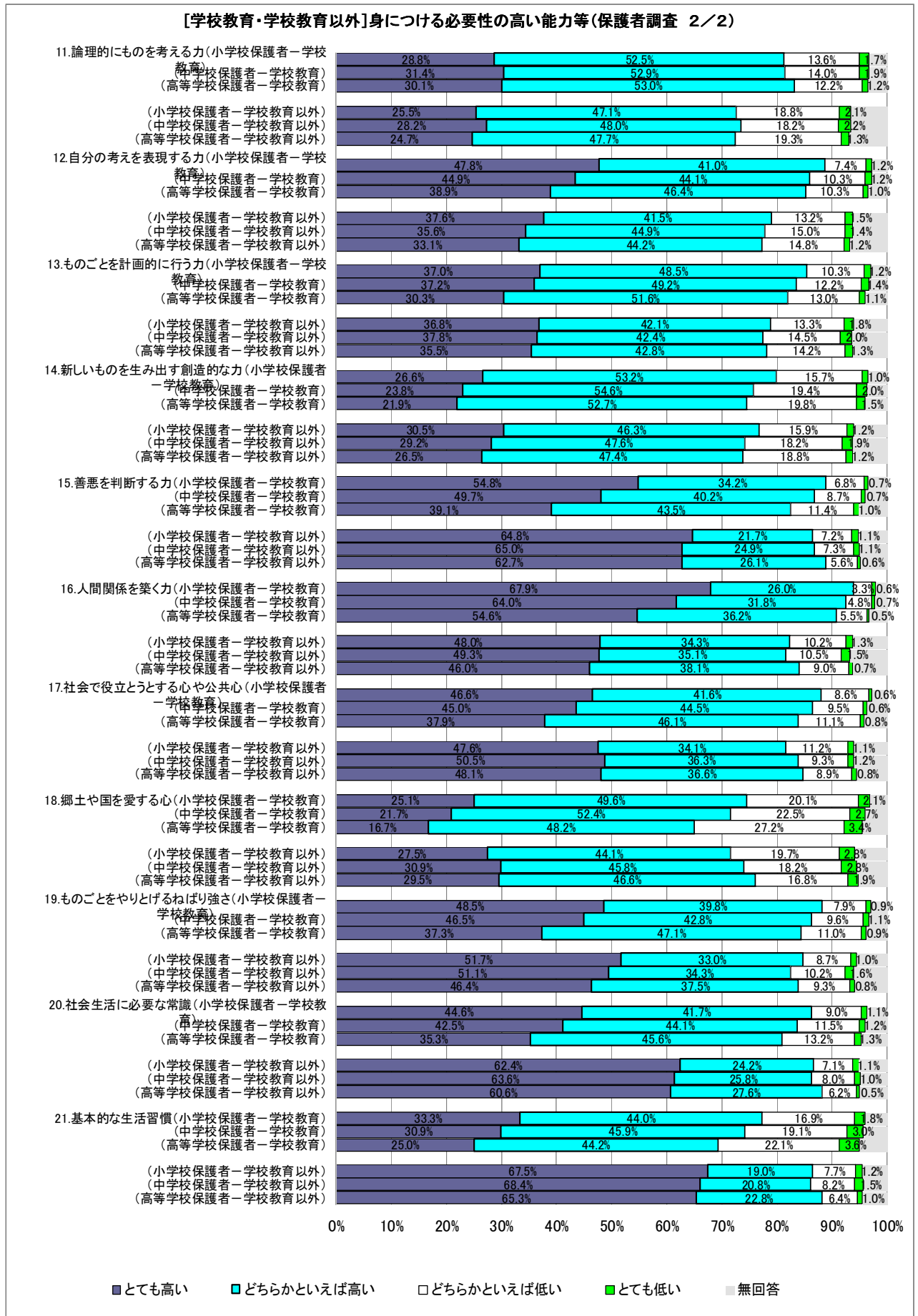
- ②保護者意識における学校教育の中及び学校教育以外で身につける必要性が高い能力や態度
- ◆保護者において、学校教育の中で身につける必要性が高いとする項目として、「1.教科の基礎的な学力」「16.人間関係を築く力」について、小中高等学校に共通して5割以上が必要性を「とても高い」と回答している。また、「2.受験に役立つ学力」、「3.自ら学ぼうとする意欲」「15.善悪を判断する力」も概ね4割以上が必要性を「とても高い」と回答している。
  - ◆中学校、高等学校では、上記に加え、学校教育以外よりも学校教育の中で身につける必要性が大きい項目は、「5. 実際の場面で使える英語力」や「8. 体力や運動能力」となっている。
  - ◆学校教育以外で身につける必要性が高い項目として、「9.自分の健康を管理する力」、「15. 善悪を判断する力」、「18.郷土や国を愛する力」、「20.社会生活に必要な常識」、「21.基本的な生活習慣」がとなっている。また、「15.善悪を判断する力」、「20.社会生活に必要な常識」については、学校教育の中で身につける必要性が高いと回答している項目でもある。

グラフ4-9 <学校教育+学校教育以外①> 小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



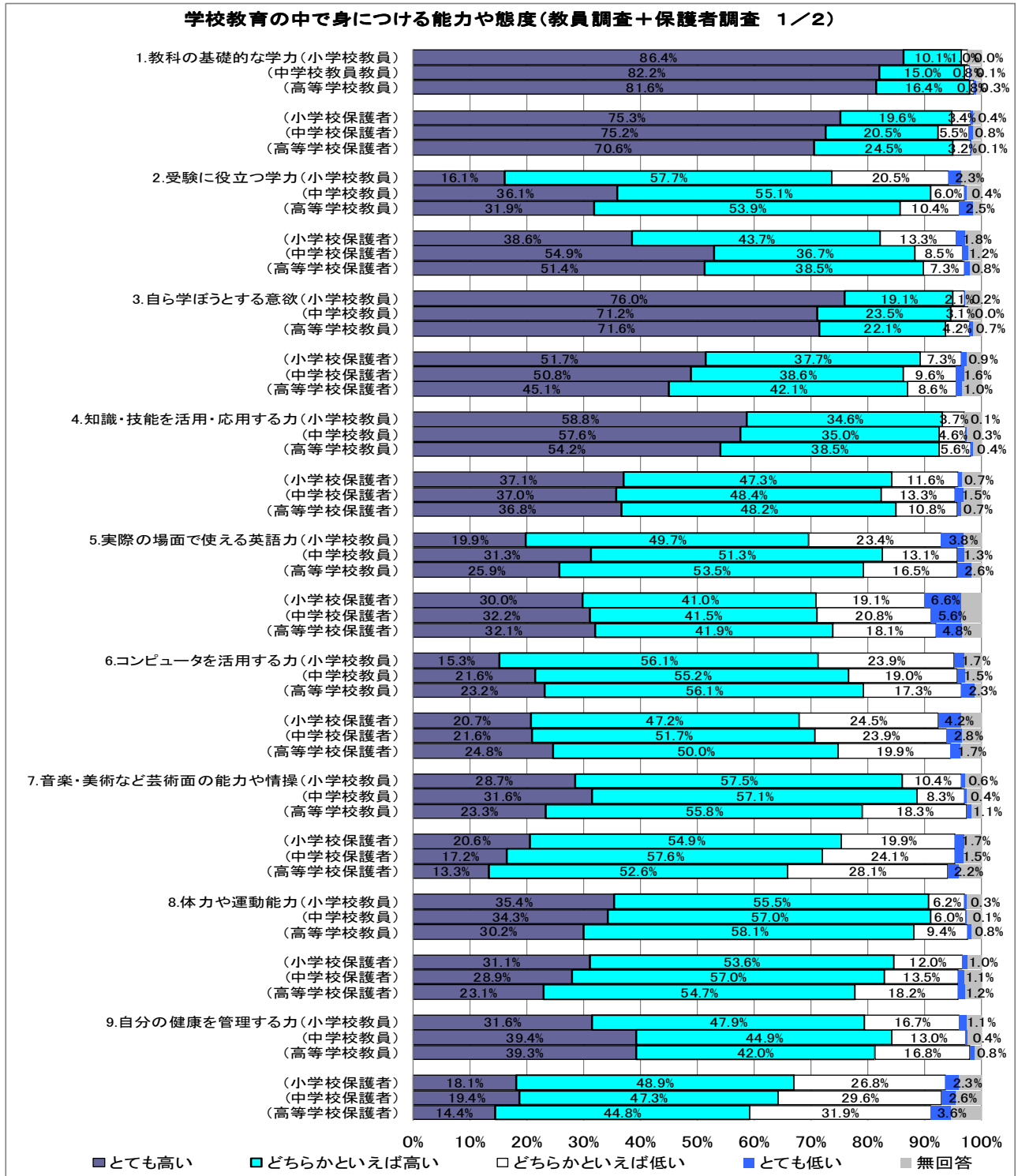


グラフ4-10 <学校教育+学校教育以外②>小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277

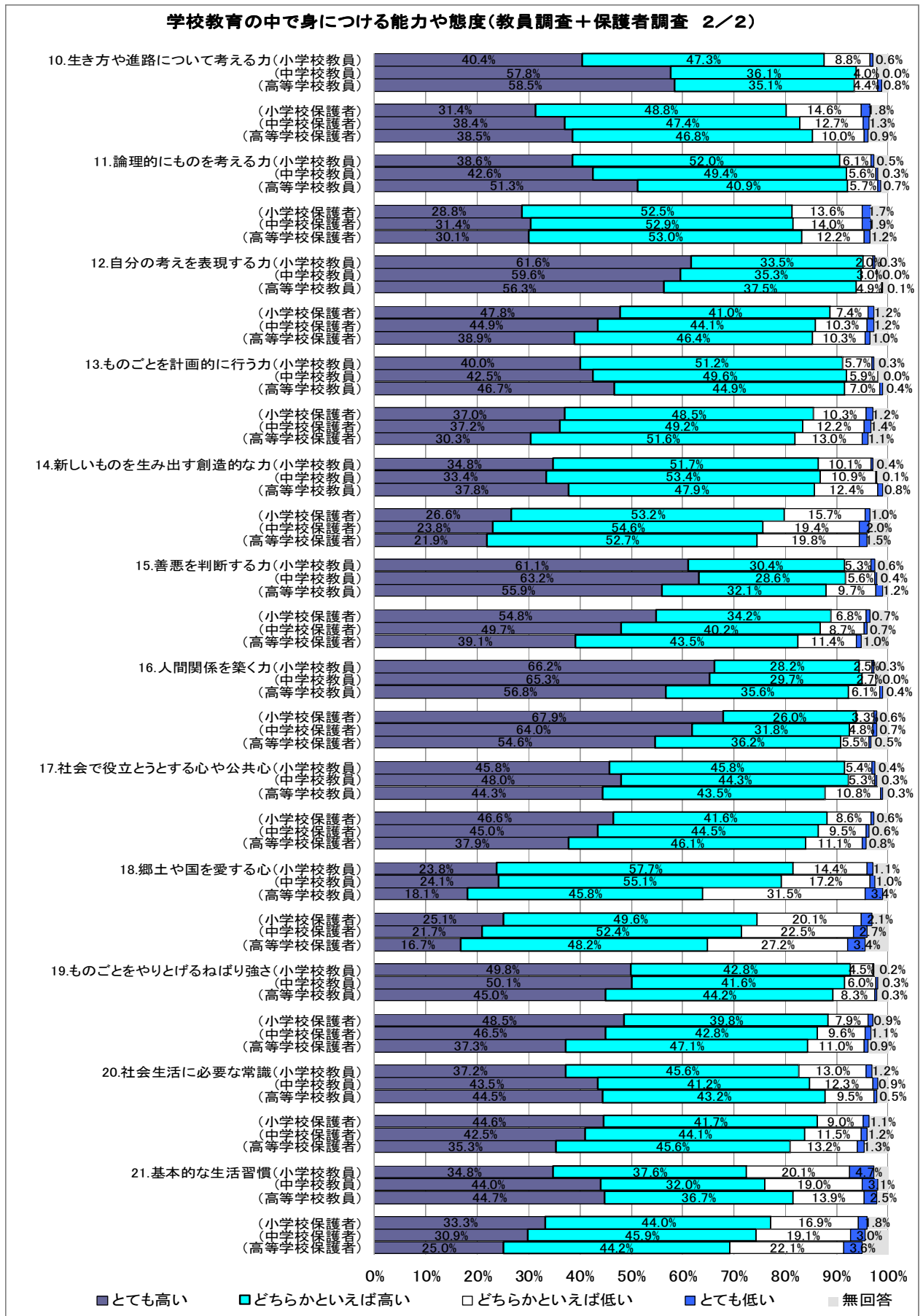


- ③学校教育で身につける必要性が高い能力や態度についての教員意識と保護者意識の違い
- ◆ 全般的に、身につける必要性が高いととらえる割合は、保護者よりも教員の方が高い傾向があるが、「2.受験に役立つ学力」と「5. 実際の場面で使える英語力」については、保護者の方が必要とする程度が高くなっている。
  - ◆ また、「3.自ら学ぼうとする意欲」、「4. 知識・技能を活用・応用する力」、「12.自分の考えを表現する力」等については、教員と保護者の間で必要性が「とても高い」とする割合に差が見られる。

グラフ4-11 <学校教育①>教員小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733  
保護者小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



グラフ4-12 <学校教育②> 教員小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733  
保護者小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



(5) どのような子どもたちが増えてほしいか

ポイント

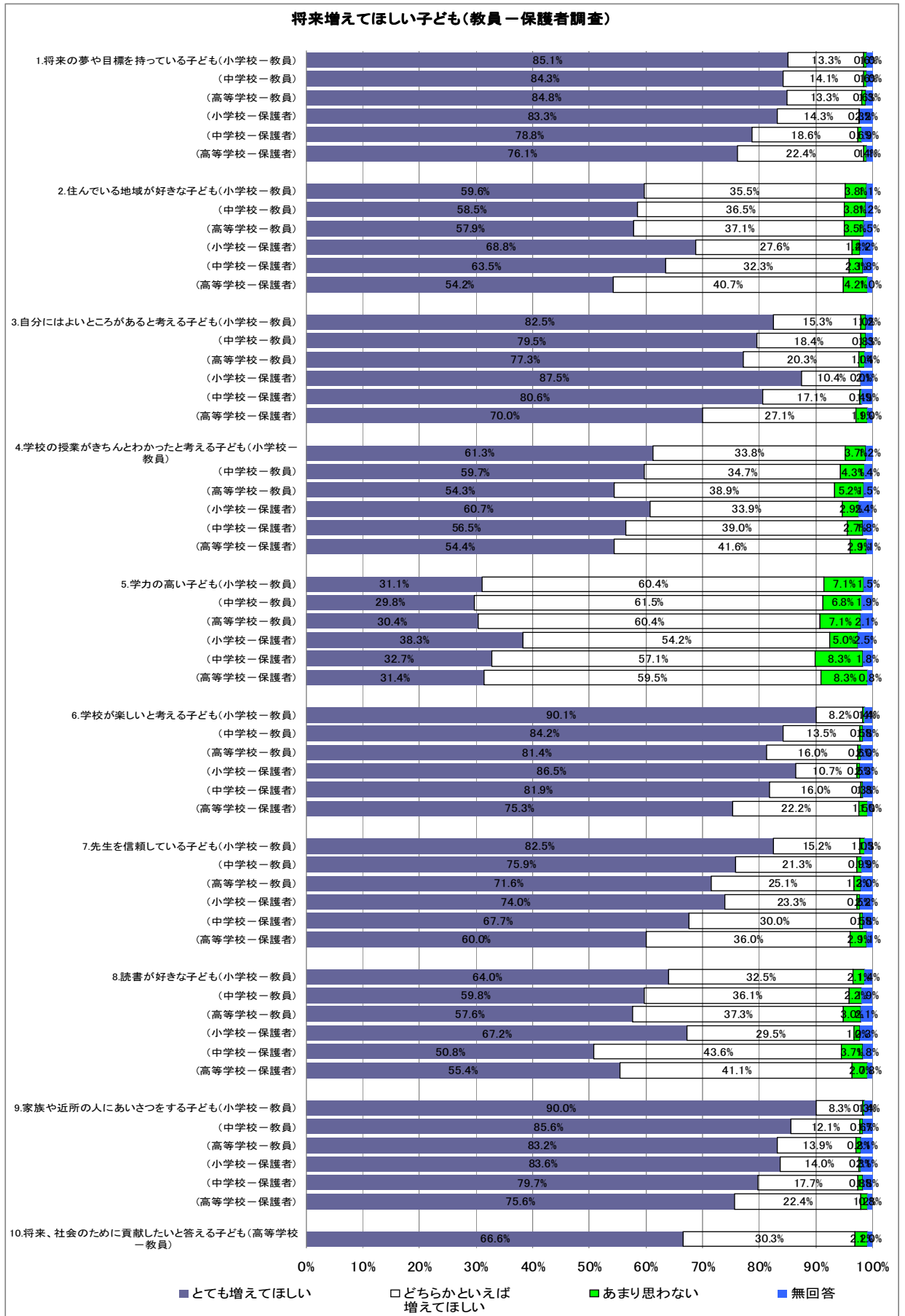
「1. 将来の夢や目標を持っている子ども」、「9. 家族や近所の人にあいさつをする子ども」、「6. 学校が楽しいと考える子ども」、「3. 自分にはよいところがあると考える子ども」について、「とても増えてほしい」と考える教員、保護者の割合が高い。

**教員問 11** 長野県の将来の学校教育を考えた時に、どのような子どもたちが増えてほしいと考えますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

**保護者問 2** 長野県の将来の学校教育を考えた時に、どのような子どもたちが増えてほしいと考えますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆すべての学校段階で、すべての項目について、9割以上の教員が「とても増えてほしい」または「どちらかといえば増えてほしい」としている。また、「1. 将来の夢や目標を持っている子ども」、「9. 家族や近所の人にあいさつをする子ども」、「6. 学校が楽しいと考える子ども」、「3. 自分にはよいところがあると考える子ども」について、小学校、中学校、高等学校に共通して増えてほしいと考える教員の割合が高くなっている。また、保護者の回答もほぼ同様の傾向となっている。

グラフ4-13 <将来増えてほしい子ども> 教員 小学校 N=1,154 中学校 N=779 高等学校 N=733  
保護者 小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



## (6) 子どもたちの体力向上について

### ポイント

小中学校の教員・保護者に共通して、「3.幼児期（幼稚園・保育所）での体力向上・身体活動の推進」「9.自由に遊べる場の整備」「8.登下校に歩くことができる環境の整備（下校時に自由な時間に安全に帰ることができる体制の整備）」が「とても必要」と回答する割合が高い。ただし、中学校の「2.学校での運動部活動の推進」については、教員と保護者との意識の差（保護者31.4%教員15.1%）が大きくなっている。

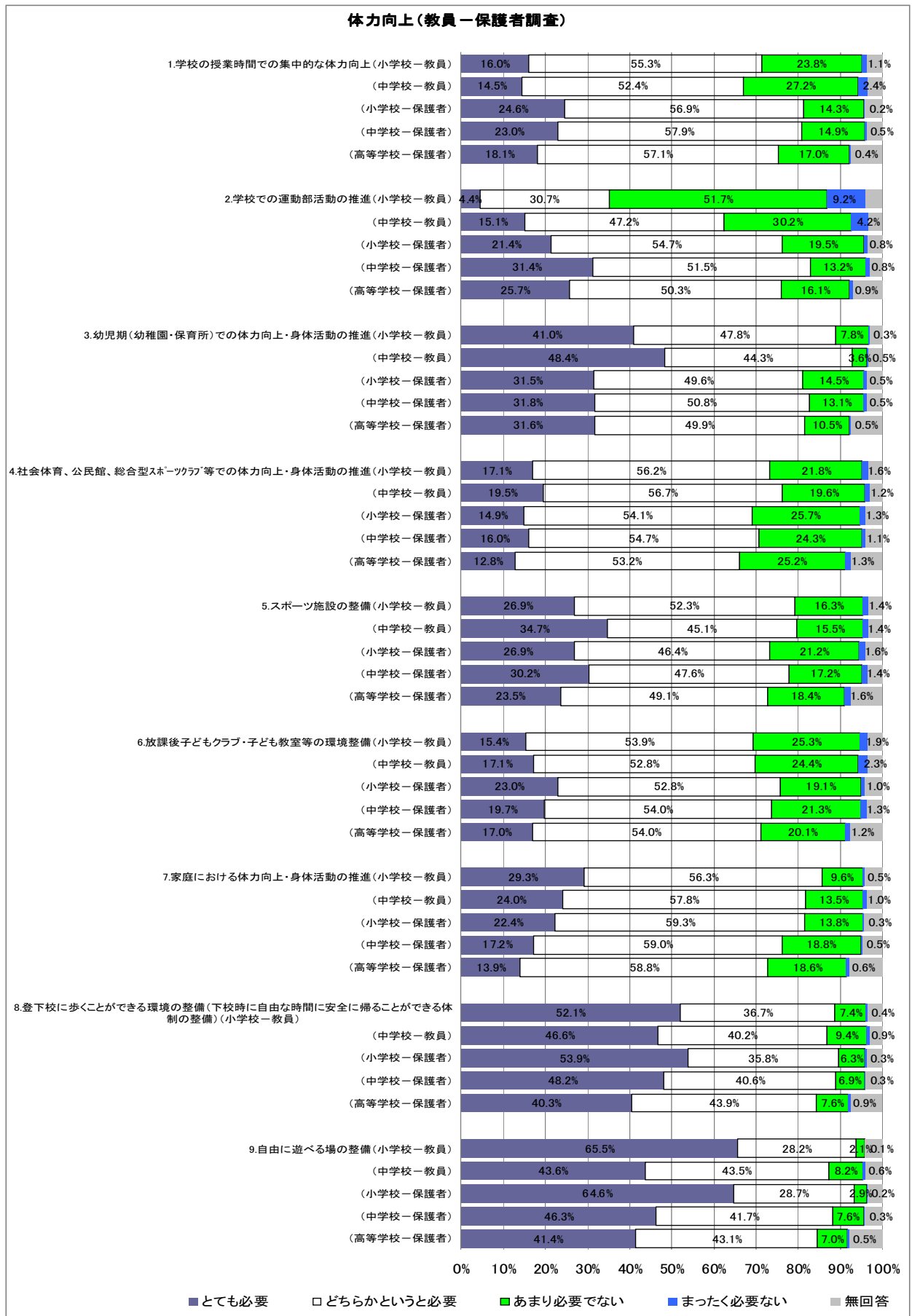
**小中学校教員問 21** 子どもたちの体力向上についてお聞きします。子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために、次のようなことは必要だと思われませんか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

**保護者問 10** 子どもたちの体力向上についてお聞きします。子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために、次のようなことは必要だと思われませんか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

- ◆小中学校の教員に共通して、「3.幼児期（幼稚園・保育所）での体力向上・身体活動の推進」「9.自由に遊べる場の整備」「8.登下校に歩くことができる環境の整備（下校時に自由な時間に安全に帰ることができる体制の整備）」が「とても必要」と回答する教員の割合が高い3項目となっており、小中学校の教育だけでは身体運動の機会を増やすことが難しいととらえる教員が多い。この傾向は、保護者調査とも一致しているが、中学校の「2.学校での運動部活動の推進」を回答する教員の割合が保護者と比べて低く（教員15.1%保護者31.4%）なっており、部活動に対する意識に違いが出ている。
- ◆子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすためには、「9.自由に遊べる場の整備」「8.登下校に歩くことができる環境の整備」が必要であると選択する保護者の割合が特に高く、高等学校の保護者においても同様の傾向となっている。また、学校での授業や運動部活動に加えて「3.幼児期（幼稚園・保育所）での体力向上・身体活動の推進」が必要であると回答する保護者の割合が高くなっている。

グラフ4-14 <体力向上> 教員 小学校 N=1,154 中学校 N=779

保護者 小学校 N=3,539 中学校 N=3,228 高等学校 N=3,277



## 教育に関するアンケート調査票

教員調査－小中学校用

教員調査－高等学校用

教員調査－保護者調査



## 教育に関するアンケート調査票（教員調査－小中学校用）

はじめに

皆様におかれましては、日頃から長野県の教育行政の推進にご協力いただきまことにありがとうございます。

このたび、長野県では子どもと向き合う時間の確保や第2次教育振興基本計画（H25～H29）の検討のため、教員の業務や意識調査、保護者の意識調査を実施することとしました。

教員調査は、教員の皆様の学校や仕事等の状況、ご自身に関する意識を調査し、検討の基本データを集めようとするものです。質問内容は、平成18年度に文部科学省が行った「教員勤務実態調査」「教員意識調査」等の質問内容を参考にして作成しており、全国的なデータとの比較検討ができるようにしています。本調査の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、学校特性調査、保護者のデータと関連付けて統計処理をする関係から学校名を記入していただきますが、データ内容を学校毎に公表・活用することは一切ありません。データの関連付けをするための記号としての学校名ですので、皆様や学校にご迷惑をおかけすることはございません。ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、今後の教育施策の検討に活かされる予定です。

ご多用のなか、誠に恐縮に存じますが、重ねて調査へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

本件 問い合わせ先

担 当 長野県教育委員会事務局教育総務課  
(担当)島田俊彦

電 話 026-235-7423 (直通)

ファクシ 026-235-7487

電子メール kyoiku@pref.nagano.lg.jp

- この調査票は、「教員勤務実態調査」と「教員意識調査」で構成されています。
- 「教員勤務実態調査」は、平成18年度に文部科学省が行った「教員勤務実態調査」（約6ヶ月）に準じて行います。11月28日（月）からの連続する7日間の教員の皆様の勤務、業務の実態を調査するもので、記入内容は24時間の内容を記載していただきます。所要時間は1日当たり15分程度で7日間継続して記入していただきます。
- 「教員意識調査」は、設問数23問の質問形式で、所要時間は約40分程度です。提出日までの任意の日に記入していただいて構いません。
- 記入が終わりましたら、もとの封筒に入れ、密封のうえ校長または教頭にご提出ください。
- 調査票、封筒は無記名のままでお願いします。

12月14日までに、密封のうえ校長または教頭へご提出ください。

### ◆調査冊子の構成◆

		ページ
	表紙	1
I	はじめに	2
II	教員勤務実態調査	
	教員勤務実態調査票記入要領	4
	教員勤務実態調査票記入例	6
	教員勤務実態調査票（7日間分）	7～13
III	教員意識調査票	14～24

## I はじめに（性別、年齢、職名、学級担任の有無など）

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の（ ）や  に回答を記入してください。

なお、質問項目は平成18年度に文部科学省が行った「教員勤務実態調査」「教員意識調査」等に準じて作成しています。

### 1) 学校名

市町村名	
学校名	小・中学校

### 2) 性別

1. 男性                      2. 女性

### 3) 年齢（平成23年度11月1日現在）

1. 25歳以下    2. 26～30歳    3. 31～35歳    4. 36～40歳    5. 41～45歳  
6. 46～50歳    7. 51～55歳    8. 56～60歳    9. 61歳以上

### 4) 学校、行政機関（県庁、教育事務所等）での勤務歴を記入してください。

※それぞれについて、該当する（経験がある）方のみご記入

小学校   （    ）年    中学校   （    ）年    特別支援学校   （    ）年  
高等学校   （    ）年    行政機関   （    ）年

### 5) 現在の職名

1. 校長                      2. 教頭・副校長                      3. 教諭                      4. 講師  
5. 養護教諭                      6. 栄養教諭                      7. その他（                      ）

### 6) あなたは、現在学級担任をしていますか。担任をしている学年に○印をつけてください。

1. 小1                      2. 小2                      3. 小3                      4. 小4  
5. 小5                      6. 小6                      7. 中1                      8. 中2  
9. 中3                      10. 特別支援学級    11. それ以外                      12. 担任はしていない

### 6)-SQ 学級担任をしていると答えた先生にお聞きします。

受け持ちのクラスの人数は何人ですか。算用数字でご記入ください。

人

### 7) あなたが担任をしている学級のなかで、学習塾（ピアノなどの習い事は含みません。）に通っている児童・生徒はだいたい何人ですか。把握されていたらご記入ください。

1. （                      ）人くらい                      2. 把握していない

### 8) 小学校の先生（校長を除く）にお聞きします。現在、あなたが力を入れて研究している教科や時間は何か。主なもの1つに○印をつけてください。

1. 国語                      2. 社会                      3. 算数                      4. 理科                      5. 生活  
6. 音楽                      7. 図画工作                      8. 家庭                      9. 体育                      10. 道徳  
11. 特別活動    12. 総合的な学習の時間    13. 外国語活動  
14. その他（具体的に                      ）



## Ⅱ 教員勤務実態調査

### 調査票① 教員勤務実態調査票記入要領

#### ■「教員勤務実態調査票」記入にあたってのお願い

- この調査票は平成18年度に文部科学省が行った「教員勤務実態調査」に準じて作成しています。
- 記入は、HB以上の鉛筆、または黒のボールペンでお願いします。
- アンケートは、あてはまる番号に○をつけてください。また、回答欄の（ ）や  には回答をご記入ください。
- 業務記録は、11月28日（月）から7日間、連続で記入してください。  
業務記録は、下記の「記入上の注意」を参考にして、ご記入ください。

#### ■「業務記録」の記入上の注意

- 「業務記録」は「教員勤務実態調査票」の7～13ページの7日分で構成されています。期間中、毎日1ページご記入ください。
- 必ず「教員勤務実態調査票」の6ページ「記入例」をご覧ください。
- その時間帯に行った業務に該当するアルファベット（a～z）を、はっきりと○で囲んでください。
- 30分単位でご記入ください。1つの時間帯（30分単位）について、1つのアルファベットを○で囲んでください。
- 同時進行で複数の業務を行ったり、1つの時間帯（30分）に複数の業務を行ったりした場合は、もっとも中心的な業務を1つだけ選んで○をつけてください。  
中心的な業務とは、心身の負担から、主観的にご判断いただいて構いません。  
1つの時間帯に複数の○をつけた場合、集計ができなくなりますので、よろしくをお願いします。
- 業務のご判断については、次ページの「業務の分類」を参考してください。
- 職種や職階、ご担当の業務によっては、次ページの一覧表に含まれていなかったり、分類が難しかったりする業務があるかもしれません。その場合には、もっとも近いと思われる業務に○をつけてください。どうしても分類が難しい場合は、「y：その他の校務」に○をつけてください。
- 記入は、以下の手順でお願いします。下の①～④の番号は、「教員勤務実態調査票」の中の番号に対応しています。
  - ①その日の勤務について、1～4のなかから1つ選んで○をつけてください。
    1. 勤務日……………学校に出勤しなければならない日で、出勤した日
    2. 年休（終日）… 学校に出勤しなければならない日で、休暇を取得して終日休んだ日（年次有給休暇以外にも、病気休暇、特別休暇、育児休暇、介護休暇などを含む）
    3. 年休（部分）… 学校に出勤しなければならない日で、休暇を取得した時間帯がある日（半日休暇を取得した日など）
    4. 休日……………学校に出勤しなくてもよい日（振替休日なども含む、出勤の有無を問わない）
  - ②学校に行った場合、その日の出勤時刻、退勤時刻を記入してください。出張等で直行・直帰した場合は、用務先に到着した時刻・用務先から出発した時刻をご記入ください。
  - ③教員としての業務記録を記入してください。記録は、学校外（自宅など）で行った業務（持ち帰りの仕事など）についても記入してください。休日の業務も同様に記入してください。
  - ④学校で定められている休憩時間帯に実際にとれた勤務時間内の休憩時間を合計して、分単位で記入してください

#### ■業務の分類

児童生徒の指導に関わる業務	a	朝の業務	朝打合せ、朝学習・朝読書、朝の会、朝礼など
	b	授業	教科・道徳・総合的な学習の時間の授業など
	c	授業準備	指導案作成、教材研究・教材作成、授業の打ち合わせ、総合的な学習の時間や体験学習の準備など
	d	学習指導	学習指導（補修指導、個別指導）質問への対応等
	e	成績処理	成績処理に関わる事務、試験問題作成、採点、評価、提出物の確認、コメントの記入など
	f	生徒指導（集団）	登下校指導、安全指導、生徒指導など
	g	生徒指導（個別）	個別の面談、進路指導、生活相談、カウンセリング、課題を抱えた児童・生徒の支援など
	h	部活動 クラブ活動	部活動、クラブ活動、対外試合の引率など
	i	児童会・生徒会指導	児童会・生徒会・委員会活動など
	j	学校行事	学校行事の準備（遠足旅行的行事、学校行事、保健安全的行事、体育的行事など）
	k	学年・学級経営	連絡帳、生活記録の記入
	l		学年・学級通信の作成
	m		学級活動（学活・ホームルーム）、掲示物作成、教室環境の整備、備品の整理など
学校の運営に関わる業務	n	学校経営	校務分掌に関わる業務、安全点検、校内巡視、校舎環境整備など
	o	会議・打ち合わせ	会議、学年会、教科会、成績会議など
	p	事務・報告書作成	調査統計、校長・教委への報告書、学校運営に関わる書類、予算・費用処理に関わる書類、部下職員の評価、自己目標の設定など
	q	徴収金徴収	給食費などの学校徴収金の徴収
	r	校内研修	校内研修、校内の研究会・勉強会、学年研究会など
外部対応	s	保護者・PTA対応	保護者会、保護者との面談や電話連絡、家庭訪問、PTA会議、ボランティア対応など
	t	地域対応	町内会、地域住民への対応・会議、地域への協力活動など
	u	社会体育	社会体育・社会教育活動への講師、指導者としての活動など
	v	行政・関係団体対応	教育委員会関係者、保護者・地域住民以外の学校関係者、来校者（業者・校医など）の対応など
校外	w	校務としての研修	校務としての研修、出張を伴う研修、各種団体による研修など
	x	会議	会議、打ち合わせ、出張を伴う研修など
その他	y	その他校務	上記に分類できないその他の残業
	z	休憩・休息	校務と関係のない雑談、休憩・休息など



















### Ⅲ 教員意識調査

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の( ) や  に回答を記入してください。

なお、質問項目は平成18年度に文部科学省が行った「教員意識調査」等に準じて作成しています。

- 1) 次のことは普段のあなたにどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

	1	2	3	4	5
	い あて はま らな	ら な い え ば あ て は ま	ど ち ら か と い え な い ど ち ら と も い	る え ば あ て は ま	あ て は ま る
1. 今の仕事にやりがいを感じている	1	2	3	4	5
2. 今の仕事を通じて成長できていると思う	1	2	3	4	5
3. 今の仕事に誇りをもっている	1	2	3	4	5
4. 今の仕事で自分らしさを生かすことができている	1	2	3	4	5
5. 今の仕事は自分に向いている	1	2	3	4	5
6. 今の仕事で自分の能力を十分に発揮できている	1	2	3	4	5
7. 今の学校で仕事をすることができてよかったと思う	1	2	3	4	5
8. 学校の他の教職員から学ぶことが多い	1	2	3	4	5
9. 学校の他の教職員と一緒に仕事をするのが楽しい	1	2	3	4	5
10. 学校の他の教職員に恵まれている	1	2	3	4	5
11. 同じような仕事の繰り返しで、マンネリ感を感じている	1	2	3	4	5
12. 今の仕事は単調で、手ごたえが感じられない	1	2	3	4	5
13. これまでの知識・経験だけでは対応できないことが多い	1	2	3	4	5
14. 今の仕事は自分にとって責任が重すぎる	1	2	3	4	5
15. 仕事が忙しすぎて、ほとんど仕事だけの生活になってしまっている	1	2	3	4	5
16. 仕事量が多すぎて、今のままでは長く続けられそうにない	1	2	3	4	5
17. 児童生徒や保護者とのやりとりで気疲れすることが多い	1	2	3	4	5
18. 職場の人間関係に悩むことが多い	1	2	3	4	5
19. 学校のなかで休憩や休息を取りづらい	1	2	3	4	5
20. 休暇を取りづらい	1	2	3	4	5
21. 体調が悪くても休めない	1	2	3	4	5
22. 土日等の休日に学校に出ることが多い	1	2	3	4	5
23. 勤務時間後も仕事のために残ることが多い	1	2	3	4	5
24. 自宅に仕事を持ち帰ることが多い	1	2	3	4	5
25. 以前よりも忙しくなった気がする	1	2	3	4	5

- 2) 仕事をするうえで、あなたが忙しさを感じるのはどのような業務ですか。以下の項目からあなたにとって感じる度合いが高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

#### 【項目欄】

1.	朝の業務	朝打合せ、朝学習・朝読書、朝の会、朝礼など
2.	授業	教科・道徳・総合的な学習の時間の授業など
3.	授業準備	指導案作成、教材研究・教材作成、授業の打ち合わせ、総合的な学習の時間や体験学習の準備など
4.	学習指導	学習指導（補修指導、個別指導）質問への対応等



5.	成績処理	成績処理に関わる事務、試験問題作成、採点、評価、提出物の確認、コメントの記入など
6.	生徒指導（集団）	登下校指導、安全指導、生徒指導など
7.	生徒指導（個別）	個別の面談、進路指導、生活相談、カウンセリング、課題を抱えた児童・生徒の支援など
8.	部活動・クラブ活動	部活動、クラブ活動、対外試合の引率など
9.	児童会・生徒会指導	児童会・生徒会・委員会活動など
10.	学校行事	学校行事の準備（遠足旅行的行事、学校行事、保健安全的行事、体育的行事など）
11.	学年・学級経営	連絡帳、生活記録の記入
12.	学年・学級経営	学年・学級通信の作成
13.	学年・学級経営	学級活動（学活・ホームルーム）、掲示物作成、教室環境の整備、備品の整理など
14.	学校経営	校務分掌に関わる業務、安全点検、校内巡視、校舎環境整備など
15.	会議・打ち合わせ	会議、学年会、教科会、成績会議など
16.	徴収金徴収	給食費など学校徴収金の徴収
17.	事務・報告書作成	調査統計、校長・教委への報告書、学校運営に関わる書類、予算・費用処理に関わる書類、部下職員の評価、自己目標の設定など
18.	校内研修	校内研修、校内の研究会・勉強会、学年研究会など
19.	保護者・PTA対応	保護者会、保護者との面談や電話連絡、家庭訪問、PTA会議、ボランティア対応など
20.	地域対応	町内会、地域住民への対応・会議、地域への協力活動など
21.	社会体育	社会体育・社会教育活動への講師、指導者としての活動など
22.	行政・関係団体対応	教育委員会関係者、保護者・地域住民以外の学校関係者、来校者（業者・校医など）の対応など
23.	校務としての研修	校務としての研修、出張を伴う研修、各種団体による研修など
24.	会議	校外での会議、打ち合わせ、出張を伴う研修など
25.	その他	（具体的に ）

3) 忙しさや負担感を解消するために必要なことはどのようなことですか。以下の項目から必要だと思うものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

【項目欄】

1.	1クラスあたりの子どもの数を減らしたり、教員を増員し担当する授業時間を減らすなどをする
2.	夏休みなどの長期休業期間中に会議や研修会等を集中し、授業のある日には子どもの指導に専念できるよう調整する
3.	個々の教師の能力を高める
4.	スクールカウンセラーを増員して、役割を分担する
5.	スクールソーシャルワーカーを増員して、役割を分担する
6.	就職や将来について専門的に助言を行うキャリアカウンセラーやキャリア教育に係るコーディネーターを配置して、役割を分担する
7.	教員は子どもの指導に業務を特化し、施設管理等に関しては学校内の事務職員や他の職種の人たち（4～6を除く）を増員して、役割を分担する
8.	電子メール等を活用し、情報を共有化することなどにより会議を減らす
9.	役割分担の均等化、適正化を図る
10.	繁忙期、閑散期に対応した、年間を通じての勤務時間の割り振りを可能とする
11.	教育委員会や他の行政機関からの調査などを精選し、業務の合理化を図る
12.	保護者、地域に理解を求め、ボランティアの派遣など学校へのサポートを強める
13.	部活動やクラブ活動の指導には、地域の方々に積極的に参加してもらう
14.	土日祝日等の部活動を全県統一的になくす
15.	部活動と社会体育等との区別を明確にし、社会体育等には教員が関わらないことにする
16.	朝の部活動の練習を全県統一的になくす
17.	担任を受け持つ場合は業務量が増えることから他の業務を減らし負担感を軽減する
18.	国語、数学、英語の教科を受け持つ場合は業務量が増えることから、校務分掌などにおいて負担を軽減する

19.	給食費等の学校徴収金等の未納対応を、学校外に委任する
20.	勤務の割振り等により学校内での役割分担を行った上で、土曜授業を実施し、計画的に1日当たりの勤務時間が調整できるようにする
21.	行政機関から要請される各種教育等（環境教育、租税教育、法教育等）の授業内容を極力減らし、学習指導要領での授業を優先する
22.	学校全体が効果的に運営されるよう、学校組織の運営や校務を専門に扱う職員を増員する
23.	職員への授業支援や教材研究の支援を専門的に行う職員を増員する
24.	校務支援システムやグループウェアを導入して事務を効率化する
25.	その他（具体的に )

4) 次のことはあなたの学校にどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3	4	5
	い	え	え	る	あ
	あ	ら	ど	ど	あ
	て	ば	ち	ち	て
	は	あ	ら	ら	は
	ま	て	か	か	ま
	ら	は	と	と	ら
	な	ま	い	い	ま
1. 気持ちのそろった教職員集団（チーム力を引き出すリーダーシップ、信頼感にもとづくチームワーク、学び合い育ち合う同僚性）	1	2	3	4	5
2. 戦略的で柔軟な学校運営（ビジョンと目標の共有、柔軟で機動性に富んだ組織力）	1	2	3	4	5
3. 豊かなつながりを生み出す生徒指導（一致した方針のもとでのきめ細かな指導、子どもをエンパワーする集団づくり）	1	2	3	4	5
4. すべての子どもの学びを支える学習指導（多様な学びを促進する授業づくり、基礎学力定着のためのシステム）	1	2	3	4	5
5. ともに育つ地域・校種間連携（多様な資源を生かした地域連携、明確な目的をもった校種間連携）	1	2	3	4	5
6. 双方向的な家庭とのかかわり（家庭とのパートナーシップの推進、学習習慣の形成を促す働きかけ）	1	2	3	4	5
7. 安心して学べる学校環境（安全で規律のある雰囲気、学ぶ意欲を引き出す学習環境）	1	2	3	4	5
8. 前向きで活動的な学校文化（誇りと責任感にねざす学校風土、可能性をのばす幅広い教育活動）	1	2	3	4	5

5) 保護者・地域との連携や学校支援について、次のようなことは必要だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3	4
	要	い	要	必
	と	ど	あ	ま
	も	ち	ま	っ
	必	ら	り	た
		か	必	く
		と	不	
		必	要	
		要	な	
		な	い	
1. 子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える	1	2	3	4
2. 子どもの学校でのよいところを保護者に伝える	1	2	3	4
3. 学校の教育方針を保護者に伝える	1	2	3	4
4. 子どもたちの学力を保護者に伝え保護者に協力を求める	1	2	3	4
5. 保護者が気軽に質問したり相談できるようにする	1	2	3	4
6. 講演会などで子育てに役立つ情報を提供する	1	2	3	4
7. いつでも自由に学校を見学できるようにする	1	2	3	4
8. 学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放する	1	2	3	4



9.	保護者がボランティアで学校を支援するしくみをつくる	1	2	3	4
10.	学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める	1	2	3	4
11.	保護者、地域が公民館等地域の施設での通学合宿を行う	1	2	3	4
12.	休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを行う（教員が講師とならない）	1	2	3	4
13.	休日や放課後に子ども向けの社会教育スポーツ活動を行う（教員が講師とならない）	1	2	3	4
14.	市町村教育委員会が、学校と地域との連携の仲介役となる	1	2	3	4

- 6) 教員として教科指導以外にやるべきことは何だと思いますか。このページの下部の項目欄から優先度の高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

- 7) できれば教育委員会や保護者、地域の方々などが主に担うべきことは何ですか。このページの下部の項目欄から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

【6) 7) 選択項目欄】

1.	しつけをすること（基礎的な生活習慣）
2.	しつけをすること（礼儀やマナー）
3.	しつけをすること（集団の中でルールを守ること）
4.	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること
5.	友だちと仲良くすること、友達の作り方
6.	健康に関する教育（喫煙・飲酒・薬物乱用についての指導、性教育などを含む）
7.	食習慣に関する指導
8.	キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）
9.	進路指導
10.	休み時間や放課後に子どもと遊んだり一緒に過ごしたりすること
11.	放課後などに補習をすること
12.	部活動やクラブ活動に関する指導
13.	児童会・生徒会、委員会や係の活動に関する指導
14.	学校行事（運動会、遠足、文化祭など）に関する指導
15.	体験活動（自然体験、歴史学習、飼育等）に関する指導
16.	奉仕活動（ボランティア活動）に関する指導
17.	児童生徒の安全に関する指導（登下校時や学校外）
18.	学校の教育方針や学級における子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供
19.	保護者との電話による連絡、保護者会、保護者面接、家庭訪問など
20.	地域行事への参加
21.	P T A活動
22.	その他（具体的に _____ )

- 8) あなたが今後特に力をつけたいと思うことは何ですか。（A欄の中から優先度の高いものを最大3つ）  
また、そのための手段として望ましいものは何ですか。（B欄の中からそれぞれ1つ）  
また、実際に行っていることは何ですか。（B欄の中からそれぞれ1つ）  
回答欄に該当する番号をそれぞれ記入してください。

○特に力をつけたいこと (A欄から)	回答欄 ⇒	① □	② □	③ □
		↑ ①の手段	↑ ②の手段	↑ ③の手段
○理想とする手段 (B欄から)	回答欄 ⇒	□	□	□
		↑ ①の手段	↑ ②の手段	↑ ③の手段
○現実の手段 (B欄から)	回答欄 ⇒	□	□	□

※ 実際に行えていない場合は空欄で結構です

【A欄】

1.	授業の進め方や指導方法に関すること
2.	教科に対する専門性や知識
3.	児童生徒の心理や発達段階などに関すること
4.	教育相談などのカウンセリングに関すること
5.	生活指導や生徒指導に関すること
6.	進路指導に関すること
7.	他者への思いやりなどの心の教育に関すること
8.	学校や組織の運営に関すること
9.	学級経営や学年経営に関すること
10.	保護者や地域との関わりに関すること
11.	教師としての姿勢や心構えに関すること
12.	教育の今日的な課題や動向に関すること
13.	幅広い一般教養
14.	職務について自ら振り返り、改善する力
15.	クラブや部活動の指導に関すること
16.	コンピュータ等を用いた情報活用に関すること
17.	職場における人間関係の構築に関すること
18.	試験問題の作成方法
19.	児童・生徒の学習の評価方法に関すること
20.	発達障害児の指導に関すること
21.	その他（具体的に )

【B欄】

1.	関連する雑誌や本を読む
2.	関連する番組やサイトを調べる
3.	校内での研修会に参加する
4.	校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
5.	校内で管理職から助言やアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
6.	総合教育センター、教育事務所での研修会に参加する
7.	3.及び6.以外の研修会（学会、研究会など含む）に参加する
8.	他校の教員と話し合う
9.	保護者や地域から助言やアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
10.	その他（具体的に )

- 9) 教員（非常勤講師含む）の授業スキル向上、授業改善、指導力向上のために、県の施策として必要なことは何だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 要 と も 必	2 ど ち ら か と 必 要	3 あ ま り 必 要 で な い	4 ま っ た く 必 要 な い
1. 指導主事による研究授業の指導	1	2	3	4
2. 指導主事による教員対象の模擬授業、教材研究	1	2	3	4
3. 拠点校に授業スキル向上を専門に指導する教員（スーパーティーチャー等）の配置	1	2	3	4
4. 総合教育センターでの研修会の充実	1	2	3	4
5. 教育事務所で研修会の充実	1	2	3	4
6. 指導技術、ノウハウの共有化、標準化	1	2	3	4
7. 校内研修充実への支援（財政的、人力的）	1	2	3	4
8. 自主的研修組織への支援（財政的、人力的）	1	2	3	4
9. OJT（オンザジョブトレーニング）の活性化に関する情報の提供	1	2	3	4
10. 小中連携による各校の教員の活用	1	2	3	4
11. 近隣の小中学校の力のある教員に張り付くジョブシャドウによる研修	1	2	3	4

- 10) ①学校教育の中で、子どもたちが次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。また、②子どもたちはそれらの能力や態度を、学校教育の中で実際に見につけていると思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を①及び②からそれぞれ1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	①学校教育の中で 身につける必要性				②学校教育の中で 実際に身につけているか			
	1 と も 高 い	2 ど ち ら か と 高 い	3 ど ち ら か と 低 い	4 と も 低 い	1 つ け て い る	2 つ け て い る	3 あ ま り 身 に つ け て い な い	4 全 く 身 に つ け て い な い
1. 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 受験に役立つ学力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 自ら学ぶとする意欲	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 知識・技能を活用・応用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 実際の場面で使える英語力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. コンピュータを活用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 音楽・美術など芸術面の能力や情操	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 体力や運動能力	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 自分の健康を管理する力	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 論理的にものを考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 自分の考えを表現する力	1	2	3	4	1	2	3	4
13. ものごとを計画的に行う力	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 新しいものを生み出す創造的な力	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 善悪を判断する力	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 人間関係を築く力	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 社会で役立つとする心や公共心	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 郷土や国を愛する心	1	2	3	4	1	2	3	4
19. ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	1	2	3	4
20. 社会生活に必要な常識	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 基本的な生活習慣	1	2	3	4	1	2	3	4

11) 長野県の将来の学校教育を考えた時に、どのような子どもたちが増えてほしいと考えますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3
	とても ほしい 増え	どちら かど い え ば 増 え て ほ し い	あ ま り 思 わ な い
1. 将来の夢や目標を持っている子ども	1	2	3
2. 住んでいる地域が好きな子ども	1	2	3
3. 自分にはよいところがあると考える子ども	1	2	3
4. 学校の授業がきちんとわかったと答える子ども	1	2	3
5. 学力の高い子ども	1	2	3
6. 学校が楽しいと答える子ども	1	2	3
7. 先生を信頼している子ども	1	2	3
8. 読書が好きな子ども	1	2	3
9. 家族や近所の人にあいさつをする子ども	1	2	3

12) 子どもたちの学力を向上させるために必要なことは何だと思えますか。目的毎に、以下の項目から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

a) 主に知識・技能（基礎・基本）を確実に  
定着させるために必要なこと      回答欄 ⇒

b) 主に思考力・判断力・表現力を伸ばすた  
めに必要なこと      回答欄 ⇒

【項目欄】

1.	授業がもっとよくなる3観点を意識した授業
2.	つける力に応じた教材研究
3.	自己追求と共同追求の場をバランスよく取り入れた課題解決型の授業
4.	必ず定着の時間をとり、個に応じた指導を行うこと
5.	解決の過程や発見したことなどを話し合う活動の充実
6.	ノート指導
7.	つまずきの原因をさぐり、やり直しをして定着を図る学習
8.	学力調査問題の授業場面への活用
9.	ドリル等の練習
10.	家庭学習の充実
11.	お互いの授業を見合い、授業力を高める校内研修の充実
12.	体験活動を取り入れた授業
13.	学校全体の系統的かつ連携を図った取組の向上
14.	その他（具体的に _____ )

13) あなたは通知票をつけるとき、次の結果をどれくらい重視しますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 とても重視する	2 まあ重視する	3 あまり重視しない
1. 定期（単元末・学期末）試験	1 — 2 — 3		
2. 実力試験	1 — 2 — 3		
3. 小テスト	1 — 2 — 3		
4. 全国標準学力検査（NRT、相対評価、学習内容の定額）	1 — 2 — 3		
5. 全国標準学力検査（CRT、絶対評価、学習内容の到達度）	1 — 2 — 3		
6. 全国学力・学習状況調査	1 — 2 — 3		
7. 宿題や提出物の状況	1 — 2 — 3		
8. 授業中の態度	1 — 2 — 3		
9. 出欠席の状況	1 — 2 — 3		

- 14) 定期試験についてうかがいます。あなたが定期（単元末・学期末）試験の問題を作成するときに、次のことはどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 まる とてもあてはまる	2 る えど ばち あらか てはま とい	3 ま ら な い あ ま り あ て は ま る	4 い あ て は ま ら な い
1. 教科書から問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
2. 学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
3. 学校で使わない問題集・副教材などから問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
4. ノートに書かせた内容から問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
5. 前年度の定期試験から問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
6. 市販のテストを参考にしている	1 — 2 — 3 — 4			
7. 全くオリジナルな問題を作成する	1 — 2 — 3 — 4			
8. 入試問題に対応した問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
9. 観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成する	1 — 2 — 3 — 4			
10. 論述式の問題を出す	1 — 2 — 3 — 4			
11. テスト問題を練る十分な時間がない	1 — 2 — 3 — 4			
12. 総合教育センターの問題を参考にして作成する	1 — 2 — 3 — 4			
13. 全国学力・学習状況調査の問題を参考にして作成する	1 — 2 — 3 — 4			

- 15) 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる授業改善に活かすため、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）が行われていますが、どのような実施方法がのぞましいと考えますか。以下の各項目について、それぞれ回答してください。

- a) 実施期間について、あてはまる項目を1つ選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

1. 毎年実施がよい                      2. 隔年実施がよい                      3. 2年以上間隔をあけて実施がよい





21) 子どもたちの体力向上についてお聞きします。

a) 子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために、次のようなことは必要だと思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 要 と て も 必	2 ど ち ら か と い う と 必 要	3 あ ま り 必 要 で な い	4 ま っ た く 必 要 な い
1. 学校の授業時間での集中的な体力向上	1	2	3	4
2. 学校での運動部活動の推進	1	2	3	4
3. 幼児期（幼稚園・保育所）での体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
4. 社会体育、公民館、総合型スポーツクラブ等での体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
5. スポーツ施設の整備	1	2	3	4
6. 放課後子どもクラブ・子ども教室等の環境整備	1	2	3	4
7. 家庭における体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
8. 登下校に歩くことができる環境の整備（下校時に自由な時間に安全に帰ることができる体制の整備）	1	2	3	4
9. 自由に遊べる場の整備	1	2	3	4

b) その他、子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために必要だと思われる事項がありましたら自由に記述願います。

22) 体力向上のために学校で行う取組として、どのようなことが望ましいと思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 し と て も 望 ま い	2 し い ど ち ら か と い う と 望 ま い	3 あ ま り 思 わ な い
1. 業間時間を活用し自由に校庭で遊ばせること	1	2	3
2. 業間時間を活用し他者と関わりが必要な運動・遊び等を行うこと	1	2	3
3. 体育の授業において、外部指導者による専門的な指導	1	2	3
4. 放課後等を活用して地域の人の協力により運動すること	1	2	3
5. 社会体育と連携した運動カリキュラムの実施（体育の授業）	1	2	3
6. 運動部への加入促進の取組	1	2	3

23) 長野県の教育行政について感じていることやご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

以上で、質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。



## 教育に関するアンケート調査票（教員調査－高等学校用）

はじめに

皆様におかれましては、日頃から長野県の教育行政の推進にご協力いただきまことにありがとうございます。

このたび、長野県では第2次教育振興基本計画（H25～H29）策定のために教員の業務や意識調査、保護者の意識調査を実施することとしました。

教員調査は、教員の皆様の学校や仕事の状況、ご自身に関する意識を調査し、教育振興計画の策定や子どもと向き合う時間の確保等について検討する基本データを集めようとするものです。本調査の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査は、学校への特性調査、保護者のデータと関連付けて統計処理をする関係から学校名を記入していただきますが、データ内容を学校毎に公表・活用することは一切ありません。データの関連付けをするための記号としての学校名ですので、皆様や学校にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、今後の教育施策の検討に活かされる予定です。

ご多用のなか、誠に恐縮に存じますが、重ねて調査へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

本件 問い合わせ先
担 当 長野県教育委員会事務局教育総務課 (担当)島田俊彦
電 話 026-235-7423 (直通)
ファクシミリ 026-235-7487
電子メール kyoiku@pref.nagano.lg.jp

- 「教員意識調査」は、設問数21問の質問形式で、所要時間は約30分程度です。
- 記入が終わりましたら、もとの封筒に入れ、密封のうえ校長または教頭にご提出ください。
- 調査票、封筒は無記名のままでお願いします。

12月14日までに、密封のうえ校長または教頭へご提出ください。

### ◆調査冊子の構成◆

		ページ
	表紙	1
I	はじめに	2
II	教員意識調査票	3～14

## I はじめに（性別、年齢、職名、学級担任の有無など）

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の（ ）や  
□に回答を記入してください。

1) 学校名

学校名	高等学校
-----	------

2) 性別

1. 男性                      2. 女性

3) 年齢（平成23年度11月1日現在）

1. 25歳以下    2. 26～30歳    3. 31～35歳    4. 36～40歳    5. 41～45歳  
6. 46～50歳    7. 51～55歳    8. 56～60歳    9. 61歳以上

4) 学校、行政機関（県庁、教育事務所等）での勤務歴を記入してください。

※それぞれについて、該当する（経験がある）方のみご記入

高等学校      (      )年      小学校      (      )年      中学校      (      )年

特別支援学校      (      )年      行政機関      (      )年

5) 現在の職名

1. 校長                      2. 教頭・副校長                      3. 教諭                      4. 講師  
5. 養護教諭                      6. 実習助手（教諭（実習担任）含む）  
7. その他（                      ）

6) 学科

1. 普通科（全日制）    2. 普通科（定時制）    3. 農業科                      4. 工業科（全日制）  
5. 工業科（定時制）    6. 商業科（全日制）    7. 商業科（定時制）    8. 家庭科  
9. 福祉科                      10. 総合学科                      11. その他（具体的に                      ）

7) あなたは、現在学級担任をしていますか。担任をしている学年に○印をつけてください。

1. 高1                      2. 高2                      3. 高3                      4. 高4  
5. それ以外                      6. 担任はしていない

7)-SQ 学級担任をしていると答えた先生にお聞きします。

受け持ちのクラスの人数は何人ですか。算用数字でご記入ください。

□	人
---	---

8) あなたが担任をしている学級のなかで、学習塾に通っている生徒はだいたい何人ですか。把握されていたらご記入ください。

1. (                      )人くらい                      2. 把握していない

9) 校長を除くすべての先生にお聞きします。あなたが担当している教科は何ですか。主なもの1つに○印をつけてください。

1. 国語                      2. 地理歴史                      3. 公民                      4. 数学                      5. 理科  
6. 保健体育                      7. 芸術                      8. 外国語                      9. 家庭                      10. 情報  
11. 農業                      12. 工業                      13. 商業                      14. 福祉  
15. その他（具体的に                      ）

10) すべての先生にお聞きします。あなたは部活動の顧問をしていますか。1つ選んで○印をつけてください。

1. 正顧問をしている      2. 副顧問をしている      3. 顧問はしていない

10)-SQ 正顧問または副顧問をしていると答えた先生にお聞きします。

担当する部活動の種類は何ですか。1つ選んで○印をつけてください。(顧問を兼任している場合は、もっとも負担が重いものを1つ選んで○印をつけてください。)

1. 野球部      2. サッカー部      3. バレーボール部      4. バスケットボール部  
5. テニス部      6. バドミントン部      7. 陸上部      8. 水泳部  
9. その他の運動部(具体的に )      10. 吹奏楽部  
11. 合唱部      12. その他の文化部(具体的に )

11) すべての先生にお聞きします。あなたは主任等を担当していますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(※名称が異なる場合であっても、相当すると思われるものの番号に○印をつけてください。)

1. 担当していない      2. 教務主任      3. 生徒指導主任      4. 進路指導主任  
5. 保健主任      6. 研究主任      7. 庶務主任      8. 学年主任  
9. 学科主任      10. 農場主任      11. 特別支援教育コーディネーター  
12. その他の主任( )

12) 校長を除くすべての先生にお聞きします。

あなたは1週間に何コマの授業(LHRを含む)を担当していますか。50分換算で記入してください。

週  コマ

13) あなたが平日及び土曜日に担当する補習は、週あたりだいたい何日くらいありますか。1日もない場合は「0」を記入してください。土曜日の補習がある場合は右欄に時間数を記載してください。

日くらい/週 (うち土曜日の補習  時間くらい)

14) あなたはふだん、学校での仕事(授業は除く)の中で、パソコンやインターネットをどのくらい使用していますか。

1. 頻繁に使用している      2. ときどき使用している  
3. あまり使用していない      4. ほとんど使用していない

15) 昨年度のあなたの有給休暇取得状況を教えてください。

なお、昨年度の教員としての勤務が1年に満たない場合には「7」に○をつけてください。

0~2日      3~5日      6~10日      11~15日      16~20日      21日以上      昨年度の勤務が1年未満  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_ 6 \_\_\_\_\_ 7

16) ご自宅から学校への通勤時間はだいたいどれくらいですか。

15分以内      30分      45分      1時間      1時間半      2時間      それ以上  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_ 6 \_\_\_\_\_ 7

17) あなたにはお子さまがいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、一番年下の方の年齢はおいくつですか。

0~3歳      4~6歳      7~12歳      13~18歳      19歳以上      子どもはいない  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 ----- 6

18) あなたには、現在介護を要する方がいらっしゃいますか。

1. 自宅に介護が必要な人がいる      2. 自宅外に介護が必要な人がいる  
3. 介護を要する人はいない

## II 教員意識調査

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の ( ) や  に回答を記入してください。

また、保護者調査と同一の表現の質問項目があるため、「子ども」という表現を使用している箇所がありますが、「生徒」と解釈して回答してください。

- 1) 次のことは普段のあなたにどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

	1	2	3	4	5
	い あて はま らな	ら え ど ち ら か と い は ま	え ど ち ら と も い え な い	る え ど ち ら か と い は ま	あ て は ま る
1. 今の仕事にやりがいを感じている	1	2	3	4	5
2. 今の仕事を通じて成長できていると思う	1	2	3	4	5
3. 今の仕事に誇りをもっている	1	2	3	4	5
4. 今の仕事で自分らしさを生かすことができている	1	2	3	4	5
5. 今の仕事は自分に向いている	1	2	3	4	5
6. 今の仕事で自分の能力を十分に発揮できている	1	2	3	4	5
7. 今の学校で仕事をするのができてよかったと思う	1	2	3	4	5
8. 学校の他の教職員から学ぶことが多い	1	2	3	4	5
9. 学校の他の教職員と一緒に仕事するのが楽しい	1	2	3	4	5
10. 学校の他の教職員に恵まれている	1	2	3	4	5
11. 同じような仕事の繰り返しで、マンネリ感を感じている	1	2	3	4	5
12. 今の仕事は単調で、手ごたえが感じられない	1	2	3	4	5
13. これまでの知識・経験だけでは対応できないことが多すぎる	1	2	3	4	5
14. 今の仕事は自分にとって責任が重すぎる	1	2	3	4	5
15. 仕事が忙しすぎて、ほとんど仕事だけの生活になってしまっている	1	2	3	4	5
16. 仕事量が多すぎて、今のままでは長く続けられそうにない	1	2	3	4	5
17. 生徒や保護者とのやりとりで気疲れすることが多い	1	2	3	4	5
18. 職場の人間関係に悩むことが多い	1	2	3	4	5
19. 学校のなかで休憩や休息を取りづらい	1	2	3	4	5
20. 休暇を取りづらい	1	2	3	4	5
21. 体調が悪くても休めない	1	2	3	4	5
22. 土日等の休日に学校に出ることが多い	1	2	3	4	5
23. 勤務時間後も仕事のために残ることが多い	1	2	3	4	5
24. 自宅に仕事を持ち帰ることが多い	1	2	3	4	5
25. 以前よりも忙しくなった気がする	1	2	3	4	5

- 2) 仕事をするうえで、あなたが忙しさを感じるのはどのような業務ですか。以下の項目からあなたにとって感じる度合いが高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

### 【項目欄】

1.	朝の業務	朝打合せ、朝学習・朝読書の指導、SHR、朝礼、出欠確認など
2.	授業	教科・実験・実習・特別活動・総合的な学習の時間の授業、定期考査など
3.	授業準備	指導案作成、教材研究・教材作成、授業の打ち合わせ、総合的な学習の時間や体験学習の準備など

4.	学習指導	学習指導（課外指導、補習指導、個別指導、実験・実習など）、質問への対応など
5.	成績処理	成績処理にかかわる事務、試験問題作成、採点、評価、提出物の確認・コメント記入、通知表記入、調査書作成、指導要録作成など
6.	生徒指導（集団）	清掃指導、登下校指導・安全指導、健康・保健指導、生活指導、全校集会など
7.	生徒指導（個別）	個別の面談、進路指導・相談（就職指導、面接指導、説明会資料作成等）、生活相談、カウンセリング、課題を抱えた生徒の支援など
8.	部活動	部活動の指導、対外試合引率（移動の時間を含む）など
9.	生徒会指導	生徒会指導、委員会活動の指導など
10.	学校行事	修学旅行、体育祭、文化祭、発表会などの学校行事、学校行事の準備など
11.	学年・学級経営	生活記録の記入
12.	学年・学級経営	学年・学級通信の作成
13.	学年・学級経営	学級活動（ホームルーム）、掲示物作成、教室環境の整備、備品の整理など
14.	学校経営	校務分掌にかかわる業務、部下職員などの指導・面談、安全点検、日番など
15.	会議・打ち合わせ	職員会議、教科会、成績会議、その他教員同士の打合せ、会議・打合せの準備など
16.	徴収金徴収	学校徴収金の徴収
17.	事務・報告書作成	調査統計、校長・教委への報告書、学校運営に関わる書類、予算・費用処理に関わる書類、部下職員の評価、自己目標の設定など
18.	校内研修	校内研修、校内の研究会・勉強会、授業見学、学年研究会など
19.	保護者・PTA対応	学級懇談会、保護者会、保護者との面談や電話連絡、家庭訪問、PTA関連活動、ボランティア対応など
20.	地域対応	町内会、地域住民への対応・会議、地域への協力活動など
21.	社会体育	社会体育・社会教育活動への講師、指導者としての活動など
22.	行政・関係団体対応	教育委員会関係者、保護者・地域住民以外の学校関係者、来校者（業者・校医など）の対応など
23.	校務としての研修	校務としての研修、出張を伴う研修、各種団体による研修など
24.	校外での会議	校外での会議・打合せ、出張をともなう会議など
25.	その他	（具体的に ）

- 3) 忙しさや負担感を解消するために必要なことはどのようなことですか。以下の項目から必要だと思うものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

【項目欄】

1.	1クラスあたりの子どもの数を減らしたり、教員を増員し担当する授業時間を減らすなどをする
2.	夏休みなどの長期休業期間中に会議や研修会等を集中し、授業のある日には子どもの指導に専念できるよう調整する
3.	個々の教師の能力を高める
4.	スクールカウンセラーを増員して、役割を分担する
5.	スクールソーシャルワーカーを増員して、役割を分担する
6.	就職や将来について専門的に助言を行うキャリアカウンセラーやキャリア教育に係るコーディネーターを配置して、役割を分担する
7.	教員は子どもの指導に業務を特化し、施設管理等に関しては学校内の事務職員や他の職種の人たち（4～6を除く）を増員して、役割を分担する
8.	電子メール等を活用し、情報を共有化することなどにより会議を減らす
9.	役割分担の均等化、適正化を図る
10.	繁忙期、閑散期に対応した、年間を通じての勤務時間の割り振りを可能とする
11.	教育委員会や他の行政機関からの調査などを精選し、業務の合理化を図る
12.	保護者、地域に理解を求め、ボランティアの派遣など学校へのサポートを強める
13.	部活動の指導には、地域の方々に積極的に参加してもらう
14.	土日祝日等の部活動を全県統一的になくす
15.	部活動と社会体育等との区別を明確にし、社会体育等には教員が関わらないことにする

16.	朝の部活動の練習を全県統一的になくす
17.	担任を受け持つ場合は業務量が増えることから他の業務を減らし負担感を軽減する
18.	国語、数学、英語の教科を受け持つ場合は業務量が増えることから、校務分掌などにおいて負担を軽減する
19.	学校徴収金等の未納対応を、学校外に委任する
20.	勤務の割振り等により学校内での役割分担を行った上で、土曜授業を実施し、計画的に1日当たりの勤務時間が調整できるようにする
21.	行政機関から要請される各種教育等（環境教育、租税教育、法教育等）の授業内容を極力減らし、学習指導要領での授業を優先する
22.	学校全体が効果的に運営されるよう、学校組織の運営や校務を専門に扱う職員を増員する
23.	職員への授業支援や教材研究の支援を専門的に行う職員を増員する
24.	校務支援システムやグループウェアを導入して事務を効率化する
25.	その他（具体的に )

4) 次のことはあなたの学校にどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

	1	2	3	4	5
	い	え	え	る	あ
	あ	ど	ど	え	あ
	て	ち	ち	ば	て
	は	ら	ら	あ	は
	ま	か	か	ま	ま
	ら	と	と	ま	る
	な	い	い	い	る
1.	1	2	3	4	5
2.	1	2	3	4	5
3.	1	2	3	4	5
4.	1	2	3	4	5
5.	1	2	3	4	5
6.	1	2	3	4	5
7.	1	2	3	4	5
8.	1	2	3	4	5

5) 保護者・地域との連携や学校支援について、次のようなことは必要だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3	4
	要	い	要	必
	と	ど	あ	ま
	も	ち	ま	っ
	必	ら	り	た
		か	な	く
		と	い	
		必	必	
1.	1	2	3	4
2.	1	2	3	4
3.	1	2	3	4
4.	1	2	3	4
5.	1	2	3	4
6.	1	2	3	4
7.	1	2	3	4
8.	1	2	3	4

9. 学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放する	1 — 2 — 3 — 4
10. 保護者がボランティアで学校を支援するしくみをつくる	1 — 2 — 3 — 4
11. 学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める	1 — 2 — 3 — 4
12. 保護者、地域が公民館等地域の施設での通学合宿を行う	1 — 2 — 3 — 4
13. 休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを行う（教員が講師とならない）	1 — 2 — 3 — 4
14. 休日や放課後に子ども向けの社会教育スポーツ活動を行う（教員が講師とならない）	1 — 2 — 3 — 4

- 6) 教員として教科指導以外にやるべきことは何だと思えますか。このページの下部の項目欄から優先度の高いものを最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

- 7) できれば教育委員会や保護者、地域の方々などが主に担うべきことは何ですか。このページの下部の項目欄から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

【(6) 7) 項目欄】

1.	しつけをすること（基礎的な生活習慣）
2.	しつけをすること（礼儀やマナー）
3.	しつけをすること（集団の中でルールを守ること）
4.	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること
5.	友だちと仲良くすること、友達の作り方
6.	健康に関する教育（喫煙・飲酒・薬物乱用についての指導、性教育などを含む）
7.	食習慣に関する指導
8.	キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）
9.	進路指導
10.	休み時間や放課後に子どもと遊んだり一緒に過ごしたりすること
11.	放課後などに補習をすること
12.	部活動に関する指導
13.	生徒会、委員会や係の活動に関する指導
14.	学校行事（運動会、遠足、文化祭など）に関する指導
15.	体験活動（自然体験、歴史学習、飼育等）に関する指導
16.	奉仕活動（ボランティア活動）に関する指導
17.	生徒の安全に関する指導（登下校時や学校外）
18.	学校の教育方針や学級における子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供
19.	保護者との電話による連絡、保護者会、保護者面接、家庭訪問など
20.	地域行事への参加
21.	P T A活動
22.	その他（具体的に )

- 8) あなたが今後特に力をつけたいと思うことは何ですか。(A欄の中から優先度の高いものを最大3つ)  
 また、そのための手段として望ましいものは何ですか。(B欄の中からそれぞれ1つ)  
 また、実際に行っていることは何ですか。(B欄の中からそれぞれ1つ)  
 回答欄に該当する番号をそれぞれ記入してください。

○特に力をつけたいこと (A欄から)	回答欄 ⇒	① □	② □	③ □
		↑ ①の手段	↑ ②の手段	↑ ③の手段
○理想とする手段 (B欄から)	回答欄 ⇒	□	□	□
		↑ ①の手段	↑ ②の手段	↑ ③の手段
○現実の手段 (B欄から)	回答欄 ⇒	□	□	□
※ 実際に行っていない場合は空欄で結構です				

【A欄】

1.	授業の進め方や指導方法に関すること
2.	教科に対する専門性や知識
3.	生徒の心理や発達段階などに関すること
4.	教育相談などのカウンセリングに関すること
5.	生活指導や生徒指導に関すること
6.	進路指導に関すること
7.	他者への思いやりなどの心の教育に関すること
8.	学校や組織の運営に関すること
9.	学級経営や学年経営に関すること
10.	保護者や地域との関わりに関すること
11.	教師としての姿勢や心構えに関すること
12.	教育の今日的な課題や動向に関すること
13.	幅広い一般教養
14.	職務について自ら振り返り、改善する力
15.	部活動の指導に関すること
16.	コンピュータ等を用いた情報活用に関すること
17.	職場における人間関係の構築に関すること
18.	試験問題の作成方法
19.	生徒の学習の評価方法に関すること
20.	発達障害児の指導に関すること
21.	その他(具体的に )

【B欄】

1.	関連する雑誌や本を読む
2.	関連する番組やサイトを調べる
3.	校内での研修会に参加する
4.	校内で先輩・同僚からアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
5.	校内で管理職から助言やアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
6.	総合教育センター、体育センターでの研修会に参加する
7.	3.及び6.以外の研修会(学会、研究会など含む)に参加する
8.	他校の教員と話し合う
9.	保護者や地域から助言やアドバイスを仰いだり、意見交換を行ったりする
10.	その他(具体的に )



- 9) 教員（非常勤講師含む）の授業スキルの向上、授業改善、指導力向上のために、県の施策として必要なことは何だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 要 と も 必	2 ど ち ら か と い う と 必 要	3 あ ま り 必 要 で な い	4 ま っ た く 必 要 な い
1. 指導主事による研究授業の指導	1	2	3	4
2. 指導主事による教員対象の模擬授業、教材研究	1	2	3	4
3. 拠点校に授業スキル向上を専門に指導する教員（スーパーティーチャー等）の配置	1	2	3	4
4. 総合教育センター、体育センターでの研修会の充実	1	2	3	4
5. 指導技術、ノウハウの共有化、標準化	1	2	3	4
6. 校内研修充実への支援（財政的、人力的）	1	2	3	4
7. 自主的研修組織への支援（財政的、人力的）	1	2	3	4
8. OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）の活性化に関する情報の提供	1	2	3	4
9. 中高連携による研修会の充実	1	2	3	4
10. 高大連携による研修会の充実	1	2	3	4
11. 高等学校間の連携による研修会の充実（自主的研修組織除く）	1	2	3	4
12. 近隣の学校の力のある教員に張り付くジョブシャドウによる研修	1	2	3	4

- 10) ①学校教育の中で、子どもたちが次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。また、②子どもたちはそれらの能力や態度を、学校教育の中で実際に見につけていると思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を①及び②からそれぞれ1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	①学校教育の中で 身につける必要性				②学校教育の中で 実際に身につけているか			
	1 と も 高 い	2 え ば 高 い ど ち ら か と い	3 え ば 低 い ど ち ら か と い	4 と も 低 い	1 け て い る と も 身 に つ け て い る	2 て い る え ば 身 に つ け て い る	3 あ ま り 身 に つ け て い な い	4 全 く 身 に つ け て い な い
1. 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 受験に役立つ学力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 自ら学ぼうとする意欲	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 知識・技能を活用・応用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 実際の場面で使える英語力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. コンピュータを活用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 音楽・美術など芸術面の能力や情操	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 体力や運動能力	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 自分の健康を管理する力	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 論理的にものを考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 自分の考えを表現する力	1	2	3	4	1	2	3	4
13. ものごとを計画的に行う力	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 新しいものを生み出す創造的な力	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 善悪を判断する力	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 人間関係を築く力	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 社会で役立つとしようとする心や公共心	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 郷土や国を愛する心	1	2	3	4	1	2	3	4

19. ものごとをやりとげるねばり強さ	1 — 2 — 3 — 4	1 — 2 — 3 — 4
20. 社会生活に必要な常識	1 — 2 — 3 — 4	1 — 2 — 3 — 4
21. 基本的な生活習慣	1 — 2 — 3 — 4	1 — 2 — 3 — 4

11) 長野県の将来の学校教育を考えた時に、どのような子どもたちが増えてほしいと考えますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 とても ほしい	2 い え ば 増 え	3 な い あ ま り 思 わ
1. 将来の夢や目標を持っている子ども	1 — 2 — 3		
2. 住んでいる地域が好きな子ども	1 — 2 — 3		
3. 自分にはよいところがあると考える子ども	1 — 2 — 3		
4. 学校の授業がきちんとわかったと考える子ども	1 — 2 — 3		
5. 学力の高い子ども	1 — 2 — 3		
6. 学校が楽しいと考える子ども	1 — 2 — 3		
7. 先生を信頼している子ども	1 — 2 — 3		
8. 読書が好きな子ども	1 — 2 — 3		
9. 家族や近所の人にあいさつをする子ども	1 — 2 — 3		
10. 将来、社会のために貢献したいと答える子ども	1 — 2 — 3		

12) 子どもたちの学力を向上させるために必要なことは何だと思えますか。目的毎に、以下の項目から最大で3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

a) 主に知識・技能（基礎・基本）を確実に  
定着させるために必要なこと      回答欄 ⇒

b) 主に思考力・判断力・表現力を伸ばすた  
めに必要なこと      回答欄 ⇒

【項目欄】

1.	授業がもっとよくなる3観点を意識した授業
2.	つける力に応じた教材研究
3.	自己追求と共同追求の場をバランスよく取り入れた課題解決型の授業
4.	必ず定着の時間をとり、個に応じた指導を行うこと
5.	解決の過程や発見したことなどを話し合う活動の充実
6.	ノート指導
7.	つまずきの原因をさぐり、やり直しをして定着を図る学習
8.	学力調査問題の授業場面への活用
9.	ドリル等の練習
10.	家庭学習の充実
11.	お互いの授業を見合い、授業力を高める校内研修の充実
12.	体験活動を取り入れた授業
13.	学校全体の系統的かつ連携を図った取組の向上
14.	その他（具体的に _____ )

13) 通知票をつけるとき、次の結果をどれくらい重視しますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 と も も 重 視 す る	2 ま あ 重 視 す る	3 あ ま り 重 視 し な い
1. 定期考査	1	2	3
2. 実力試験	1	2	3
3. 小テスト	1	2	3
4. 宿題や提出物の状況	1	2	3
5. 授業中の態度	1	2	3
6. 出欠席の状況	1	2	3

14) 定期考査についてうかがいます。定期考査の問題を作成するとき、次のことはどの程度あてはまりますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 ま る と も あ て は ま る	2 え ば あ て は ま る ど ち ら か と い は ま る	3 ま ら な い あ ま り あ て は ま る	4 あ て は ま ら な い
1. 教科書から問題を出す	1	2	3	4
2. 学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す	1	2	3	4
3. 学校で使わない問題集・副教材などから問題を出す	1	2	3	4
4. ノートに書かせた内容から問題を出す	1	2	3	4
5. 前年度の定期試験から問題を出す	1	2	3	4
6. 市販のテストを参考になっている	1	2	3	4
7. 全くオリジナルな問題を作成する	1	2	3	4
8. 入試問題に対応した問題を出す	1	2	3	4
9. 観点別学習状況の各項目に合わせて問題を作成する	1	2	3	4
10. 論述式の問題を出す	1	2	3	4
11. テスト問題を練る十分な時間がない	1	2	3	4
12. 総合教育センターの問題を参考にして作成する	1	2	3	4

15) あなたは、教科の授業を進める際にどのような時間の使い方や進め方を心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1 て に 特 に 心 が け て い る	2 多 く 心 が け て い る ま あ 心 が け て い る	3 あ ま り 心 が け て い ない	4 あ ま り 心 が け て い ない
1. 復習の時間	1	2	3	
2. 導入の時間	1	2	3	
3. 教師からの解説の時間	1	2	3	
4. 解説内容についての質疑応答の時間	1	2	3	
5. 実験・実習・実技の時間	1	2	3	4
6. 生徒が考えたり話し合ったりする時間	1	2	3	
7. 生徒の発言や発表の時間	1	2	3	

担当する教科にはない

8. 机間指導や児童に個別に対応する時間	1 ——— 2 ——— 3
9. 練習や演習の時間	1 ——— 2 ——— 3
10. 学習のまとめの時間	1 ——— 2 ——— 3

16) あなたは、教科や領域の授業において、次のような内容をどれくらい心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3
	てに多 いるに特 くに心 がけ よう	いるま あ心 がけ て	てあ いま り心 がけ
1. 基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習	1 ——— 2 ——— 3		
2. 基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習	1 ——— 2 ——— 3		
3. 探究的な学習	1 ——— 2 ——— 3		
4. 定期試験で出題する点の解説や演習	1 ——— 2 ——— 3		
5. 大学入試に役立つ点の解説や演習	1 ——— 2 ——— 3		
6. 資格取得に役立つ学習	1 ——— 2 ——— 3		
7. 職業についてから役立つ学習	1 ——— 2 ——— 3		
6. 上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習	1 ——— 2 ——— 3		

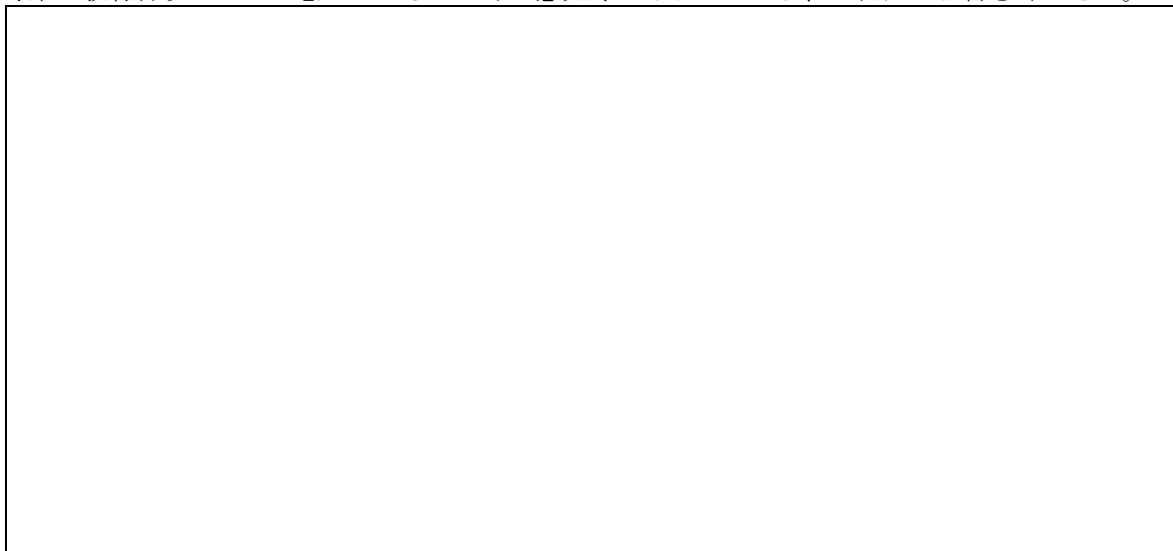
17) あなたは、教科の授業において、どのような授業方法を心がけていますか。以下の各項目について、あてはまる番号を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3
	てに多 いるに特 くに心 がけ よう	いるま あ心 がけ て	てあ いま り心 がけ
1. 教師主導の講義形式の授業	1 ——— 2 ——— 3		
2. 課題把握、個人追求、共同追求といった課題解決型の授業	1 ——— 2 ——— 3		
3. 教科書にそった授業	1 ——— 2 ——— 3		
4. 自作プリントを使った授業	1 ——— 2 ——— 3		
5. 教材を工夫した授業（具体物を使うなど）	1 ——— 2 ——— 3		
6. 自分で調べることを取り入れた授業	1 ——— 2 ——— 3		
7. 体験することを取り入れた授業	1 ——— 2 ——— 3		
8. 表現活動を取り入れた授業	1 ——— 2 ——— 3		
9. 個別学習を取り入れた授業	1 ——— 2 ——— 3		
10. グループ活動を取り入れた授業	1 ——— 2 ——— 3		
11. 自由に議論する授業	1 ——— 2 ——— 3		
12. 教科横断的な授業や合科的な授業	1 ——— 2 ——— 3		
13. 計算や漢字などの反復的な練習	1 ——— 2 ——— 3		
14. 小テストの実施	1 ——— 2 ——— 3		



21) 長野県の教育行政について感じていることやご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。



以上で、質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 教育に関するアンケート調査票（保護者調査）

はじめに

皆様におかれましては、日頃から長野県の教育行政の推進にご協力いただきまことにありがとうございます。

このたび、長野県では子どもと向き合う時間の確保や第2次教育振興基本計画（H25～H29）の検討のため、保護者の意識調査や教員の業務や意識調査を実施することとしました。

本調査は、保護者の皆様の、お子さまの通学している学校や先生の仕事に関する意識、お子様に関する意識を調査し、検討の基本データを集めようとするものです。質問内容は、平成18年度に文部科学省が行った「保護者意識調査」等の質問内容を参考にして作成しており、全国的なデータとの比較検討ができるようにしています。本調査の趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査と併せて実施する学校へのアンケート調査のデータと関連付けて統計処理をする関係から学校名を記入していただきますが、データ内容を学校毎に公表・活用することは一切ありません。データの関連付けをするための記号としての学校名ですので、皆様や学校にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、今後の教育施策の検討に活かされる予定です。

ご多用のなか、誠に恐縮に存じますが、重ねて調査へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

本件 問い合わせ先
担 当 長野県教育委員会事務局教育総務課 (担当)島田俊彦
電 話 026-235-7423 (直通)
ファクシミリ 026-235-7487
電子メール kyoiku@pref.nagano.lg.jp

■この調査票は、設問数14問の質問形式で、所要時間は約20分程度です。

■記入が終わりましたら、もとの封筒に入れ、密封のうえ、お子様にお渡しいただき学校へご提出ください。

■調査票、封筒は無記名のままでお願いします。

12月14日までに、密封のうえ学校へご提出ください。(学校で開封することはありません。)

### ◆調査冊子の構成◆

			ページ
	表紙	.....	1
I	はじめに	.....	2～3
II	保護者意識調査票	.....	4～8

## I はじめに ご自身とお子様について

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の（ ）や  に回答を記入してください。

なお、ここでの情報は回答結果の集計（属性ごとの分析）に用いるためのものであり、個人の特定に使用することはいたしません。

調査票中での「お子様」とは、この調査票を持ち帰られたお子様のことをさします。

### 1) お子様に通う学校名

学校名	小・中・高等学校
-----	----------

### 2) 小中学校の保護者の方にお聞きします。

お子様の学年は、次のうちどちらですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 小学校1年生
2. 小学校2年生
3. 小学校3年生
4. 小学校4年生
5. 小学校5年生
6. 小学校6年生
7. 中学校1年生
8. 中学校2年生
9. 中学校3年生

### 3) 高等学校の保護者の方にお聞きします。

a) お子様の学年は、次のうちどちらですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 高等学校1年生
2. 高等学校2年生
3. 高等学校3年生
4. 高等学校4年生

b) お子様に通っている学科は、次のうちどちらですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 普通科（全日制）
2. 普通科（定時制）
3. 農業科
4. 工業科（全日制）
5. 工業科（定時制）
6. 商業科（全日制）
7. 商業科（定時制）
8. 家庭科
9. 福祉科
10. 総合学科
11. その他（具体的に  ）

### 4) お子様とあなたの続柄は、次のうちどちらですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 父親
2. 母親
3. 祖父
4. 祖母
5. その他

### 5) あなたご自身の年齢（平成23年度11月1日現在）は、次のうちどちらですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 25歳以下
2. 26～30歳
3. 31～35歳
4. 36～40歳
5. 41～45歳
6. 46～50歳
7. 51～55歳
8. 56～60歳
9. 61歳以上

### 6) お子様の通う学校へはどれぐらいの頻度で行きますか。もっともよくあてはまる番号に○印をつけてください。当てはまる番号に○印をつけてください。

1. 全くない
2. 年に1回程度
3. 学期に1～2回程度
4. 月に1回程度
5. 月に2回以上

### 7) お子様を学習塾（ピアノなどの習い事は含みません。）に通わせたり、家庭教師をつけたりされていますか。もっともよくあてはまる番号に○印をつけてください。

1. 全くない
2. 週に1～2回程度
3. 週に3～4回程度
4. 週に5日以上



8) お子様の学校の授業がある平均的な1日についてうかがいます。

a) あなたが出勤する時間（家を出る時間（自宅等で仕事を開始する時間を含む））はだいたい午前何時ごろですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

6時以前	6時ごろ	6時半ごろ	7時ごろ	7時半ごろ	8時ごろ	8時半以降	専ら家事等に従事しており 出勤(仕事)はしていない
1	2	3	4	5	6	7	8

b) あなたが帰宅する時間（自宅等で仕事を終了する時間を含む）はだいたい午後何時ごろですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

5時以前	5時ごろ	5時半ごろ	6時ごろ	6時半ごろ	7時ごろ	7時半ごろ	8時ごろ	8時半ごろ	9時ごろ	9時半ごろ	10時以降	出勤(仕事)は していない
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

c) あなたが、家で新聞を読んだり、読書をしたりする時間はどれぐらいですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

ほとんど しない	15分 くらい	30分 くらい	1時間 くらい	1時間半 くらい	2時間 くらい	2時間半 くらい	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8

d) あなたが、家で音楽を聴いたり、テレビを見たりする時間はどれぐらいですか。当てはまる番号に○印をつけてください。

ほとんど しない	15分 くらい	30分 くらい	1時間 くらい	1時間半 くらい	2時間 くらい	2時間半 くらい	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8

## II 保護者意識調査

下記の項目について、あなたに該当する番号を1つ選んで○印をつけるか、回答欄の ( ) や  に回答を記入してください。

- 1) ①学校教育の中で、子どもたちが次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。また、②家庭教育や学校以外の場で、次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。以下の各項目について、あてはまる程度を①及び②からそれぞれ1つ選び、数字に○印をつけてください。

### 【項目欄】

	①学校教育の中で 身につける必要性				②家庭教育や学校以外の場で 身につける必要性			
	1 とても高い	2 どちらか 高い	3 どちらか 低い	4 とても低い	1 とても高い	2 どちらか 高い	3 どちらか 低い	4 とても低い
1. 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 受験に役立つ学力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 自ら学ぼうとする意欲	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 知識・技能を活用・応用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 実際の場面で使える英語力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. コンピュータを活用する力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 音楽・美術など芸術面の能力や情操	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 体力や運動能力	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 自分の健康を管理する力	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 論理的にものを考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 自分の考えを表現する力	1	2	3	4	1	2	3	4
13. ものごとを計画的に行う力	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 新しいものを生み出す創造的な力	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 善悪を判断する力	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 人間関係を築く力	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 社会で役立つと心や公共心	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 郷土や国を愛する心	1	2	3	4	1	2	3	4
19. ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	1	2	3	4
20. 社会生活に必要な常識	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 基本的な生活習慣	1	2	3	4	1	2	3	4

- 2) 長野県の将来の学校教育を考えた時に、どのような子どもたちが増えてほしいと考えますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

### 【項目欄】

	1 ほし い	2 ま あ 増 え て ほ	3 い あ ま り 思 わ な
1. 将来の夢や目標を持っている子ども	1	2	3
2. 住んでいる地域が好きな子ども	1	2	3
3. 自分にはよいところがあると考える子ども	1	2	3
4. 学校の授業がきちんとわかったと答える子ども	1	2	3





8.	教員と子どもとの関係が良好で、ほのぼのとした温かい雰囲気で開催される授業
9.	基礎基本を確実に身に付け、確かな学力が高まる授業
10.	その他（具体的に _____ ）

10) 子どもたちの体力向上についてお聞きします。

a) 子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために、次のようなことは必要だと思われますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3	4
	要と ても必	ど ちらか いと必 要	あ まり必 要で ない	ま ったく 必要 ない
1. 学校の授業時間での集中的な体力向上	1	2	3	4
2. 学校での運動部活動の推進	1	2	3	4
3. 幼児期（幼稚園・保育所）での体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
4. 社会体育、公民館、総合型スポーツクラブ等での体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
5. スポーツ施設の整備	1	2	3	4
6. 放課後子どもクラブ・子ども教室等の環境整備	1	2	3	4
7. 家庭における体力向上・身体活動の推進	1	2	3	4
8. 登下校に歩くことができる環境の整備（下校時に自由な時間に安全に帰ることができる体制の整備）	1	2	3	4
9. 自由に遊べる場の整備	1	2	3	4

b) その他、子どもたちの外遊びや身体運動の機会を増やすために必要だと思われる事項がありましたら自由に記述願います。

11) あなたのお子様の通われている学校に、次のようなことを望みますか。以下の各項目について、あてはまる程度を1つ選び、数字に○印をつけてください。

【項目欄】

	1	2	3	4
	む と も 望 む	ど ち ら か と 望 む	あ ま り 望 ま ない	ま った く 望 ま ない
1. 子どもの学校での様子をありのまま保護者に伝える	1	2	3	4
2. 子どもの学校でのよいところを保護者に伝える	1	2	3	4
3. 学校の教育方針を保護者に伝える	1	2	3	4
4. 子どもたちの学力を保護者に伝え保護者に協力を求める	1	2	3	4
5. 保護者が気軽に質問したり相談できるようにする	1	2	3	4
6. 講演会などで子育てに役立つ情報を提供する	1	2	3	4
7. いつでも自由に学校を見学できるようにする	1	2	3	4
8. 学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放する	1	2	3	4
9. 保護者がボランティアで学校を支援するしくみをつくる	1	2	3	4
10. 学校の教育方針を保護者の代表が参加する委員会で決める	1	2	3	4
11. 保護者、地域が公民館等地域の施設での通学合宿を行う	1	2	3	4
12. 休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを行う（教員が講師とならない）	1	2	3	4
13. 休日や放課後に子ども向けの社会教育スポーツ活動を行う（教員が講師とならない）	1	2	3	4
14. 市町村教育委員会が、学校と地域との連携の仲介役となる	1	2	3	4

12) あなたのお子様が通学している学校の先生が授業以外にちゃんとやるべきことは何だと思いますか。このページ下部の項目欄からやるべきだと思う度合いの高いものを3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

13) 逆に、学校の先生があまりやらなくても良いと思うものは何ですか。このページの下部の項目欄からやらなくてもよいと思う度合いの高いものを3つまで選択して、回答欄に該当する番号を記入してください。

回答欄 ⇒

【項目欄】

1.	しつけをすること（基礎的な生活習慣）
2.	しつけをすること（礼儀やマナー）
3.	しつけをすること（集団の中でルールを守ること）
4.	集団生活を通じて他人への思いやりの心を育てること
5.	友だちと仲良くすること、友達の作り方
6.	健康に関する教育（喫煙・飲酒・薬物乱用についての指導、性教育などを含む）
7.	食習慣に関する指導
8.	キャリア教育（望ましい勤労観や職業観を育てるための教育）
9.	進路指導
10.	休み時間や放課後に子どもと遊んだり一緒に過ごすこと
11.	放課後などに補習をすること
12.	部活動やクラブ活動に関する指導
13.	児童会・生徒会、委員会や係の活動に関する指導
14.	学校行事（運動会、遠足、文化祭など）に関する指導
15.	体験活動（自然体験、歴史学習、飼育等）に関する指導
16.	奉仕活動（ボランティア活動）に関する指導
17.	児童生徒の安全に関する指導（登下校時や学校外）
18.	学校の教育方針や学級における子どもの様子、学校行事の予定などの情報提供
19.	保護者との電話による連絡、保護者会、保護者面接、家庭訪問など
20.	地域行事への参加
21.	P T A活動
22.	その他（具体的に )

14) 長野県の教育行政について感じていることやご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

以上で、質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。